

南部神楽 調査報告書



岩手県一関市文化財調査報告書第5集

平成28年3月

一関市教育委員会

南部神楽 調査報告書



岩手県一関市文化財調査報告書第5集

平成28年3月

一関市教育委員会

はじめに

県境を秋田・宮城両県と接する一関市は、古くから奥羽・北上両山系の雄大な自然がもたらす恩恵を受け、緑豊かな農村地域として発展してきました。

また、盛岡市と仙台市のほぼ中間に位置し、盛岡・仙台両藩の経済、文化、情報が交差する地理的特性から、両藩の影響を受けながらも独自の文化を育んできた地域でもあります。

一関市を中心とする岩手県南・宮城県北地域には、この地方独特の「南部神楽」が広く分布しています。由緒や来歴については諸説がありますが、幕末から明治ごろに成立したと考えられ、農民によって継承されていく中で、他芸能などの諸要素を取り入れて発展してきました。この地に暮らす人々にとって、神楽といえば「南部神楽」というほど身近な芸能であり、古くから地域に愛され、今日まで伝えられてきました。

しかし、近年の過疎化や少子高齢化などに伴って担い手が減少し、深刻な後継者不足から衰退の危機に直面する団体もあるなど、芸能の保存・伝承が難しい時代を迎えています。

そこで、一関市教育委員会は、今後の保存・伝承の道筋を探るため、平成26、27年度の2カ年、「南部神楽調査研究事業」を実施しました。専門の知識を有する学識経験者で構成する「一関市教育委員会南部神楽調査研究チーム」を設置し、南部神楽が地域の中で生まれ、継承されてきたことに着目して、主に民俗学的視点から「芸態の変遷」「伝承の実態」「芸能と地域との関わり」などについて調査しました。

当市の南部神楽は、住民の連帯意識、郷土愛、古里への誇りなどを醸成する一翼をも担う地域コミュニティの象徴でもあります。本調査の成果をもとに、一関で伝承されてきた南部神楽の価値や魅力が多くの人に再認識され、さらに広がることを期待するとともに、地域の大切な財産として次代へつなぐまちづくりを推進してまいります。

最後になりましたが、本調査にご尽力いただきました追手門学院大学地域創造学部教授橋本裕之様、岩手大学客員准教授千葉信胤様、市内神楽団体及び関係者の皆様、資料や情報を提供いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

平成28年3月

一関市教育委員会
教育長 小菅 正晴

例言

1. 本書は岩手県一関市教育委員会が平成 26、27 年度に行った「南部神楽調査研究事業」に係る調査報告書である。
2. 調査は、市内各地の南部神楽の伝承、芸態、現在の活動の様子を把握、記録し、今後の保存伝承に資することを目的として行った。
3. 調査の一環として行った南部神楽上演会のうち 27 年度実施分（全 4 回）は、独立行政法人日本芸術文化振興会の「平成 27 年度芸術文化振興基金助成金」の補助を受けて開催した。
4. 調査主体は、一関市教育委員会である。
5. 調査体制は以下のとおり。
一関市教育委員会南部神楽調査研究チーム
主席調査員 追手門学院大学地域創造学部教授 橋本 裕之
主任調査員 岩手大学客員准教授 千葉 信胤
調 査 員 一関市教育委員会文化財課文化財調査研究員 東 資子

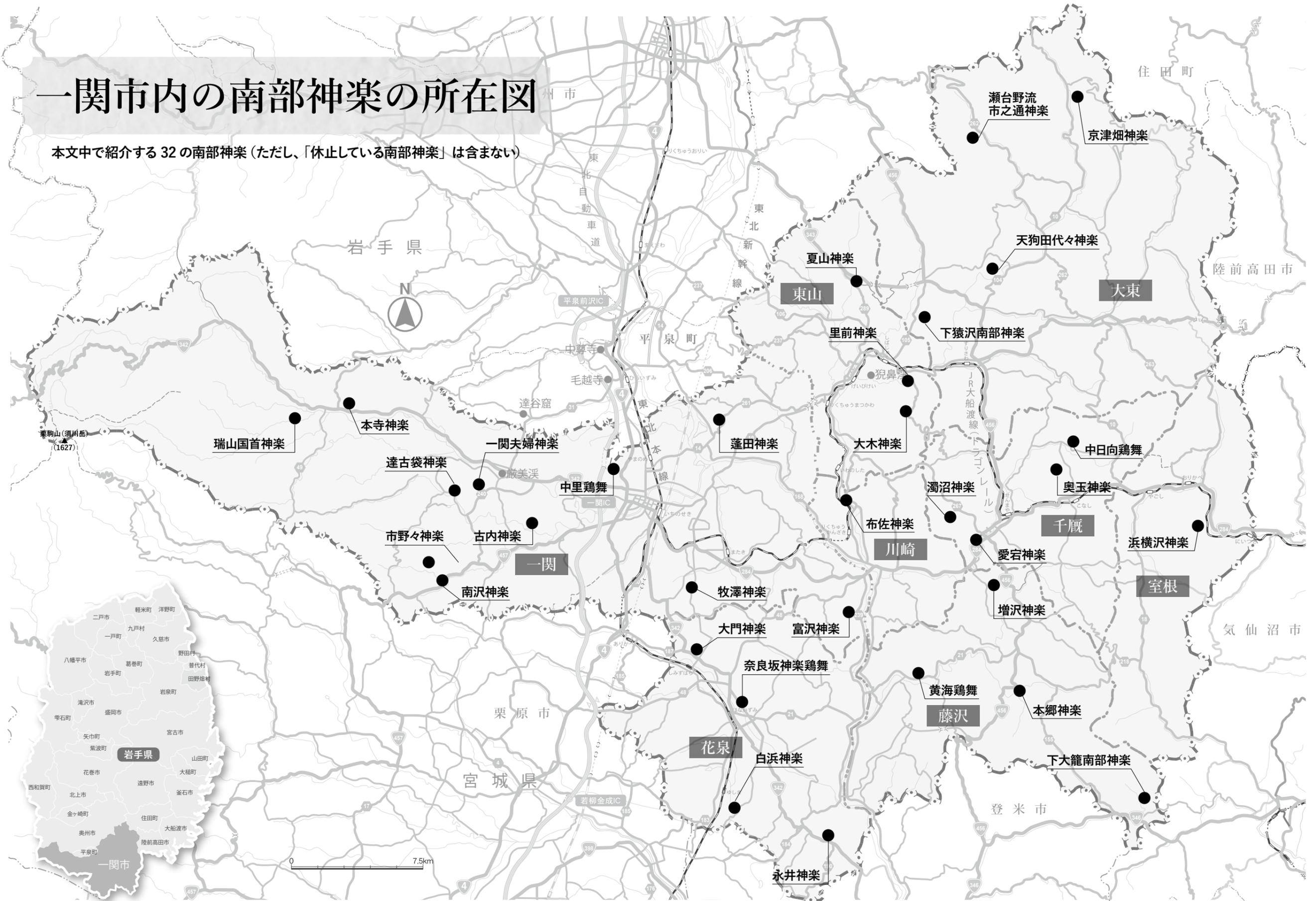
事務局
（平成 26 年度）生涯学習文化課 課長 今野 薫
（平成 27 年度）文化財課 課長 佐藤 武生
文化財係長 畠山 浩
主任主事 小山 充
文化財調査研究員 東 資子
6. 調査期間は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までである。
7. 調査対象は、市内で活動している南部神楽団体を中心にその他の団体、南部神楽（鶏舞）を伝承活動に取り入れている小・中学校などとした。
8. 演目の名称などの表記は、それぞれの団体で伝承されているとおりとし、統一はしていない。
9. 写真は、調査員または一関市ならびに一関市教育委員会が撮影したものである。
10. 岩手県南・宮城県北神楽大会プログラムは巖美市民センターから、東磐井郡下神楽大会プログラムは長澤由利氏と千葉良夫氏からそれぞれ提供を受けた。

目次

はじめに	001	大門神楽	063
例言	002	浜横沢神楽	064
目次	003	奥玉神楽	065
一関市内の南部神楽の所在図	004	中日向鶏舞	065
		夏山神楽	065
		黄海神楽	065
		本寺神楽	066
		奈良坂神楽鶏舞	066
		永井神楽	066
I 南部神楽調査研究事業	007	濁沼神楽	066
調査の経緯と概要	008	下猿沢南部神楽	067
南部神楽研究の過去・現在・未来	010	大木神楽	067
地域社会に埋め込まれた南部神楽	016	里前神楽	067
		一関市の南部神楽一覧	068
		学校教育における南部神楽（鶏舞）	072
		休止している南部神楽一覧	074
II 一関市の南部神楽	025	III 上演会	077
一関夫婦神楽	026	南部神楽上演会事業	078
市野々神楽	028	VOICE「小さな地域の大きな神楽」 <small>（岳神楽保存会小国朋身会長×橋本裕之主席調査員）</small>	078
達古袋神楽	030	蓬田神楽発表会	080
富沢神楽	032	牧沢地区伝統文化再現事業	082
中里鶏舞	034	古内神楽上演会	084
古内神楽	036	中里鶏舞上演会	086
牧澤神楽	038	市之通神楽上演会	088
南沢神楽	040	本郷神楽上演会	090
蓬田神楽	042	白浜神楽上演会	092
白浜神楽	044	天狗田代々神楽上演会	094
京津畑神楽	046		
瀬台野流市之通神楽	048	IV 資料	097
天狗田代々神楽	050	岩手県南宮城県北神楽大会プログラム	098
愛宕神楽	052	東磐井郡下神楽大会プログラム	106
布佐神楽	054		
下大籠南部神楽	056		
本郷神楽	058		
増沢神楽	060		
瑞山国首神楽	062		

一関市内の南部神楽の所在図

本文中で紹介する 32 の南部神楽 (ただし、「休止している南部神楽」は含まない)



I 南部神楽調査研究事業

調査の経緯と概要

南部神楽は、一関市を代表する芸能といわれている。春や秋にはどこかの神社で鶏舞が奉納されており、各地の芸能祭では義経ものなどの演目が繰り返し上演されている。

しかし、これまで必ずしも保護や支援が十分に行われてきたとは言えない。

市は昭和43年(1968)に『一関市文化財調査報告書第5集・6集』で他の民俗芸能とともに市内南部神楽の概要や演技本についてまとめた。また平成7年(1995)には『一関市文化財調査報告書第14集 南部神楽系譜調査報告書』として市内団体の系譜を詳細にし、県内の各地や宮城県にまで及ぶ地域的広がりの中での各団体の位置付けを明らかにした。これらの報告書によって芸能としての南部神楽の位置付けが明らかになり、各団体の系譜が整理された。

南部神楽を芸能として評価できた一方、実際の活動について民俗学的な関心は払われてきておらず、市内にある保存団体の数すら正確には把握できていなかった。

そこで市は、南部神楽団体の全体像の解明と活動状況の把握のために、平成25年度に予備調査を行い、そのデータに基づき平成26年度から2カ年の「南部神楽調査研究事業」を実施した。前岩手県文化財保護審議会委員橋本裕之主席調査員(追手門学院大学教授)に主に民俗学的調査を、千葉信胤主任調査員(岩手大学客員准教授)に研究史の見直しをそれぞれ依頼し、市内の南部神楽を多角的に評価できる枠組みを作り、今後の保護・継承につなげる調査に取り組んだ。

調査によって南部神楽は、従来考えられていた

以上に、祭礼など地域との強い結びつきの中で伝承されていることがわかった。

一方、地域との結びつきが希薄になっている団体も少なくないことが見えてきた。各団体の課題である継承を支援する方策を考える中で、地域との関係性に直接働きかける試みとして「地域公民館上演事業」が橋本氏から提案され、調査事業の一環として、また調査事業の発展形として試行することになった。この試みが各団体からの支持を得て、予想以上の成果を挙げたことは、後述のとおりである。今後は、継続的かつ自主的に地域での上演が行われていくような支援が必要である。

市内の南部神楽は、その時代によって性格や役割を変化させながらも今日まで継承されてきた。それは、地域の安寧を地元神社に祈るためのものであったり、地域の人々が夜長に楽しむ娯楽であったりするなど神事性と芸能性を併せ持っており、状況に応じてそれを柔軟に選択し、自らの芸を磨くことによって継承してきた地域の文化であることを再確認することができた。

調査を担当した橋本裕之氏、千葉信胤氏からそれぞれの視点で南部神楽の評価をいただき(Ⅰ章)、各団体の現在の状況を列記する(Ⅱ章)。また、今回の調査研究事業において特筆すべき取り組みである上演会は、それぞれ記述する(Ⅲ章)。さらに、今回の調査では十分に上げられなかった神楽大会については、過去の演目を掲載して資料化するとともに今後の調査の課題にすることとした。

調査の状況は、次頁の表のとおりである。

調査の状況

地域	芸能の名称	聞き取り	祭礼等
一関	一関夫婦神楽	H26.5.2	H26.5.2(温泉神社例大祭)、H27.9.12(金沢神社祭礼宵宮)
	市野々神楽	H26.6.16、8.20	
	沢田神楽・一関神楽	H26.8.21	
	下黒沢神楽	H27.7.17、11.26	
	達古袋神楽	H26.5.7	H26.4.14(達古袋八幡神社春季大祭)
	富澤神楽	H26.4.18	H26.4.18(田村神社例祭)、H26.11.2(蚕養神社祭祀)
	中里鶏舞踊り隊	H26.11.29	H27.2.28 中里鶏舞上演会
	古内神楽	H26.4.28	H26.11.30 古内神楽上演会
	牧澤神楽	H26.5.7	H26.9.21 牧澤神楽上演会
	瑞山国首神楽	H26.6.9	
	南沢神楽	H27.11.2	H27.10.25(吾勝神社祭礼上演会)
	山谷神楽、山谷小学校神楽	H27.11.4	H27.10.25(収穫祭)
	蓬田神楽	H26.6.6、16	H26.9.6 蓬田神楽上演会(天満宮例祭)
花泉	白浜神楽	H26.6.6、H27.5.8、23、8.30	H26.9.15(涌津神社)、H27.9.26 白浜神楽上演会
	大門神楽	H26.9.8、H27.10.25、11.1	
	永井地区郷土芸能伝承保存会	H26.8.20	
	奈良坂神楽	H26.8.20	
大東	京津畑神楽	H26.12.1	H26.4.6(荒川神社例祭)
	瀬台野流市之通神楽	H26.9.22、H27.6.14	H26.4.29(興田神社例祭)、H27.6.28 市之通神楽上演会
	天狗田代々神楽	H27.7.20、10.24	H27.12.13 天狗田代々神楽上演会
千厩	愛宕神楽	H26.8.19	H27.7.18、20(愛宕神楽祭礼)
	奥玉神楽同好会	H26.8.19	
	新浪神社鶏舞保存会	H26.8.19	
東山	夏山神楽	H26.8.21	
室根	浜横沢神楽	H27.6.29	
川崎	布佐神楽	H26.7.21	H26.4.29(発表会)
藤沢	黄海神楽	H26.9.22	
	下大籠南部神楽	H26.8.20	H27.10.18(神明社神社例大祭)
	藤沢本郷神楽	H26.8.19	H26.9.7(葉山神社例祭)、H27.7.12 本郷神楽上演会
	増沢神楽	H26.12.1	H26.4.27(吉祥寺観音講)
学校	赤荻小学校	H27.4.15、22、5.20	
	中里小学校	H27.5.19	
	萩荘小学校	H27.5.11、21	
	一関東中学校		H27.5.17(運動会)
	萩荘中学校	H27.5.14、16	H27.5.16(運動会)
	本寺中学校		H27.10.24(文化祭)
	金沢小学校	H27.5.14、21	
	永井小学校	H27.5.11、12、23	H27.5.23(運動会)
	花泉小学校	H27.5.12	
	磐清水小学校	H27.5.12	
黄海小学校	H27.5.18		
全域	報告会	H27.12.14	

各調査は、調査員1～3人で行った

ほかに基礎資料として村上護朗氏の『南部神楽』(昭和49年 一関プリント社出版部)、一関市民俗芸能団体協議会南部神楽部会の台本集『一関地方のおかぐら』(平成16年(2004))などもある。

南部神楽研究史

南部神楽研究の過去・現在・未来

一関市教育委員会南部神楽調査研究チーム
主任調査員千葉 信胤のぶたね

はじめに

ここでは、南部神楽に関するこれまでの調査研究活動の歩みを概説する。前半は研究史のあらましを、主として一関地方を中心に時系列にそって概観したい。次に研究史を踏まえつつ、先行研究の問題点を整理し、あわせて今回の「一関市南部神楽調査事業」の取り組みで我々が目指したことや研究史における本調査の位置付けを示す。その上で、これからの調査研究で望まれる事柄を列挙し、南部神楽研究の将来を展望してみたい。

1. 南部神楽の調査研究史

研究の嚆矢

いわゆる南部神楽について研究者の立場から初めて言及したのは本田安次であろう。昭和9年(1934)『陸前濱乃法印神楽』には南部神楽の舞台飾りに関する記録と共に氏の南部神楽に関する所管が散見される。その中でも代表的な一文を紹介したい。

南部神楽 この神楽の起りは一ヶ所だけではなかったらしい。もと素人は神楽を舞うことは禁ぜられていたもので、それでも禁を犯し、夜分山中等にて稽古をなし、或は真似慰む者があった。これらが維新に際し、法印混びると共に大びらに名乗り出し、法印神楽に尚種々の新工夫をこらし、諸祭礼等に演じ出した。(中略) 明治以後、陸中南部、陸前北部一帯に大

流行を来し、殆ど農家の者の副業の観をさえ呈するに至ったもので、妙なことに仙台領では是を南部神楽と称し、南部領では仙台神楽と言ひ、或は風流神楽という所もあり、単に土地々々の名を冠して呼ぶことも多い。舞そのものの中には、折々山伏神楽、番楽、法印神楽、或はけんばい等に脈を引く美しく優雅な型も見受けられるが、その台本は、折角の思いつきあったにかかわらず、手法多く幼稚拙劣で、殆ど見るべきものがない。

(後略)

昭和4年(1929)宮城県の石巻中学校に赴任した本田は、近隣の法印神楽に親しみつつ、たまさか「南部神楽の華麗古雅な女舞」に出会った。それがきっかけで早池峰の神楽へと誘われ昭和17年(1942)、『山伏神楽・番楽』を上梓することになる。南部神楽は早池峰神楽研究への架け橋になった芸能であるにもかかわらず、その評価は上述のとおり非常に手厳しい。わが国の民俗芸能研究の草分けであり、後に第一人者となった本田の見解は研究者や文化財保護行政における南部神楽の位置付けに大きな影響を及ぼすことにもなった。

ただし、本田は上述のような見解を示しながら一方で、南部神楽の芸態や演目について早い段階から調査を進めており、『陸前濱乃法印神楽』に4番の演目台本と神歌13曲、また『宮城県史』には宮城県内

の南部神楽6団体の調査記録を取り上げている。これらはいずれも昭和20年代以前の調査記録であり、その資料的価値は高い。

なお、本田による一連の研究と同時期のものに、高橋梵仙の「陸中萩荘の神楽歌」(昭和10年)がある。本間幸蔵なる一関市萩荘の神楽師匠が明治38年(1905)に編んだいわゆる「カンダイ本」を写したもので、神楽神代記として10演目、神代記6演目が収録されている。高橋は、「神楽の起源並に状態についても述べて見たい事もあるが、其れは後日の機会に譲ることとする」と記すが、続編の情報は得られていない。

また、『郷土の伝承 第三輯』(昭和10年)に「神楽」の一章があり、氏川楢山により「栗原神楽」として宮城県栗原郡における神楽の概要と神楽歌及び7演目のセリフが、成田芳夢により「南部神楽」として鐘巻・篠田の森のセリフおよび数曲の神歌が収録されている。

研究の進展

第二次世界大戦後、主として昭和30年以降であるが、水沢(奥州市)出身の森口多里が岩手県内の南部神楽について芸態を中心に克明な調査を行っており、その成果を『岩手県民俗芸能誌』(昭和46年)におよそ100ページにわたり掲載している。森口は「南部神楽」を用いず、それを「セリフ神楽」と総称している。それは、この神楽が「法印とは関係のない農民の神事舞で、宮城県では南部神楽とよんでいるが、旧南部領の芸態ではない」こと、また山伏神楽と違って登場人物が「高らかにセリフを語る」芸態の特長から「セリフ神楽という名称を仮に用いている」としている。

昭和42年(1967)、一関市教育委員会は民俗芸能調査を実施。ここに初めて市内(旧市)神楽団体の状況が把握され、翌年『一関市民俗芸能調査報告書』としてまとめられた。報告書は神楽だけでなく、鹿子踊、獅子舞、田植踊など芸能全般にわたるが、とりわけ神楽の記述が充実している。市内における神楽の

分布に始まり、由来伝承や流派、舞台・囃子も含めた芸態のほか、個別調査として当時17あった保存団体の由来や現況、さらには「資料」として団体所有の神楽台本4種を翻刻した労作である。本報告書の編集主任として阿部正瑩(市教委社会教育課長)、庶務に佐藤丕基(同社会教育主事)の名が見られる。

他には、当時一関市文化財調査委員だった市内弥栄の滝口千里が私家版の郷土誌叢書として発行した『磐井のほとり』第二輯(昭和44年)に「この地方の神楽」があり、当時の古老から聞き取った伝承などが記されていて貴重である。後に『一関市史第3巻各説II』(昭和52年)に収録される「民俗芸能」の章は滝口が担当しており、神楽については前掲書をベースにしつつ補筆改訂したものであった。

一方、大東町の村上護朗は40年(1965)以降独自に岩手県南・宮城県北の神楽団体を調査し、その研究成果をまとめて『南部神楽』(昭和49年)を自費出版した。地方出版物ながら南部神楽に関する唯一の単行書籍であり、その充実した内容から研究者および神楽団体の師匠等に広く普及した。54年(1979)には改訂再版されている。南部神楽は自治体や地域単位で調査されがちだったが、これにより初めて岩手県南・宮城県北の広範に分布する芸能の全容が把握されたのである。

57年(1982)、千葉雄市の「南部神楽—その祖形と特色」は、全国区で南部神楽を紹介したものとしては、おそらく先述の本田・森口に次ぐものであろう。小論ではあるが、南部神楽の概要を整理分析するとともに各地で開かれる競技大会の盛況ぶりを紹介するなど、簡潔にして示唆に富む内容である。過去の本田による南部神楽の評価を詳細に分析している点も重要である。

なお、この頃になると、それまでとは異なった視点からの評価が現れる。阿部幹男は「わたらいの芸能 奥浄瑠璃」(平成2年)を著し、衰滅した奥浄瑠璃の演目を南部神楽の劇舞が継承していることに注目。「さながら、奥浄瑠璃の演劇ショー」と評価してその重要性を指摘、また、石井正巳が『万狂言本』

の翻刻」(1992)において、一関市巖美町の小猪岡に伝来した南部神楽の狂言本、いわゆる道化台本に注目し、その演目の多様性や出自について「そのあり方というのは、平安末期の『新猿楽記』に記録された、猿楽の徒が演じた数々の物真似と通い合う」と評している。

平成4年(1992)、一関市教育委員会は先述した昭和42年(1967)の民俗芸能調査報告書に携わった阿部正瑩等を中心に3カ年にわたって南部神楽の系譜調査を実施し、その成果を『南部神楽系譜調査報告書』(平成7年)に示した。調査は岩手県南・宮城県北全ての南部神楽団体を対象にしたもので、詳細な系譜分析を中心に「南部神楽」の名称成立等も含めて考察している。また、平成10年(1998)には、佐藤丕基が「一関地方の神楽(南部神楽)」を発表。佐藤もかつての調査に携わった一人であり、おおよそは前述の『系譜調査報告書』によっているが、神楽の後継者づくりについて特に一章を設け、市内の小・中学校における神楽の伝承活動についてまとめるなど、独自の視点からの記述も見られる。阿部、佐藤両者共に、南部神楽の名称成立について自論を展開している点も興味深い。

平成13年(2001)、千葉雄市は東北歴史博物館の研究紀要『宮城県の民俗芸能』で南部神楽を取り上げ、南部神楽成立の背景、様式・芸態、そして「南部神楽」という名称成立の問題等を中心に自身の研究成果をまとめている。千葉の南部神楽研究の集大成であり、それまでの南部神楽研究史全体を踏まえつつ将来の調査・研究における指標を示しており重要である。

一方、平泉町の平泉郷土館(現平泉文化遺産センター)は、平成11年(1999)から3カ年にわたり「伝統芸能伝承団体支援事業」を実施。その一環として南部神楽情報誌『かぐらの「わ」』全9冊(監修・執筆:千葉雄市 編集・執筆:千葉信胤)を刊行した。そのうち本編6冊では、南部神楽の成立や芸態に関する基礎的な内容を軸とし、その舞踊が持つ芸術性に注目して編集した。主要演目、ゆかりの地や伝承団体の活動紹介のほか、阿部幹男の研究成果に基

づき演目に見られる古典文学との関連性に光を当てて継承の重要性を説くなど、南部神楽全般の再評価や後継者育成のヒントを提供することにも配慮した。また、南部神楽に関わる主要な研究成果を集成したデータ編3冊では、伝承団体の分布状況や定期的な発表機会に関する情報も掲載するなど、総体として南部神楽の魅力と課題を紹介しながら、伝承者・鑑賞者・研究者の交流促進を目指したのである。

その後、およそ10年にわたり南部神楽研究に大きな動きは見られなかったが25年(2013)、東北歴史博物館から『南部神楽に親しむ』が刊行された。22年(2010)から3カ年実施された「南部神楽活性化事業」の一環によるもので、執筆した笠原信男はそれまでの研究を網羅しつつ、南部神楽成立の歴史的背景・名称の問題・団体の分布状況・系譜・芸態・演目・奥浄瑠璃との関係に至るまで詳細に調査している。主として千葉雄市による研究成果を引き継ぐものながら、その内容の豊富さは今後、南部神楽研究に取り組もうとする人にとって最良の手引書となった。この笠原による取り組みは、南部神楽研究史におけるマイルストーンとして高く評価されるものである。

以上、南部神楽に関するこれまでの調査・研究を概観するならば、その研究史はおおよそ百年の長きにわたるものの、決して体系的になされてきたものとは言いがたく、その進展も遅々としたものであったといわざるを得ない。そうした中であって、昭和50年代以降における千葉雄市および平成10年代以降の笠原信男による活動は、継続的に南部神楽成立の背景及び伝承団体の系譜・芸態を調査研究した唯一のものとして特筆されよう。

2. 先行調査研究の問題点

地域との関わりという視点から

南部神楽に関するこれまでの調査・研究は、その多くが芸態・系譜や名称の起源に言及するものであった。つまり調査者の関心(まなざし)は常に芸態分析や源流探しに向けられてきたと言っても過言で

はない。筆者が主導した『かぐらの「わ」』もまた芸態を中心に再評価を試みた取り組みの一つであったと言わざるを得ない。

一方で、神社祭礼における儀礼や地域社会において南部神楽が果たしてきた役割・しきたりなど、いわば継承の場における活動の状況や神楽団体を支え続けた周辺との関係・位置付けといった視点からの調査研究が皆無だったことは否めない。

管見する限り、森口多里が水沢市羽田(現奥州市)の出羽神社田植祭で行われる「神招き」以下神事に関わる神楽舞に触れた村上護朗が宮城県石越町の赤谷神楽における神おろしについて数行記すだけであった。

千葉雄市は「神楽を行うなかに、神楽本儀としての儀礼や慣行が定まっていない」「元来、民衆神楽として発生変容をみたもので、神事の神楽ではない」としながら「実態は現在でも神社祭礼において演舞されることが多く、土地の鎮守の付属神楽となっているものが少なくない」と記し、笠原も「神楽とはいうものの神社の関係は直接的というわけではない。しかし、まったく関係がないというわけでもなく、地域の人たちが神楽組を作っていることから、その地域の神社との関係が深まり、地元の神社との結び付きが深まり、神社付属とまでいなくても、神社の祭礼で行われる、あるいは他所で行われる神社の祭礼に招かれる神楽が増えている」としながら、いずれもその具体的に言及されることはなかった。南部神楽の研究において「個々の神楽団体と地域社会の関わりあい」は、ことさら重要な論点とは見なされなかったのである。

しかし、現在活動中の南部神楽団体の大方の状況を見る限り、地域に存在する鎮守社等の祭礼での演舞や学校における発表および伝承活動など、伝承団体にとって地域コミュニティの中で果たしている役割が他の民俗芸能と比べてことさらに小さなものとはいいがたい。

また、個々の伝承団体にとって、毎年各地で催される神楽競技大会や自治体主催の芸能祭などへの

出場・演舞、あるいは他地域の神社例祭や祝儀等に招かれての演舞などが、彼らの活動の中で大きなウエートを占めていることは事実だが、伝承活動を継続し、かつ後継者を育成していく営みの中で彼らのモチベーションを支えているものは、やはり学校を含む地域コミュニティにおける伝承活動の役割や地域社会との関わり合いに求められるのではなからうか。

そのように考えるならば、時代の変遷に流動的であったにせよ伝承活動における儀礼や慣行にはそれなりの意味がある。また、他の神事芸能ほどではないにせよ神社祭礼との関わり合いに目を向け、仮にささやかなものであったとしてもそこから信仰や宗教性の存在をくみ取るなり、慣行の持つ機能を民俗学の視点から批判するなりすることも大切なことではないか。そのためには、南部神楽団体それぞれの活動実態に対する追跡調査は不可欠であり、とりわけ神社祭礼等で神楽が演ぜられる前後も含め、地域コミュニティにおける彼らの姿を注意深く観察することが求められる。それは、個々の団体の由来や系譜を訪ね歩くことにもまして重要であり、かつ総体としての南部神楽を民俗芸能として評価し、その価値を明らかにするためには必要最小限の作業ではなかったか。

さらに、その成果に基づいて地域コミュニティを維持する重要な要素として南部神楽の伝承活動を積極的に評価することができるならば、地域住民による価値の再発見、さらには文化財としての評価も可能となる。民俗芸能が果たしている役割を再認識し、その価値を共有することは、後継者育成をはじめとするいくつかの課題解決に直結するであろうし、伝承活動の促進にも有意義なことと思われるのである。

平成25年(2013)春、岩手県は一関市川崎町の布佐神楽を無形民俗文化財に指定、南部神楽としては岩手・宮城両県において初の県指定団体が誕生した。それまで、民俗芸能の研究者および行政関係者等から等閑視されてきたきらいが、なきにしもあ

らずであり、一関市教育委員会は布佐神楽の指定と前後して、市内の南部神楽伝承団体についても文化財として積極的に再評価すべく調査を進め、26年度(2014)から2カ年にわたり「南部神楽調査研究事業」を実施した。過去の調査・研究の歩みを振り返りながら、課題を整理し、事業に臨んだところである。個々の伝承団体調査では特に「地域との関わりあい」を主眼とし、個別に神社祭礼や学校での活動など伝承活動の現場に足を運び、関係者の生の声を拾うことに努めた。また、単なる芸態・慣行の聞き取りに終始せず、地域において上演会を開催し、伝承活動の活性化を図ることにした。いわば伝承活動の周辺を意図して巻き込み、コミュニティー全体で南部神楽が伝承されることの意義を認め合いながら価値を再発見・再認識し、未来へつなげていく機会と捉えたのである。

いずれにせよ、本調査は南部神楽研究が新段階を迎えた最初の取り組みとして、また、行政による伝承活動支援の試みとして評価されよう。

今後の展望

今後の調査研究の方向性について、主として南部神楽の成立史に関し、私見を述べておきたい。まず系譜調査については、笠原等の研究成果からその全体像が概観できるようになった。今後はそれらを踏まえ、より具体的に内容を深めていくことが望まれよう。また、それとあわせて、南部神楽の影響を受けたと考えられる山形県酒田市の本楯神代神楽をはじめとする庄内地方に伝承される神代神楽や北海道上川郡清水町の松沢神楽など開拓移民に伴って伝播した芸能の調査研究が待たれる。これらは、継承された頃の芸態を一面においてよく保存しており、南部神楽の古態を知る上で重要な手がかりになると思われるからだ。なお、庄内地方の神楽については、すでに戸川安章による「酒田市本楯の神代神楽」(1958～59)、酒田市民俗芸能保存会による「酒田の民俗芸能」(1993)があり、それらに基づいた研究を深めるならば、比較的容易に成果が挙げられよう。

次に、近世仙台藩北部地方で南部神楽以前に存在していた法印(修験)の神楽の実態解明が望まれる。南部神楽の芸態を形成するのは、仙台藩北部地方の法印神楽と盛岡藩早池峰系山伏神楽と見られているが、近世の内陸部における法印神楽の実態は未だ詳らかでない。かつて、千葉雄市が本田安次の調査を踏まえて追跡調査を行い、一定の成果を挙げているが、果たして宮城県北部沿岸地帯を中心に伝承されるいわゆる「浜神楽」と同一のものと断じてよいものか、その確証を得るまでには至っていない。その解明には、今後さらに踏み込んだ調査研究が必要となろう。その際、現存する古い神楽面や詠儀本等の資料集成はもちろんだが、近世の古記録等から思わぬ情報が得られる可能性を指摘しておきたい。かつて、本田安次は文化6年(1809)ごろに成立した菅江真澄の『鄙廼一曲』に「道奥の国胆沢の郡神楽唄」の記載を、また森口多里は天明7年(1787)古川古松軒の『東遊雑記』に栗原郡金成(現栗原市)の神楽についての記述を見つけて紹介したが、このような古記録の発見は今後も起りうる。それらが十分な史料批判を経た上で活用されるならば、近世法印神楽の解明に大いに役立てられよう。

あわせて、岩手県南・宮城県北の内陸部における近世修験の活動についても研究が深められることを期待したい。当地方は近世中期以降、羽黒派修験の勢力が伸張したとされ、神楽の継承や南部神楽成立の背景に羽黒派修験の活躍があったと想定されるが、近世村落に居住した里修験による神楽の伝習・継承の実態などは今のところ不明というほかない。修験研究の進展に伴って、神楽継承の姿もまた浮かび上がってくるのではないかと。

一方、幕末・維新时期に仙台・一関藩内で「南部神楽」と呼称された芸能の実態解明も重要である。すでに千葉雄市の研究により二つの同時代資料が紹介されているが、さらに近年新たに興味深い史料が発見されたことを報告したい。弘化4年(1847)、一関藩医笠原禰庵の手になる画譜『宣寿院様在所御下之節御遊覧每所真写』がそれで、「神楽 於舞台修験勤之」

「南部神楽 黒沢村西光寺」と題された二点の絵が収められている。前者「神楽」は法印神楽の「叢雲」(大蛇退治)とみられるが、後者「南部神楽」はどのように解釈されようか。頭上に毛采、腰に刀を差し、両手に扇・幣束を取って軽快に踊る4人の舞手が描かれている。場所は黒沢村西光寺、現一関市萩荘字中町の西光寺であった。これまでの系譜調査によれば、黒沢の神楽は南部神楽の源流の一つと目されているが、それとの関係も明らかではない。また、本画譜成立の背景から、ここに描かれている「南部神楽」は、当時の一関藩に公認された芸能と見ることも可能である。いずれにせよ、幕末一関藩に「南部神楽」と公称される芸能が存在していたことを示す第一級史料である。「南部神楽」の実像解明には、このような史料の蓄積と研究も必要と思う。

かつて、千葉雄市は「南部神楽」なる呼称について、「現地のものではない、あるいは他所から移入されたというニュアンスが強く感じられる」と語ったが、その指摘は正鵠を射たものと言わねばなるまい。さらに踏み込むならば、その「南部の神楽」が一関地方に定着した経緯は如何なものであったろう。この芸能が抱えるさまざまな特質を考えていく上で、その実態の解明が強く望まれるのである。

南部神楽の伝承活動はその担い手を核に、彼らを取り巻く地域の人々の支えが不可欠である。そして神楽愛好者を中心とする理解者の応援が活動をさらに促進させてきた中で研究者が成し得る事は、調査研究を通して芸能の価値を高めてゆくことにある。その意味からも南部神楽研究が今後ますます進展することを心から願ってやまない。

◆参考 『宣寿院様在所御下之節御遊覧每所真写』より(一関市博物館所蔵)



「神楽 於舞台修験勤之」



「南部神楽 黒沢村西光寺」

◆引用文献(本文の紹介順)

『陸前濱乃法印神楽』本田安次(1924)
『山伏神楽・番楽』本田安次(1942)
「陸中萩荘の神楽歌」高橋梵仙『郷土の伝承 第三輯』所収(宮城県教育会篇1935)
「神楽・舞踊」本田安次『宮城県史19民俗』所収(宮城県1956)
「セリフ神楽」森口多里『岩手県民俗芸能誌』所収(錦正社1971)
『一関市民俗芸能調査報告書』(一関市教育委員会1968)
『南部神楽』村上護朗(一関プリント社1974、再版1979)
「南部神楽—その祖形と特色」千葉雄市『まつりと芸能の研究上巻』(錦正社1982)
「わたらいの芸能 奥浄瑠璃」阿部幹男『芸能』32-5(桜楓社1990)
『「万狂言本」の翻刻』石井正巳『日本私学教育研究所調査資料』

第166号1992)
『南部神楽系譜調査報告書』(一関市教育委員会1995)
「南部神楽の系譜について」阿部正瑩『岩手県南史談研究紀要25』(岩手県南史談会1996)
「一関地方の神楽(南部神楽)」佐藤丕基『郷土の文化シリーズ26』(一関市教育事務所1998)
「南部神楽」千葉雄市『宮城県の民俗芸能』所収(東北歴史博物館2001)
『かぐらの「わ」』千葉雄市・千葉信胤(平泉郷土館1999～2002)
『南部神楽に親しむ』笠原信男(東北歴史博物館2013)
「酒田市本楯の神代神楽」戸川安章『庄内民俗』所収(庄内民俗学会1958～59)
「酒田の民俗芸能」酒田市民俗芸能保存会(1993)

報告会抄録

「地域社会に埋め込まれた南部神楽」

一関市教育委員会南部神楽調査研究チーム
主席調査員

橋本 裕之

1 一関市の南部神楽調査

いくつかの経緯

私が南部神楽と出会ったのは、平成21年(2009)に布佐神楽を見た時です。ずっと民俗芸能の研究者として山伏神楽などを見てきたにもかかわらず、南部神楽は知りませんでした。布佐神楽の一ノ谷の合戦を見た時、私は単身赴任中だったので、娘が別れ際に「パパ行かないで」と言う様子と、神楽の敦盛と妻の別れのシーンが重なって、感動してしまいました。別れることに対する自分の状況をその場面に投影してしまい、感動が引き起こされたのです。

それで、「あ、すごく良いな」と思ったのが最初でした。そこで布佐神楽を訪ね、かかわりが始まり、南部神楽初の岩手県指定無形民俗文化財にすることにつながりました。また、平成22年、23年と一関文化センターの上田崇晶さんに連絡して「一関民俗芸能祭」を見に行き、石川浩会長はじめ一関民俗芸能団体協議会の方々とお会いしました。その時にみなさんから一関市の文化財行政に関するご不満を聞きました。これらが一関市とのかかわりの経緯です。

系譜調査から民俗調査へ

一関市には南部神楽保存団体からの要請があり、また布佐神楽の県指定のこともあってか、南部神楽調査を行うことになり、私に依頼がなされました。しかし、それまで一関市では系譜調査のようなこと

しか行われてきておらず、行政的には民俗芸能に対する取り組みもあまりなされていないという現状だと思いました。無形民俗文化財である以上は、元祖がどこかという話ではなく、今、地域社会の中でどう伝えられているかをきっちりと評価して、また指定してもすぐに解散になることのないように、未来永劫きっちりと伝えていけるような環境を作っている団体であるかどうかを調査の中で明らかにしていくことが必要だと思っています。そのような意味で、私は少し視点を変えて、いわゆる民俗調査をしていきたいと思い、「一関市南部神楽調査研究事業」を引き受けました。

誰も気づかなかった特徴

調査に入るとすぐに、神楽をする本人たちが全く価値に気づいておられなかった特徴に立て続けに出会うことになります。最初に衝撃を受けたのが、達古袋神楽でした。7地区を巡行し、それぞれの地区で鶏舞を奉納していました。これはのちに聞けば、宮城県北部地方では普通のことらしいのですが、南部神楽と地域とのかかわりを強烈に意識させる行事でした。また、富沢神楽は接待原せつたいがはらに祀られている蚕の神様に対して、「上げ神楽」で鶏舞を奉納するとい

います。さらに増沢神楽は吉祥寺の観音講でおばあさんたちの楽しみとして神楽を見せていたのです。こうして、ホールや大会、競演大会で見せるだけではない南部神楽に出会い、地域とのつながりにつ

いて評価し、また働きかけをしていくことに調査の方針が定まったのです。以下でまず地域社会における南部神楽の様態を整理してみます。社寺の祭礼における南部神楽、公民館における南部神楽、小中学校における南部神楽という三つの様態を立ててみました。そして、それぞれがまたいくつかに分けられると思います。また、競演大会における南部神楽についても、従来と違う見方を提示したいと考えています。

2 地域社会における南部神楽の様態

(1) 社寺の祭礼における南部神楽

儀礼としての南部神楽

まず、南部神楽には地元の神社などに呼ばれて鶏舞などを奉納する役割があります。神社への奉納の役割としての南部神楽です。この「地元」には、小さな地区の地元のこともあれば、もう少し広い範囲の「近く」に呼ばれることもあり、大小がありますが、いずれにせよ神社の拝殿において鶏舞をすることです。たとえば、一関夫婦神楽は温泉神社の例大祭、白浜神楽は涌津神社の秋季例祭、京津畑神楽は荒川神社の例祭で、市之通神楽は興田神社の例祭で奉納しました。布佐神楽は熊野神社の例大祭で三宝荒神や鶏舞など複数の演目を拝殿で奉納します。下大籠神楽は山の上にある神明社の例祭、本郷神楽は葉山神社の例祭で奉納します。

そのうち少し特別なのは、蓬田一族の大威徳天満宮という家の神様への鶏舞奉納です。また、富沢神楽は蚕養神社という小さな社を神社としてこの前にブルーシートを敷いて鶏舞をしています。どちらも固有の神々に奉納するという意味で非常に特徴的ですが、地元神社の拝殿での奉納と同じことではありません。そして、先に述べたように達古袋の八幡神社の春季大祭は、7つの集落を巡行してそれぞれで鶏舞を奉納します。昔はそれぞれの神社の前だったということですが、今は公民館になっています。

余興としての南部神楽

次に、拝殿での奉納後に神楽殿や公民館など場

所を変えて、賑わい行事として、つまり余興として神楽をするということがあります。しないところもあります。かつてしていたがやめたところもあります。私が見た平成26年には達古袋神楽も夜には赤谷神楽を呼び、一緒に神楽殿で演目を上演しました。南沢神楽は吾勝神社の例祭の後にお祝い、奉祝行事のような形で上演会をしました。富沢神楽でも蚕神への鶏舞の後に屯所の前に掛け舞台を作って上演会をしました。白浜神楽も涌津神社の中の小さな神楽殿で演目を見せていました。また、愛宕神楽は愛宕神社の神楽殿で余興として上演し、これが「東磐井郡下神楽大会」に肥大化していきました。

布佐神楽は熊野神社での奉納後に、昔はビニールテントで作ったアングラ演劇のような空間で発表会をしていましたが、現在は立派な建物での上演です。下大籠神楽は、神社は山の上なのでほとんど誰も来ないのですが、下の公民館横に立派な舞台を作り、ゲストに石巻の大室南部神楽が参加し、にぎやかに盛大な会をしていました。本郷神楽も神楽殿で上演し、飲み物や食べ物振る舞われる中で地元の人が見ていました。増沢神楽では、吉祥寺の観音講で仮設の舞台を組み、演芸的に南部神楽を上演していました。これらは、地元の人たちの楽しみ、余興としての南部神楽です。

芸能としての南部神楽

さらに、競演大会での南部神楽もあります。芸能として芸を見せる場で行う南部神楽です。とすれば競演大会は悪という話になりがちで、実際に南部神楽にとって良くない部分もあると思っています。しかし、良い悪いという対立的な関係にするよりは、競演大会とは何か、どうしてこのような不思議なものが生まれてきたのか、その経緯を考えてみる必要があるのかと思います。巖美町の「岩手県南・宮城県北神楽大会」は温泉神社の例大祭の余興からの発展形です。今はない「東磐井郡下神楽大会」も愛宕神社の例祭の余興からの発展形

でした。奉納が終わって神楽殿で上演していたのが大きくなって肥大したもので、つまり「社寺の祭礼における南部神楽」の拡大版だということがわかってきました。

他にも宮城県栗原市の北辰神社の「宮城岩手選抜神楽大会」や奥州市の「胆江神楽大会」があります。前者はいわゆる競演大会、後者は賞を出したり序列をつけたりしない鑑賞会のようなものですが、どちらも神社のお祭りの賑わい行事です。いろいろな団体を呼んで競演してもらうというのが、実は競演大会の出発点の一つでした。もう一度、「社寺の祭礼における南部神楽」の枠組みの中で競演大会を考えることによって、ともすれば仮想敵になる競演大会を別の面で見たいと考えました。

(2) 公民館における南部神楽

集落の娯楽としての神楽

私は牧澤神楽が平成21年に公民館でお披露目をした新聞記事をずっと取っておりまして、それを思い出して、地元の公民館での上演会を意識するようになりました。すでに南沢神楽には、自分たちで出版した『南沢お散歩手帖』という本があり、神楽が地域づくりの資源として使われ、公民館は交流事業や神楽の上演の場になっています。

最近行ったのですが、旧山谷小学校での地域の収穫祭では山谷小学校で習った若者たちが鶏舞を披露しました。収穫祭なので、南部神楽のイベントではありません。この時に一番人気があったのは、^{ジェイ ソウル ブラザーズ}J Soul Brothersの曲を踊った高校生のダンスで、みなさん大変喜んでいました。つまり、そういう地域の娯楽全体の中に南部神楽があるという事実が明らかになりました。地元の楽しみのおブションの中に南部神楽が入っているのです。市之通の自治交流会館である宝来館では長い間、よそから芸能団体を呼んでいたのですが、今回、上演会事業によって公民館で自分たちの神楽とともに婦人会などの芸能が披露されて、大変な盛り上がりになりました。

さまざまな範囲の公民館

ところで、いわゆる競演大会ではなく、郷土芸能祭が旧町村などで行われていますが、基本的には中央公民館のようなところで開催していますから、それも公民館における南部神楽であるということが出来ます。集落の娯楽というよりは、地域全体のみなさんに娯楽を提供する場であり、南部神楽だけではなく他の芸能、場合によっては民謡や踊りなども出るような大会です。「大東町郷土芸能発表会」や「一関地方伝承芸能継承交流会」、「岩手県南・宮城県北選抜神楽花泉大会」などです。藤沢では子供を主にした「藤沢町子ども郷土芸能発表会」を継続しています。

これらも公民館の事業だと考えるのであれば、また別の見方があるのではないかと思います。広げて考えるのであれば、「一関民俗芸能祭」は文化センターでの開催なので公民館行事の一つと考えることもできます。このような狭い範囲、広い範囲の公民館での上演が南部神楽の様態であるといっ

(3) 小中学校における南部神楽

三つの取り組み

平成25年に一関市教育委員会が発行した『今、地域の学校がおもしろい』第3集(私たちが受けつぐ地域の行事・伝統芸能)という本があります。学校における民俗芸能の取り組みについて詳細に書かれていて、非常に優れた本です。これを手がかりに学校における南部神楽の調査を進めました。

その結果、小・中学校における取り組みは大きく三つに分けて考えられると思います。1番目は地域学習の教材として取り組む伝統芸能。基本形と発展形があります。2番目は児童・生徒を後継者として位置づけたい保存会の思惑。これも基本形と発展形があります。そして、3番目は地域社会に接続することによって成立した1番目と2番目のハイブリッドです。これは複合形といえるでしょうか。

地域学習の教材

1番目は地域学習の教材として南部神楽に取り組んでいる例です。萩荘の小・中学校、金沢小学校、花泉小学校などが基本形になると思います。萩荘小学校は、市野々神楽の師匠の佐藤慶男さんが長年にわたり情熱的に子どもたちの鶏舞の指導を続けています。金沢小学校は、現在は活動していない大門神楽の小野寺弥さんが指導しています。花泉小学校でも、現在は活動していない奈良坂神楽の及川守さんたちが指導しています。

それらが独自の展開を遂げている発展形として、赤荻小学校と黄海小学校があります。赤荻小学校は、もと山谷神楽の方など教える方がいるのですが、多くを先生が教えていて、いわば学校神楽になっています。民俗芸能というよりは学校芸能という新たなジャンルだろうと思っています。岩手県では中野七頭舞が有名ですが、学校の中で育ってきた、まさに学校芸能です。黄海小学校も黄海神楽をもとにわらび座の鶏舞を導入したということです。黄海神楽の名前ではありますが、別のものになっています。これはどう考えたら良いのでしょうか。伝統ということを考えると否定的な意見も出ますが、学校の中での新しいやり方に取り組んでいると考えれば評価できるでしょうか。どう評価するかはなかなか難しいところがあります。

保存会の思惑

2番目は保存会が主導する例です。保存会として児童・生徒を後継者に位置づけたいと考えており、保存会がしっかりかかわって指導をしています。一関東中学校では富沢神楽と牧澤神楽が地域によって生徒を割ってそれぞれ別に指導しています。後継者になってほしいという淡い願いを込めていますが、さほど成就してないと聞いています。教えても高校が終われば地域から出てしまうからです。永井小学校は永井地区郷土芸能伝承保存会が、涌津小学校は白浜神楽が、川崎小学校は布佐神楽が指導しています。川崎小学校は統合した後、

旧門崎小学校で取り組んできた布佐神楽を継承することを決めて、取り組みを続けています。

ところで、涌津小学校は白浜神楽の千葉良夫さん、萩荘小中学校は市野々神楽の佐藤慶男さん長年携わってきましたが、中里中学校は団体に所属していない三浦博さんがずっと教えてきています。学校中心の神楽師、学校専門の神楽師というような様態が存在しているのかもしれませんが。

ハイブリッド

保存会が主導する例の発展形としてあげたいのは、本寺中学校です。かつてあった三つの神楽を統合して本寺中学校神楽として新しいものを作っている、非常に特異な形態です。本寺神楽の佐藤勲さんが指導を続けていますが、骨寺荘園村遺跡もあって、上演機会も多く、とても上手です。本寺中学校神楽は地域と連動することによって、本寺中学校における鶏舞というよりも本寺中学校神楽、本寺中学校神楽保存会とでもいえるような団体ができているケースとして見ることもできます。三つの神楽をつなぎあわせて独自のものを作ったということは、批判もあるかもしれませんが、今後を考えるうえではおもしろい取り組みだと思いました。3番目として、学校が地域社会に接続していくことによって、1番目と2番目のハイブリッド、つまり混成体が生み出されている例としても見る事ができます。本寺中学校神楽だけではなく、中里鶏舞踊り隊の動きもそのように位置づけられると思います。

(4) 競演大会における南部神楽

競演大会の見方

ここであらためて、競演大会における南部神楽について、功罪を考えてみます。まず、①発表する場としては良い、②技能を向上させる場としても良い、③社会的な認知度を向上させる場としても非常に大きな意味があるといえます。一方で、功罪の罪の側面として、①神楽をイベント化させる危険があったり、②団体の上演や保持を特定の派

手な演目に偏らせてしまったり、③あるいは時間制限によって演目に変質する、という危険性があげられると思います。

このような、功罪をめぐって意見が戦わされる状況が長年続いているのですが、先ほどもお話ししました通り、別の視点を出す必要があると思って、考えてみました。「社寺の祭礼における南部神楽」が発展したという見方を提示することによって、賛否を論じるだけで終わらない広い視野を確保することができるだろうと考えています。

3 手当としての上演会

上演会というアイデア

以上のように、一関市における南部神楽の様態を整理してみました。そして、各団体を回ってお話をしている中で、牧澤神楽の公民館上演のイメージもあり、地元の公民館で上演会を開催することができないかというアイデアがまとまってきました。みなさん「後継者が増えない」とおっしゃるのですが、聞いてみると地元では上演していなかったりします。地元で見せていないのに入りたいという人が出てくるわけではないので、地元で上演し、少なくとも知ってもらうことから始めたら良いのではないかと。徐々にそのような方向が決まってきました。また、布佐神楽を一つの理念形として念頭に置いていたということもあります。

上演会は南部神楽をもう一度、地域社会に埋め戻して、地域社会で南部神楽ができるような関係作りや環境作りをする、手当のようなものです。そうした活動を行政調査の中でお手伝いしていこうと考えたのです。

蓬田神楽上演会

平成26年度の南部神楽上演会のために、まず蓬田さんたちにお話を伺いました。これまでは天満宮の奉納をずっとされていたのですが、一族しか来ないのでお客さんはいない。もちろん一族の祭りですから。それを地域に開いて上演会をしたら

どうかと提案したところ、考えに共鳴して下さって、「渡りに舟」とばかりに決まりました。この時には大変多くの人が来られました。その後、会員のお嬢さんが興味を示してくれて、舞い手になってくれるといううれしい動きもありました。

牧澤神楽上演会

牧澤神楽は上演会というアイデアのもとだったのですが、実際には公民館や地元で常にやっているわけではないということでした。最初は公民館ともいっていたのですが、神社の中に舞台を作ってやりましょうということになりました。この会は、餅つき隊が来てくださって、子供たちが「妖怪ウォッチ」のようかい体操を踊り、非常に楽しい会でした。ここで気づいたのは、山谷の収穫祭で見たようなJ Soul Brothersのダンスやようかい体操と南部神楽を一緒に考えなくてはだめだということでした。地域の楽しみとして南部神楽を見せるということが、多分一番の根っこでしょう。地域の人が演じるいろいろな楽しみの中に南部神楽もある、という当たり前のことを強調しておきたいと思います。

古内神楽上演会

古内神楽では、もうずっと地元では上演してなくて、また後継者がいないので活動ができていないということでした。上演会にも最初は半信半疑だったのですが、最後は非常に盛り上がりました。上演会をするというきっかけで、子供を含めて4人の新人が入り、今はもう見違えるような活動がされています。

中里鶏舞上演会

中里鶏舞は一演目しかありませんから、上演会をするというのはかなり無謀なことでした。そこで、奥州市の小田代神楽、布佐神楽、そして中里鶏舞をもともと教えていた沢田神楽と一緒に出てもらいました。また、シンポジウムを開催して中里中学校の鶏舞を振り返りました。結果的に大変な数

の方々が詰めかける会になりました。中学校の閉校という特別なタイミングでもあったための盛り上がりではあったのですが、その後も中里鶏舞踊り隊の方たちはいろいろな活動を続けておられます。そういうことを後押しできたのであれば、それも効果の一つかもしれません。

市之通神楽上演会

平成27年度の南部神楽上演会は市之通神楽で始まりました。ここは、演目として山の神があるのですが、もう無理だというお話でした。しかし南部神楽にはもうほとんど山の神はないので、大変貴重です。また、長らく地域の公民館でもやっていなかったということだったので、無理に上演会を開催してもらいました。けれども、終わった後には、みなさんが「本当に良かった、良かった」とおっしゃってくださり、今では山の神があちらこちらで呼ばれて演じておられます。

本郷神楽上演会

これはもうご自分たちで企画されているのに乗っただけです。近年は神舞を復活することに力を入れておられて、その活動を契機として、今回は創生100周年という形で式典を考えておられたので、その機会にあわせて上演会にさせていただきました。前の胴取りを務めておられた師匠も暑い中で太鼓を叩かれて、今までの活動を総括する素晴らしい会になったと思います。

白浜神楽上演会

白浜神楽は、各団体から集まったドリームチームで、みなさん達者です。しかし地域的な支えは少ないように感じていました。実は涌津小学校で長いこと教えていらっしゃるにもかかわらず、それを後継者につなげていなかったのです。地域の中でつないでいくことをした方が良いのではないかと。そうしないと今後がないのではないかと。そうお伝えしました。失礼な言い方だったのですが、こち

らの提案に乗ってくださいました。

当日は大変盛り上がりましたが、鶏舞に出た涌津小学校の子供が途中で帰ってしまい、残念に思っていました。そうしたら、最後まで見てくださっていた校長先生が小学校で別途、上演会を開催する手筈を整えてくださいました。そこで依頼されたのは、オーソドックスな劇舞とか式舞とかではなく狂言の作耕舞でした。子供たちにずいぶん受けていました。最初、狂言を見せても南部神楽の理解にはならないと考えていたのですが、それは文化財行政の側の思い込みでしたね。子供たちが喜ぶものであれば、狂言でも良いのだとわかりました。

天狗田代々神楽上演会

天狗田神楽には、5歳から胴を取っていたという才能のある男の子がいて、2～3年しか休んでいないのです。舞い手もたくさんいます。でも、羽衣をしていた上手な女性が亡くなったのでやめた、というのです。他の団体から考えればもったいない話です。そこで、何とかとお願いして、演目はたくさんできないというので、天狗田代々神楽に縁のある中日向鶏舞と夏山神楽に来てもらい、そして岩手県における私の活動を応援して下さっていたユネスコの無形文化遺産の岳神楽をお呼びして、会長の小国朋身さんには対談までしてもらいました。

4 これからの南部神楽

行政調査に関する新しいモデル

今回の調査では、今まで語られていたこととは別の面で南部神楽を評価し、また上演会を行うことができました。調査報告書を刊行することによって調査を終わらせてしまうのではなく、南部神楽を伝承する場自体を支援する実践として、上演会の開催を含めた事業にしました。これは行政調査に関する新しいモデルを提案するものであると自負しています。単に調査するだけではなく、調査によって問題を一緒に解決していく新しい「一関型の行政調査モデル」になったのではないかと考えています。

別の方向性

ところで、白浜神楽の一員でもある阿部良さんは、永井地区郷土芸能伝承保存会を作っておられて、そこで神楽と獅子舞を教えています。その方法は保存会活動に関する新しい様態を示しています。

誤解を恐れずに言うと、あまりやる気がないとも見える「ゆるい」やり方です。一人一年150円で会員を募っておられて、私は10年分だったか納めました。それで一応チラシを作って何曜日の何時と決めて、場所を開けてずっと待っているのです。でも、誰も来ないのだそうです。誰も来なくてもずっと待っていて、せっかく来た人も一年で一度は終わり。次のシーズンはまた新たに始める。強制しないのです。今はガミガミ言う、みんななくなっちゃうからやめた方が良くとおっしゃっていて、とにかく気長に待つということでした。10年でも20年でも待って、自分の後につないでいたら良い、というようなお話でした。それが直ちに素晴らしいというわけではないのですが、私たちが通常考えるとは違って、敷居を低くする新しい方向性だろうと思って注目しています。

ネットワークを作る試み

他にもいろいろな試みを手がけました。旧一関市には協議会がありますが、神楽だけの団体ではありません。また旧町村とは横のつながりがありません。最終的には、今の一関市で神楽協議会みたいなものにならないかと、千葉信胤さんと私が呼びかけ人になって2015年の6月14日に集まりを持ちました。ネットワークを作っていくことは、いろいろな意味で意義があると思います。最後の方は、飲み会になってずいぶん盛り上がりました。

他の取り組みなど

さらに、南部神楽に物質的な基礎を提供している専門店として尾上屋呉服店、京屋、関根太鼓店、小山太鼓店に行き、お話を伺いました。たとえば、衣装店の後ろには装束を縫うおばあさんたちの技術

があったり、太鼓も昔は自分たちで作っていたのができなくなってプロの人たちができて買うようになっていたり、地域社会に埋め込まれた諸技術がありました。こうした諸技術が職業化することによって、各種の専門店が成立したわけです。これも地域社会と南部神楽の関係を考えるうえで取り上げるべきでしょう。

他にも上演会ができないか、上演会とからめて何か協力できないか、何か手伝うことはないか、いろいろ試みましたが、なかなか結びつかなかった団体も正直なところ多くありました。また、今回は音楽について調査できませんでした。さらに系譜調査などは蓄積もあるので、千葉信胤さんにお任せしました。

5 無形民俗文化財としての南部神楽 一関市の無形民俗文化財

一関市には無形民俗文化財指定基準というものがああります。内容は国の文化財保護法と一緒です。つまり、民俗芸能の場合には、①芸能の発生又は成立を示すもの、②芸能の変遷の過程を示すもの、③地域的特色を示すもの、ということが要件となります。ただ、一関市には他の多くの地方公共団体では見られない、無形民俗文化財の保持者又は保持団体の認定基準というものがああり、無形民俗文化財保存技術保持者として個人を指定しています。

個人を指定する人間国宝は無形文化財であって、無形民俗文化財ではありません。民俗は集団が保持者であり、個人は指定されないのが一般的であり、少なくとも国ではありえません。ところが、一関市では蓬田神楽の庭元である蓬田稔さんが、無形民俗文化財保存技術保持者として認定されています。また、瑞山国首神楽のメ切舞という演目が指定されています。演目の指定はとても珍しい例だと思います。今後、検討する必要があるかもしれません。

行政の姿勢

たとえば、国指定になると国がその保護をお願いする、県指定になると県がお願いするということで

す。お願いされた団体とともに、当該の団体が所在する地方公共団体がきちんと取り組むということが想定されているわけです。また、今まで文化財指定を多く出している旧町村は、報告書もたくさん出して、文化財に熱心だったことは明らかです。そのため旧町村の指定ができていたということです。行政がどう取り組んでいるかということも文化財の存在が示しているわけです。なので、文化財になっていないということは、保存会の活動自体が持つ価値の問題ではなく、それを保護する行政がどういう姿勢であるかということも含まれていることになると思います。

無形民俗文化財の要件

あらためて確認すれば、文化財保護法上、南部神楽は無形文化財としては扱われません。歌舞伎や能と同じ扱いにはなりません。では、無形「民俗」文化財として指定することは何を意味するのか、何を期待されているのかを考えてみましょう。無形民俗文化財として指定する時には、四つのことが必要だと考えています。

南部神楽に関して言うと、①各種の演目を伝承している。②民俗的な背景を維持している。イベントでやっているというだけでなく、蚕神を祀っているとか巡行しているとか、地元でやっているということが一つの価値です。古い団体でなくてはいけないということではありません。③地域社会が全体として支援している。地域のコミュニティ活動として取り組んでいることは、非常に大きな評価の対象です。たとえば、布佐神楽は全戸が保存会員なのですが、それはすごいことです。④後継者を養成している。歴史的に素晴らしい価値があっても、このままだと絶滅するような団体の指定は難しいです。後継者を養成していく仕組みをきちんと作っていることが、とても大事です。

現在、文化財保護法は下から支えている法律に文化芸術振興基本法があり、その下にあるのは憲法です。憲法があって文化芸術振興基本法があっ

て、文化財保護法があるってという仕組みになっています。その文化芸術振興基本法の中で規定する民俗芸能は、要するに地域づくりの活動であることが謳われているので、学術的な価値よりもより根底的な法律で地域づくりが、前よりも強く言われるようになっています。これは法律をどう解釈するかという、解釈レベルの問題であるかもしれませんが、大きな方向では文化財も好むと好まざるにかかわらず地域づくりの方向性が必要になってきます。

無形民俗文化財としての価値

以上のようなことが無形民俗文化財に指定される理由だと思います。この中では芸の上手下手は言っていません。もちろん、みなさんは芸をやっているわけですからうまい方が良いのですが、芸が下手なところは文化財になれないということはありません。指定を受けると、変なことはできないから、もっと練習しようと思うようです。けれども、芸が条件ではなく、むしろみなさんがやっておられる上演の様態自体が価値なのですよとっておきたいと思っています。

今後への期待

この2年間いろいろ手がけてきましたが、多くの変化が生まれたように思います。最初に一関文化センターで一関民俗芸能団体協議会の方々から聞いた状況へのご不満に私なりに応えられたのではないかとおもっています。といっても、行政なり私のような外部の研究者が手伝うのは、所詮1回きりです。行政がこういう上演会などをずっとお手伝いしていると、ろくなことはありませんから。これをきっかけにうまく活用していただいて、ご自分たちで盛り上げていってほしいと思っています。

(本稿は平成27年12月14日(月)に一関地区合同庁舎の第一会議室で開催された報告会における報告の内容を文化財課が編集した後、筆者が加筆修正したものである。)

II 一関市の南部神楽

[一関市の南部神楽_1]

一関夫婦神楽

いちのせきめおとかぐら

DATA

- 保持団体の名称 一関夫婦神楽（通称：夫婦神楽）
- 代表 阿部明博（巖美町字沖野々 180-3）
- 会員 8人

「自ら楽しむ」が創始の原点 巖美の神楽大会の発展にも貢献

近所で仲のよい3組の夫婦が自ら楽しむために始めた。芸の道を究める楽しみを追求した団体の演技への評価は高く、イベントなどにも多数出演している。地元の温泉神社での神楽共演会は、やがて規模を拡大し、現在では当市を代表する競演大会「岩手県南・宮城県北神楽大会」へと発展した。当団体はその運営にも深く関わり、巖美地区における神楽の普及に貢献してきた。



【芸能の由来・伝承】

昭和50年（1975）頃、巖美地区では各地の神楽が復活し、盛んに上演が行われていた。そのような環境に影響を受けて、自分たちの楽しみのために茂庭勉氏が世話人となり、友達夫婦と共に「瑞山国首神楽」の舞手小岩孝太郎氏から指導を受けて始めたのが「一関夫婦神楽」である。当初は、「巖美夫婦神楽」と銘打って活動。巖美地区以外からの参加もあったため、昭和54年（1979）に現在の名称に改めた。

会創設当時は、女性が神楽を舞うことは珍しく、結婚式など祝いの席に多く呼ばれた。また、大会での入賞を励みに芸を磨きあつたという。神楽の系統へのこだわりはなく、達古袋神楽、赤荻神楽など自分たちが「よい」と思った団体から指導を受け、演目を増やしていった。

現在は、創始した夫婦以外の会員も加わって、少人数ながら活発な活動を続けている。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数は8人。50代が中心。舞手は4人。夫婦で舞うことが特徴だが、現在は夫婦以外の参加もある。練習は、毎週木曜午後7時～9時、巖美市民センターで。大会前は練習回数を増やす。

【演目】

東下り、五條の橋、二度対面、宝剣納め、羽衣、屋島合戦、彦火火出見尊

【地域との連携、学校への指導】

団体発足以来、春と秋に地元の温泉神社への奉納を欠かさずに行っている。

南沢神楽、達古袋神楽と共に巖美公民館（現巖美市民センター）で披露する神楽公演「かがりび神楽」を行ってきた。現在は休止しているが、復活を望む地域の声に、地元で鑑賞してもらおう機会創出を考えている。

年間の主な活動、伝承活動

平成24年実績

月日	内容(主催など)	場所	演目
3/4	一関市民俗芸能祭(市)	一関市大手町	羽衣
5/2	温泉神社例大祭(氏子)	一関市巖美町	御神楽
5/3	岩手県南宮城県北神楽大会(実行委員会)	一関市巖美町	東下り
6/3	余興(県医療局退職会)	一関市巖美町	宝剣納め
6月	巖美道の駅イベント(道の駅)	一関市巖美町	屋島合戦
7月	余興(喜寿祝い)	一関市巖美町	五條の橋
8/26	余興(結婚式)	東京都	寄せ太鼓
9/16	東北神楽大会(神楽普及会)	宮城県栗原市	屋島合戦
9/24	中里照井神社例大祭(氏子)	一関市中里	屋島合戦、東下り
10月	施設訪問(ボランティア)	一関市真柴	宝剣納め
10/17	温泉神社例大祭(氏子)	一関市巖美町	御神楽
10/28	農業祭(市)	一関市孤禅寺	五條の橋
11/11	文化祭(巖美公民館)	一関市巖美町	五條の橋

[一関市の南部神楽_2]

市野々神楽

いちののかぐら

DATA

- 保持団体の名称 市野々神楽同好会
- 会長 千葉義徳(萩荘字芦ノ口204)
- 会員 15人

先代市野々神楽の伝統を受け継ぎ、 自慢の「鶏舞」を萩荘の児童・生徒に伝承

地域の小・中学校の鶏舞を40年以上にわたって指導している。平成17年(2005)の市野々小学校閉校後は、保護者とともに地元の子供たちの放課後活動「自鏡っこクラブ」の鶏舞指導を続けており、鶏舞を地域の伝統として定着させることに貢献している。

同好会は、先代の市野々神楽の系統を引き継ぐ南沢神楽の会員だった佐藤慶男氏の指導により、鶏舞に特化した活動を展開。市内外からの公演依頼も多い。

【芸能の由来・伝承】

昭和51年(1976)、釣山公園でのイベントで地域の読書会グループの青年たちが鶏舞を発表したことが、発足のきっかけである。

昭和55年(1980)頃には、佐藤慶男氏から習ったせりふ神楽も上演できるようになったが、新しい会員の確保と伝承が思うようにならず、現在は鶏舞だけを継承している。

初代会長は石川有一氏、二代は千葉勝歳氏、三代は斉藤裕氏。現在は四代千葉義徳氏が会を率いる。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員は20～60代の15人(うち女性9人)。

指導する佐藤慶男氏は、昭和45年(1970)の岩手国体で鶏舞を披露した萩荘中学校生徒を指導。

松竹歌劇団(SKD)と協力して子供たちが踊りやすい舞、見て楽しめる舞を創作した。以来、毎年体育祭での発表を指導している。

市野々神楽同好会の鶏舞も「見せる鶏舞」を意識しているという。

現在は、イベント出演などの前に、萩荘市民センター市野々分館で練習している。

【演目】

鶏舞

*平成14年(2002)頃までは岩戸入、三番叟、五條の橋、宝剣納め、五大領(くずし)も上演していたが、現在は継承していない。

【地域との連携、学校への指導】

体育祭の演目として萩荘中学校に昭和44年



(1969)から、萩荘小学校(統合前は市野々小学校)に昭和45年(1970)から鶏舞を指導している。

長年の指導によって、鶏舞は地域の伝統になっており、現在は萩荘小学校PTAに鶏舞委員会が設けられ、保護者の協力もある。会員の中には、小・中学校で指導を受けたかつての児童・生徒(現在のPTA)もいて、子供たちへの指導と同好会は一体的な活動を繰り返している。

さらに、年間を通して地区の子供たち(自鏡っこクラブ)に指導をしており、「平成27年岩手県民俗芸能フェスティバル」(県教育委員会ほか主

催)に子供たちを出場させるなどしている。

【その他】

『一関市史第4巻』740頁には、「自鏡山の法印神楽から発達した本郷神楽と山谷神楽系の赤猪子神楽が統一されたものが市野々神楽であり、代表は山本将実氏、神楽仲間18人」とある。これは、先代の市野々神楽である。先代市野々神楽を継承した南沢神楽の指導を受けたのが、現在の市野々神楽である。

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月日	内容	場所	演目
春	藤原まつり	平泉町	鶏舞
	一関民俗芸能祭	一関市大手町	鶏舞
夏	一関夏まつり	一関市内	鶏舞
秋	藤原まつり	平泉町	鶏舞
	敬老会	市内	鶏舞

[一関市の南部神楽_3]

達古袋神楽

たっこたいかぐら

DATA

- 保持団体の名称 達古袋神楽
- 会長 小岩恭一(萩荘字上要害17-1)
- 会員 9人

神輿と共に巡行して鶏舞を披露 達古袋が誇る地域の芸能

年間を通して多くの出演依頼を受けている。各種大会やイベントだけでなく、地域行事で披露する機会も多い。地元の達古袋八幡神社春季大祭には、神社への奉納とともに神輿に付いて、氏子の7地区を巡行して鶏舞を披露するなど、地域の芸能として定着している。

【芸能の由来・伝承】

八幡山常学院の修験相模坊が達古袋八幡神社に法印神楽を奉納したのは文明10年(1478)頃と伝えられる。その法印神楽を、遅くとも弘化年代(1844～)には伝承したといわれるが、明治2年(1869)に庭元が火災に遭って記録類が焼失、詳細は不詳である。初代～十四代の歴代継承者名簿が残されており、明治5年(1872)以降の継承は確かだ。

庭元は、初代石川卯太郎氏、二代小野寺伊三郎氏、三代阿部徳太郎氏、四代小岩勝蔵氏、五代小岩利右衛門氏、六代小岩彦三郎氏、七代佐藤堪右衛門氏、八～十三代阿部長治氏、十四代阿部孝氏、十五代鹿又利雄氏、現在は第十六代小岩恭一氏。明治22年(1889)に写した台本『神代神楽之巻』を所有している。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数は9人(うち女性5人)。保存会を設立しており、毎年12月末(または1月)に総会を開いている。規約はない。

練習は毎週火・木曜午後7時30分～9時30分。かつては、庭元宅で練習したが、昭和63年(1988)頃から厳美公民館達古袋分館(現厳美市民センター達古袋分館)で、近年は松原自治公民館で行っている。

【演目】 * []は現在上演していない演目

- ・鶏舞
- ・神代神楽 三番叟、岩戸入、岩戸開、[岩長化身の舞]、[魔王退治]、瓊瓊杵尊、彦彦出見尊、[八岐大蛇退治]、羽衣、宝剣納め、翁舞
- ・狂言 [田村一代]、田村二代、[田村三代]、安部保名、屋島合戦、一の谷、[日光権現]、五條の橋、[鞍馬山合戦]、牛若丸・秀衡公二度対面の場、屋島合戦

・その他 弁慶安宅関(佐藤正行氏=栗原、現鎌倉市在住=から伝授)、[鬼一法眼]、[三熊大人]、[山神舞]、[八幡舞]、明神舞、[五代龍]、[老松若松]、[西宮太神宮由来]、[御神楽歌]、降神の舞(平成24年に赤谷神楽から伝授)

【地域との連携、学校への指導】

昭和47年(1972)から達古袋小学校運動会の鶏舞を指導したが平成24年(2012)に閉校。翌25年、保護者らが「達古袋子供鶏舞保存会」を発足し、継承に取り組んだが現在は中断している。厳美中学校には、平成15年(2003)から文化祭で披露するための鶏舞を指導している。

【その他】

- ・一関市指定無形民俗文化財芸能保持者：阿部長治氏(昭和51年指定、61年死去により解除)
- ・一関市無形民俗文化財選定保存技術保持者：阿



部孝氏(平成11年選定、17年死去により解除)

年間の主な活動、伝承活動

平成27年実績

月日	内容	場所	月日	内容	場所	演目
1/18	南部神楽「わ」 神下し(延年閣)	平泉町 宮城県栗原市	8/14	達古袋盆踊り	一関市萩荘	御神楽
2/1	石越神楽大会	宮城県栗原市	8/16	延年閣南部神楽公演	宮城県栗原市	岩戸入り
2/15	延年閣南部神楽公演	宮城県栗原市	8/28	平泉歌舞伎	平泉町	岩戸開き
2/21	厳美小鶏舞引継ぎ会	一関市厳美町	9/11	県体育指導員研修	一関市	降神の舞い
2/22	知勝院上演	一関市厳美町	9/13	東北神楽大会	宮城県栗原市	瓊瓊杵尊ノ巻
3/1	一関民俗芸能祭	一関市大手町		岩出山真山荘の祭典	宮城県大崎市	羽衣
3/14	東京披露(松元美樹氏) 岩手の民俗芸能祭	東京都 盛岡市	9/18	赤荻観音寺上演	一関市赤荻	田村二代
3/15	延年閣南部神楽公演	宮城県栗原市	9/19	平泉熊野神社祭礼	平泉町	安倍の保名
4/19	延年閣南部神楽公演	宮城県栗原市		三関神社祭り	一関市三関	屋島合戦
5/3	八幡神社春祭り 岩手県南・宮城県北神楽大会	一関市萩荘 一関市厳美町	9/20	延年閣南部神楽公演	宮城県栗原市	五條の橋
5/17	厳美中学校運動会	一関市厳美町		みわ神社	宮城県栗原市	牛若丸秀衡公二度対面の場
5/23	厳美小学校運動会	一関市厳美町	9/21	佐沼お祭り	宮城県登米市	弁慶安宅の関
5/31	花山温泉温湯山荘神楽	宮城県栗原市	9/27	鶯沢八幡秋祭り	宮城県栗原市	
6/6	日光二荒山神社神楽奉納	栃木県日光市	10/2	一関中学校文化祭	一関市	
6/7	日光東照宮神楽奉納	栃木県日光市	10/4	日光東照宮神楽奉納	栃木県日光市	
6/14	石越神楽大会	宮城県栗原市	10/17	平野神社神楽大会	宮城県栗原市	
6/28	延年閣南部神楽公演	宮城県栗原市	10/24	平泉長島稲刈り(たんぼアート)	平泉町	
7/4	江刺藤原の里南部神楽公演	奥州市江刺区	10/31～	一関平泉フェア(東京三越)	東京都	
7/26	佐沼祭り 延年閣南部神楽公演	宮城県登米市 宮城県栗原市	11/1	屯所落成(達古袋)	一関市厳美町	
			11/22	福祉祭り(厳美中出場)	一関市	
			12/6	伝承交流大会(厳美小出場)	舞川郷土伝承館	
			12/12	支援協議会	宮城県大崎市	
			12/20	神上げ(延年閣)	宮城県栗原市	

[一関市の南部神楽_4]

富沢神楽

とみざわかぐら

DATA

- 保持団体の名称 富沢神楽保存会
- 会長 佐藤徹(弥栄字運南田136)
- 会員 10人

途絶えた神楽を地元が支え復活 後継者育成にも力を注ぐ

地域の神楽を途絶えさせまいと、地元が支え、復活させた神楽である。地域の産業である蚕を祀る蚕養神社への奉納を行い、回り宿で神楽を披露した。現在は、掛け舞台を組んで飲食しながら神楽を楽しむ上演会を行い、伝統をつないでいる。各種大会やイベントに多数出演する一方、小学生の指導や消防団員を会員に勧誘するなど、後継者の確保育成にも力を注ぐ。

【芸能の由来・伝承】

明治20年(1887)頃、佐藤林之丞氏が庭元になり、花泉村(現花泉町)の飯倉神楽小野寺忠七氏を招いて創設したが、大正初期に途絶えた。

昭和3年(1928)、佐々木民治氏が発起人になり、佐藤甚之助氏を庭元に、飯倉神楽の高橋衛氏を招いて再興。しかし、後継者不足で昭和40年(1965)頃途切れた。

神楽を知る人が2、3人だけになった昭和50年(1975)、佐々木誠吾氏が弥栄公民館(現弥栄市民センター)から弥栄地域全世帯(約400世帯)に呼び掛けて後援会を発足。寄付を集めて衣装などをそろえた。飯倉神楽の菅原茂氏を招いて練習を重ねたほか、大門神楽の菅原讓氏、小野寺弥氏からも指導を受けた。

庭元は、初代佐藤林之丞氏、二・三代佐藤甚之助氏、四代佐藤利男氏、五代千葉清人氏(五代から六代の期間が空く)、六代佐藤登氏、七代渡辺順司氏。現在は、八代佐藤徹氏。

明治初年頃の面があり、塗り直しや補修をしながら今もお利用している。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数は10人。20～70代。平成19年(2007)頃に保存会規約を定めた。練習は、毎月第2、第4土曜、地域の消防コミュニティーセンターで行っている。

途絶えていた蚕養神社奉納後の上演会を平成10年(1998)頃に復活。25年(2013)からは、消防コミュニティーセンター前に掛け舞台を作り、再開した。27年(2015)には、小・中学生、女性の鶏舞も上演し、地域の人たちが飲食を楽しみながら鑑賞してる。20、30代の消防団員3人が加わり、会に活力をもたらしている。

【演目】

鶏舞、三番叟、岩戸入、岩戸開、おろち退治、国授、宝剣納め、義経物語、信田ヶ森、扇の的、皆鶴姫ゆりあげ浜漂着の場、曾我兄弟、法童丸母子対面の場、一ノ谷妻別れ、一ノ谷首打ちの場

【地域との連携、学校への指導】

昭和50年代から弥栄中学校で鶏舞を指導している。平成20年(2008)に一関東中学校に統合し



た後は、牧澤神楽保存会とともにそれぞれの地域の生徒への指導を継続し、体育祭で披露している。体育祭当日は、囃子を担当するほか保存会が草鞋を準備するなど、物心両面で支えている。

昭和60年(1985)からは、弥栄小学校でも運動会の鶏舞を指導。さらには、総合的な学習の時間に、地域の特色(養蚕とそれを祀る神楽)について講話をしている。

年間の主な活動、伝承活動

平成27年度実績

月日	内容	場所	演目
4/5	延年閣公演	宮城県栗原市	曾我兄弟
4/18	田村神社 春例祭	一関市字釣山	法童丸
5/3	厳美神楽大会	一関市厳美町	法童丸
5/8～16	一関東中鶏舞指導	一関市滝沢	鶏舞
5/11～21	弥栄小鶏舞指導	一関市弥栄	鶏舞
5/16	一関東中体育祭	一関市滝沢	鶏舞
5/23	弥栄小運動会	一関市弥栄	鶏舞
6/14	石越神楽大会	宮城県栗原市	法童丸
6/21	延年閣公演	宮城県栗原市	法童丸
7/4	江刺藤原の郷公演	奥州市	扇の的
7/19	みちのく神楽大会	宮城県栗原市	法童丸
8/16	延年閣公演	宮城県栗原市	五条の橋
8/19	特養ホーム寿松苑慰問	一関市川崎町	五条の橋
9/13	東北神楽大会	宮城県登米市	法童丸
9/15	一関八幡神社奉納神楽	一関市字釣山	岩戸開き
9/18	北辰神社神楽大会	宮城県栗原市	扇の的
9/19	Hirasawa food market 開店記念公演	一関市弥栄	鶏舞、岩戸開き
10/3～4	日光東照宮400年式年大祭奉納神楽	栃木県日光市	

月日	内容	場所	演目
10/8	檀原神社奉納神楽	一関市赤荻	五条の橋
10/17	弥栄地区いやさか祭り	一関市弥栄	敦盛首討ちの場
10/18	延年閣公演	宮城県栗原市	敦盛首討ちの場
10/24	山目5民区敬老会 「カグラメグル」	一関市山目	扇の的 敦盛首討ちの場
10/29	月館神社奉納神楽	一関市花泉町	扇の的ほか
11/3	蚕養神社奉納神楽	一関市弥栄	大蛇退治
11/8	延年閣公演	宮城県栗原市	法童丸
11/10	特養ホーム明生園慰問	一関市滝沢	扇の的
12/12	鳴子農民の家公演	宮城県大崎市	扇の的
12/20	延年閣公演	宮城県栗原市	法童丸
1/17	延年閣公演	宮城県栗原市	扇の的
2/9	弥栄小3学年総合学習	一関市弥栄	
2/11	特養ホーム関生園慰問	一関市真柴	鶏舞
2/28	志波姫地区神楽鑑賞会	宮城県栗原市	法童丸
3/6	岩手の民俗芸能祭	盛岡市	扇の的
3/13	一関民俗芸能祭	一関市大手町	国授

[一関市の南部神楽_5]

中里鶏舞

なかさととりまい

DATA

- 保持団体の名称 中里鶏舞踊り隊
- 代表 齊藤裕美(山目町二丁目1-19 中里市民センター内)
- 会員 30人

伝統の鶏舞を絶やすまいと 地元住民が地域の「宝」をつなぐ

中里の子供たちならみんなが踊れる鶏舞を、地域の伝統だった「中里中学校鶏舞」を途絶えさせないよう、との熱い思いで始まった。小学生から師匠までが楽しみに集いつつも、真剣に練習を重ね、現在では多くのイベントなどに出演している。かつては、沢田神楽が奉納していた愛宕神社に鶏舞を奉納するなど、地域の神楽としての活動を着実に広げている。

【芸能の由来・伝承】

中里中学校は昭和54年(1979)から鶏舞に取り組み、体育祭等で上演してきた。

しかし、平成27年(2015)4月の山目中学校との統合で磐井中学校となり、閉校後は伝統の鶏舞を中里小学校へ継承することになった。地域の人たちは、公民館事業を活用して鶏舞を習得し、小学校の指導役になることにした。その活動は止まることなく、各種イベントへの出演依頼も寄せられるようになり、活動を定例化させていった。

沢田神楽の指導で始まった中里中学校鶏舞は、同神楽を習得した三浦博氏によって指導、継承されてきた。同好会の発足にあたっては、博氏が指導したほか、同神楽の三浦良一氏、加藤栄氏、吉田カヅ子氏らも指導に駆けつけ、あらためて沢田神楽の鶏舞の継承がなされた。

沢田神楽は古くから中里にあった前堀神楽と大

林神楽を師匠に昭和45年(1970)頃始まったという。活発な活動時期もあったが、近年は活動できない状況にあった。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

30人(太鼓2人、指導者4人)。中里中学校の鶏舞として定評がある華やかな舞を引き継いでいる。部分をつないで、舞台用演目の再構成なども行っている。

【演目】

鶏舞

【地域との連携、学校への指導】

平成27年(2015)から運動会で披露する中里小学校児童を指導。運動会前に指導を行ったほか、当日も一緒に踊って盛り上げた。



年間の主な活動、伝承活動

平成27年度実績

月日	内容(主催など)	場所	演目	月日	内容(主催など)	場所	演目
4/21~24 5/11~22	中里小鶏舞練習応援	一関市中里	鶏舞	10/24	室根大祭行事 第7回創作太鼓フェスティバル	一関市室根町	鶏舞
5/23	中里小着付け応援	一関市中里	鶏舞	11/1	笑星's 縁日(東山町地区民俗文化祭)	一関市東山町	鶏舞
7/5	DVD(踊り方解説付き)作成(中里市民センター)	一関市中里	鶏舞	11/7	中里地区民俗文化祭(展示部門)	一関市中里	鶏舞
7/11	退職校長会(西磐井地区)	一関市巖美町	鶏舞	11/8	中里6民区交流会	一関市中里	鶏舞
7/25	中里農協青年部主催生ビール大会	一関市中里	鶏舞	11/21	小野寺克実さん祝賀会	一関市山目	鶏舞
7/27	一関第1地区完工祝賀会	一関市山目	鶏舞	11/28	社会福祉協議会ゆいっこ広場	一関市大手町	鶏舞
8/6	中里夏まつり(時の太鼓出発)	一関市中里	鶏舞	11/29	中里地区民俗文化祭(舞台部門)	一関市中里	鶏舞
9/3	あすなろまつり	一関市山目	鶏舞	12/13	鶏舞研修会	一関市中里	鶏舞
9/13	中里地区敬老会	一関市山目	鶏舞	1/27	中里小着付け教室	一関市中里	鶏舞
10/10	富士大学学園祭	花巻市	鶏舞	1/22、29、2/5、12、19、26	鶏舞講習会	一関市中里	鶏舞
10/11	もちサミット	一関市狐禅寺	鶏舞	2/10、26	中里小鶏舞指導	一関市中里	鶏舞
10/20	恵美須講秋祭り(稻荷神社)	一関市山目	鶏舞				

[一関市の南部神楽_6]

古内神楽

ふるうちかぐら

DATA

- 保持団体の名称 古内神楽保存会
- 会長 千葉悦雄(萩荘字野手倍93)
- 会員 10人

上演会を機に若い後継者を確保 伝統つなぐ取り組みが始動

古い系譜の一つとされる下黒沢神楽から直接指導を受けた団体。市指定有形民俗文化財の「蛇面」ほか、古くから伝わる面を多数所有している。後継者確保への不安があったが、現在は30歳代女性など新加入者が活動を盛り上げている。平成26年(2014)に自治公民館で行った上演会の恒例化を目指し、翌年12月にも上演会を行うなど、伝統をつなぐ新たな動きが生まれている。



【芸能の由来・伝承】

萩荘字大久保の春日神社には、別当三学院が法印神楽を奉納していたと伝えられる。

弘化年間(1844～48)には、徳右エ門が下黒沢神楽から南部神楽の指導を受け、現在の古内神楽になったという。その後、古内神楽から巖美神楽、大門神楽(現花泉町)、中野神楽(現宮城県栗原市)へ伝承されたといわれている。

昭和30年代までは宮元^{みやもと}で練習しており、一人前になると家族を呼んで師匠の前で踊る「初披露」をした。

面の銘は「蛇面」の天保12年(1841)が最古だが、明治13年(1880)の「荒面」など明治期のものも少なくない。装束は明治期のもの、神楽本は「一関市文化財調査報告書」(昭和43年)に掲載の「神楽之古事秘伝、天磐戸秘伝、略本」(明治19年)などがある。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

平成26年(2014)4月の調査時、会員は50～70代の7人。若い世代の加入がなく、継続に不安があった千葉悦雄会長は「これまで男性だけで継承してきたが、今後は女性の加入も検討しなくて

は」と話していた。

その後、上演会を機に会員が増え、現在は30～70代の男女10人になった。子供の参加もある。これまで、公演前にだけ集中していた練習を、古内自治公民館で定期的に行うことにしている。

【演目】 * []は現在上演していない演目
鶏舞(神社では「御神楽」という)、三番叟、岩戸入、神別れ田村二代、五條の橋、屋島谷戦^{みやまかっせん}、[おろち退治]、宝剣納め、秀衡対面^{ひでひら}、[八幡舞]^{はちまんまい}

【地域との連携、学校への指導】

かつては、地域の八幡様や春日神社(要害)に奉納していたが、平日の昼間に参加できない会員が増えたため、昭和50年(1975)頃から奉納していない。地域の祭り「萩荘祭」では、毎年神楽を披露をしている。

今後は、地元公民館での上演会を定着させる方針だ。

【その他】

・一関市指定有形民俗文化財「神楽蛇面」(昭和48年11月3日指定)

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月	内容(主催)	場所
3月	一関民俗芸能祭(一関民俗芸能団体協議会)	一関市大手町
8月	北上みちのく芸能まつり(北上観光協会)	北上市
11月	萩荘祭(コンベンション協会)	一関市萩荘

[一関市の南部神楽_7]

牧澤神楽

まぎさわかぐら

DATA

- 保持団体の名称 牧澤神楽保存会
- 会長 阿部繁行(真柴字鴻ノ巣46)
- 会員 8人

地元で絶大な人気を誇った神楽を 家族と仲間たちが継承

地元で絶大な人気を誇った神楽を継承するため、初代庭元の子、孫やその仲間たちが不断の努力で再興した。先々代の庭元の葬儀で「牧澤神楽を継ぐのはおまえだ」と言われた孫が、必死の思いで周りを動かし たという。昔の芸を忠実に受け継ぎつつ、新しい工夫も施しながら、積極的な活動を展開している。

【芸能の由来・伝承】

明治42年(1909)、八幡神社への奉納神楽を行うため、飯倉神楽(現花泉町)から菅原貞四郎、菅原惺、高橋衛の3氏を師匠に招き、伝承した8人が牧澤神楽を創設。活発な活動は、地元で高い人気を誇ったという。

昭和60年(1985)頃から後継者不足のために活動を休止していたが、平成14年(2002)4月に家族と友人の有志が保存会を発足。再興の一步を踏み出した。以来、神楽本と演技映像を見ながら昔の神楽を復活させ、今日まで繋いでいる。

最近では、次世代を担う女児も参加するなど家族と仲間たちによって伝承されている。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数は8人(太鼓1人、平手鉦2人、舞手5人)。会長宅の練習場で毎週金曜日に練習している。また、5～11月の第1土曜に集会所で地域の

子供たちに指導している。

奉納では、式舞を先に舞う決まりがあることから式舞の練習に力を注ぐ。昔の映像どおりに言葉を発する方がホコ(幣束)を出し、話を受ける方が扇子を出している。

【演目】

- ・式舞…三番叟、神分かれ、岩戸入、岩戸開、御室焼き、彦彦出見命、宝剣納め、羽衣、石童丸
- ・劇舞…敦盛妻別れ、法童丸親子名乗、葛葉物語、葛ノ葉子別、東下り、法掛け、五條ノ橋千人切

【地域との連携、学校への指導】

昭和38年(1962)、当時の真滝中学校長から指導の依頼があり、体育祭発表用の鶏舞を指導した。同時期に牧澤地区子供会に対しても鶏舞指導を始めた。神楽の活動が中断した時期にも学校への指導は続けた。



一関東中学校は、平成20年(2008)の統合の際、真滝の牧澤神楽と弥栄の富沢神楽の二つを、そのまま地域ごとに引き継ぐことにし、現在も体育祭では二つの鶏舞を披露している。平成14年(2002)から運動会に鶏舞を取り入れた滝沢小学校も指導している。

【その他】

- ・一関市無形民俗文化財芸能保持者：阿部繁雄(昭和51年指定、56年死去により解除)
- ・『神楽神代記』(大正13年以降)を所蔵。[『一関市文化財調査報告書』62頁(昭和43年)]

年間の主な活動、伝承活動

平成27年度実績

月日	内容	場所	演目
5/16	東中学校運動会	一関市滝沢	鶏舞(中学生)
5/23	滝沢小学校運動会	一関市滝沢	鶏舞(小学生)
7/5	一迫 あやめ祭り	宮城県栗原市	生田が森墓所
8/1	真柴コミセン交通安全	一関市真柴	鶏舞(12区子供会)
8/9	真滝11区夏祭り	一関市真柴	鶏舞(子供)、三番叟
9/12	北辰神社選抜神楽大会	宮城県栗原市	生田が森墓所
9/13	大川口八幡神社例大祭	宮城県栗原市	鶏舞、敦盛と直実
10/18	滝沢地区民運動会	一関市滝沢	鶏舞
10/24	室根大祭(太鼓フェスティバル)	一関市室根町	岩戸入り
10/25	カグラ・メグル	一関市田村町	岩戸開き
11/14	納会	一関市真柴	鶏舞
1/31	真滝12区新年会	一関市真柴	三番叟
3/13	一関民俗芸能祭	一関市大手町	岩戸入り

[一関市の南部神楽_8]

南沢神楽

みなみさわかぐら

DATA

- 保持団体の名称 南沢神楽保存会
- 会長 佐藤耕三(萩荘字南沢260-11)
- 会員 16人

青年団が復活、女性がつないだ「神楽のある地域」を発信

市野々神楽の系譜を持ち、神楽大会の審査員なども務めた蘇武運一郎、蘇武榮登両氏の指導を受け、地域の青年たちが復活させた。女性の力を生かしながら、地域づくり活動と連携して地元でのイベントにも多数出演するなど、積極果敢な活動を繰り広げている。

【芸能の由来・伝承】

昭和15年(1940)に金野米右エ門氏が宮元になり、萩荘市野々本郷の本郷神楽千葉秀雄氏の指導を受けて発足。地元神社への奉納のほか各種大会等で公演していたが、後継者不足などから衰退し、平成元年(1989)以降は休止していた。

平成11年(1999)、「地元の神楽を絶やしたくない」と、「南星会」(南沢地区の青年団)が、かつての神楽を知る蘇武榮登氏に教を乞い、練習を重ねて復活を果たした。当初12人でスタートしたが、練習に参加できない人が増え、存続が危ぶまれた。

そんな中、13年(2001)に地域で舞踊を習う女性3人が加入。そのメンバーで翌年の「岩手県南・宮城県北神楽大会」で見事優勝した。その後、神社への奉納、各種大会・発表会への出演など精力的な活動を続けている。特に、地域イベントと連携した「神楽のある地域」を発信する取り組みは注視の中にある。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数は16人(太鼓 2人、舞手 11人)。南沢集会所で週1回の定期練習を、発表前の2週間ほどは毎日練習している。

平成17年(2005)には創立65周年記念式典を挙行し、記念誌を発行した。

【演目】 * []は伝承だけが復元可能

- ・式舞…鶏舞、三番叟、岩戸入神談、岩戸開祝詞、魔王退治、五大領
- ・その他…宝剣納め・盗み取り・奪い返し、[釣弓神語]、[大蛇退治]、信田ヶ森、[一の谷戦記]、屋島合戦、安宅の関、[源牛若丸鞍馬兵法記]、[五條の橋]

【地域との連携、学校への指導】

平成23年(2011)に自鏡山吾勝神社において、山伏(法印)神楽系南部神楽誕生記念祭を挙行して、石碑を建立した。



【その他】

- ・『受け継ぐ伝統文化 創立65年の歩み』発行(南沢神楽創立周年記念式典実行委員会編集・発行)

年間の主な活動、伝承活動

平成24年実績

月日	内容	場所	演目
3/4	一関民俗芸能祭	一関市大手町	五大領
3/11	いきいき交流フェスティバル	一関市萩荘	屋島合戦(継信最後の場面)
3/20	JTB 栗駒再発見の旅	一関市巖美町	屋島合戦(継信最後の場面)
3/25	ベトナム交流会	一関市巖美町	鶏舞
4/1	いわてDCキャンペーン(JR一関駅)	一関市駅前	鶏舞
4/18	田村神社例祭	一関市台町	鶏舞、宝剣納
4/29	岩手県南・宮城県北選抜神楽花泉大会	一関市花泉町	屋島合戦(継信最後の場面)
5/3	岩手県南・宮城県北神楽大会	一関市巖美町	五大領
9/11	日中次世代幹部交流訪日団公演	一関市萩	鶏舞
9/12	山神社例大祭	一関市赤荻	鶏舞、安宅の関
9/15	東北神楽大会	宮城県栗原市	五大領
9/19	熊野神三社例大祭	平泉町	鶏舞、屋島合戦
9/19	稲荷神社例大祭	一関市赤荻	鶏舞、五大領、安宅の関
10/14	源義経公ゆかりの地巡り	一関市萩荘	安宅の関
11/3	南沢交流ツアー	一関市萩荘	鶏舞
11/10	仙台マルシェ公演	宮城県仙台市	鶏舞
11/11	萩荘祭	一関市萩荘	安宅の関
11/17	里芋オーナー祭	一関市萩荘	鶏舞
12/9	一関市きものと伝統文化工芸公演	一関市山目	鶏舞、安宅の関
12/9	一関地方伝承芸能継承交流会	一関市舞川	五大領

[一関市の南部神楽_9]

蓬田神楽

よもぎだかぐら

DATA

- 保持団体の名称 蓬田神楽保存会
- 会長 伊藤一(舞川字竜ヶ沢70)
- 会員 9人

門戸開いた一族と地域がつなぐ 大威徳天満宮の奉納神楽

長年蓬田一族が担ってきた氏神への奉納神楽が昭和50年代、後継者不足で存続の岐路に立たされた。門戸を開き、地域の青年団の協力を得て活動を続け、今日まで継承されてきた。

近年は、会員の子供が参加したり、庭元の親族から若い後継者が生まれるなど、地域の中での継承は着実に結実している。

【芸能の由来・伝承】

蓬田家の言い伝えによれば、村社「舞草神社」が野火によって焼失したため、明治元年(1868)頃までは舞川字穴ノ倉地内の稲倉大明神に合祀されており、例祭には大権現院神楽が奉納されていたという。

蓬田大助氏は、その法印神楽を伝授。隣接する赤伏神楽を取り入れて明治25年(1892)、蓬田一族の氏神である大威徳天満宮に奉納するため、蓬田神楽を創設したという。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員は9人(太鼓3人、舞手8人、指導者1人)。女子児童も参加している。練習は、庭元宅の練習場で。大会や発表会が近づくと行う。

悪霊を踏みしめる動作である「地踏」、東西南北を祈祷する「四方切り」などを大切に継承する。

また、両手中指に「手注連」(九字)を結んで舞う。

【演目】 * []は現在上演していない演目
三番叟、天の岩戸入り、岩戸開き、瓊瓊杵尊、地神四代の帝彦火炎手見之尊、豊玉姫之尊の産小屋、龍宮出現、三熊大神退治、五大龍、[水神明神]、羽衣、叢雲、宝剣納め、一ノ谷、黒塚、八俣の大蛇退治、田村將軍利春、二代田村中将利通、三代田村將軍純友、橋弁慶、[安部安名、神通虎の巻、八島合戦九郎判官義経、小敦盛、勢州鈴ヶ山立烏帽子田村三代將軍純友、鞍馬山騒動虎の巻きの始め、日光権現序幕、曾我兄弟の仇討、金巻道成寺、掃部長者の巻]

【地域との連携、学校への指導】

昭和60年(1985)、舞草小学校(現舞川小学校)で運動会の鶏舞指導を開始。現在も同校で舞草地



区の児童を対象に指導を続けている。児童は運動会のほか、あじさい祭り、マイリバー祭などでも披露している。

【その他】

・一関市指定無形民俗文化財保存技術保持者(平成11年4月1日指定)現庭元蓬田稔氏

年間の主な活動、伝承活動

平成27年実績

月日	内容	場所	演目
3/1	第29回一関民俗芸能祭	一関市大手町	三熊大人
4/17	舞草神社春季例祭	一関市舞川	女舞
5/1	配志和神社春季例祭	一関市山目	宝剣納め、羽衣
9/9	天満宮例祭	一関市舞川	女舞、屋嶋合戦
9/12	第55回宮城・岩手選抜神楽大会	宮城県栗原市	黒塚
9/19	笹谷稲荷神社秋季例祭	一関市赤荻	岩戸開き、黒塚、宝剣納め
10/3	金鶏山夜神楽	平泉町	黒塚
10/20	萩荘・駒形根神社秋季例祭	一関市萩荘	宝剣納め
11/29	舞川市民センター文化祭	一関市舞川	女舞、宝剣納め
11/13	施設慰問(特養ホーム「舞川の里」)	一関市舞川	女舞、宝剣納め

[一関市の南部神楽_10]

白浜神楽

しらはまかぐら

DATA

- 保持団体の名称 白浜神楽会
- 会長 千葉良夫(花泉町涌津字台39)
- 会員 8人

花泉地域の有志が集まり活動 大門に代わって地域の神社へ奉納も

神楽好きの有志が集まって始め、各種大会等で高い評価を得ている。現在は、活動を休止している大門神楽から教えを受け、大門神楽に代わって花泉地域の神社への奉納を行っている。会員は、白浜地区だけでなく花泉各地の神楽団体からも参加。歌や芸能に秀でた芸達者が見せる地域芸能の一つのあり方を示している。

【芸能の由来・伝承】

昭和45年(1970)1月、栗原善三が庭元となり、栗原神楽佐藤佐吉師匠から指導を受けて創設。昭和50年(1975)頃からは、大門神楽の菅原譲(故人)、小野寺弥両氏から指導を受けた。セリフを現代語・共通語に変えるなど、観客にわかりやすい舞台をつくる。一方で、伝統的な足の動き(悪霊を踏む地踏)も意識して演じているという。

初代代表故栗原善三氏、2代目代表千葉良夫氏。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数8人(太鼓2人、舞手8人、指導者1人)60歳代～70歳代。会員は白浜地区(花泉町涌津)在住者を中心に、永井や奈良坂など花泉地域の各地から参加している。

会員宅を庭元に、大会や発表会の前に練習をし

ている。練習会場の離れは、神楽用具の保管場所にもなっている。

【演目】 * [] 上演に時間が必要な演目

- ・式六番…鳥舞、翁舞、三番叟、[八幡舞]、岩戸開
- ・神代もの…岩戸入、彦火火出見尊、手玉織、宝剣納め、五代領、大蛇退治、神分舞、高間登り、西の宮、三熊大人、天降り舞、羽衣、作耕舞、天孫天下り、岩長、日本武尊、三熊神語
- ・劇舞…一ノ谷、義経一代記、葛葉物語、曾我物語、楠木一代記、[九戸政実]、田村三代記、[大江山酒呑童子退治]、小敦盛記、道化棒しばり・いな切り・神楽見物・関所破り

【地域との連携、学校への指導】

昭和50年(1975)頃から亥年小学校に運動会で発表する鶏舞を指導している。58年(1983)に涌



津小学校に統合された後も指導を継続。児童は、運動会のほかにも、地区民運動会や敬老会などで鶏舞を披露しており、同行した保存会が太鼓と鉦を担当している。

【その他】

平成27年9月に上演会開催

年間の主な活動、伝承活動

平成27年実績

月日	内容	場所	演目
4/26	御嶽神明社春季例大祭	一関市花泉町	手玉織
5/3	岩手県南・宮城県北神楽大会	一関市巖美町	楠公桜井の別れ
7/5	一迫あやめ祭り	宮城県栗原市	楠公桜井の別れ
9/12	北辰神社	宮城県栗原市	道成寺
9/13	日枝神社	宮城県栗原市	みかぐら、三番叟、道成寺、曾我兄弟討入り
9/15	八雲神社	一関市花泉町	みかぐら、三番叟、道成寺、曾我兄弟討入り
9/16	涌津八幡神社	一関市花泉町	みかぐら、道成寺
9/17	介護施設「寿光荘」慰問	一関市花泉町	道成寺、いな切り(道化)
9/26	白浜神楽上演会	一関市花泉町	みかぐら、曾我兄弟討入り、作耕舞
10/4	黄海集落センター	一関市藤沢町	岩戸入り
10/11	日吉神社	一関市花泉町	釣弓神語
10/17	平野神社	宮城県栗原市	釣弓神語
10/25	古峰神社	一関市花泉町	みかぐら、三番叟、釣弓神語、大蛇退治
11/3	JAまつり	一関市花泉町	大蛇退治(ダイジェスト)
11/22	高倉神社	花泉町永井	みかぐら、三番叟、作耕舞
12/5	涌津小学校PTA講演会	花泉町涌津	みかぐら、作耕舞
12/14	介護施設「さくら館」慰問	花泉町涌津	釣弓神語

[一関市の南部神楽_11]

京津畑神楽

きょうつはたかぐら

DATA

- 保持団体の名称 京津畑神楽保存会
- 事務局 佐々木守雄(大東町中川根岸 58-17)
- 会員 11人

佐藤金治郎が直接指導した 京津畑の地元神楽

当地方の南部神楽に重要な足跡を残した佐藤金治郎氏が、長期間滞在して直接指導した神楽だ。地域の協力を得て復活、現在は女性会員も加わって伝承している。地域の神社に奉納しているほか、地域づくりに力を入れる京津畑地区の地元神楽として多彩な活動を繰り広げる。

【芸能の由来・伝承】

明治35年(1902)頃、神楽を始めることにした京津畑地区は、当時の有力者が田河津村(現東山町田河津)の佐藤金治郎夫妻を招き、37年(1904)から2年間、指導を受けた。

面や衣装までも手作りした佐藤夫妻は、親身になって京津畑神楽を育て上げたという。明治40年(1907)に衣装を新調、日月神社の奉納神楽の一座として活動した。しかし、昭和30年(1955)頃から舞手が減り、神社への奉納以外、活動は休止状態になった。

平成元年(1989)、昭和30年頃活躍した五代目座員4人を師匠として練習を重ねて復活。4年(1992)には京津畑地区が保存会を発足した。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

佐藤金治郎氏が長期にわたって直接指導した神楽は京津畑だけで、ゆっくりとしたテンポが特

徴。

昭和の休止前に見た村上護朗氏は「他にはないゆっくりとした優雅な舞い方。金治郎氏の新しい創作の試みだったのでは」と述べたという。当時は、「高山の巻」、「信田妻」が十八番といわれていたが、現在は継承されていない。

平成4年(1992)に京津畑地区の全62世帯(現在は49世帯)が保存会を発足。会長は神楽一座以外から選出し、副会長は神楽一座の代表が務めることに決めた。地区の総会と併せて神楽保存会の総会も開催している。現在は会長不在。

当時の会員は14人(太鼓1人、指導者4人)。現在は11人(平成26年)。大人だけでなく小学生も参加している。当初菊池貞四郎氏宅に保管していた面や衣装は現在、旧京津畑小学校(山がっこ)体育館に保管。練習は、出演前に体育館で行っている。



【演目】 * []は現在上演していない演目

・式三番…鶏舞

岩戸開、羽衣、牛若丸橋弁慶

[三番叟、高山の巻、信田妻、道成寺、振袖の巻、熊坂長範、老松若松、赤鬼退治、一の谷、四節分]

【地域との連携、学校への指導】

昭和40年(1965)から菊池照夫氏が京津畑小学

校の鶏舞を指導。保護者(男女)も児童と一緒に習った。興田小学校統合後は、学校への指導はしていないが、大人の練習に児童が参加している。

【その他】

佐藤金治郎氏製作の面を保有している。権現の頭もあるが、詳細は不明。

年間の主な活動、伝承活動

平成27年実績

月日	内容	場所	演目
4/5	荒川神社奉納	一関市大東町	御神楽
6/21	チャリティ(興田公民館)	一関市大東町	橋弁慶
7/19	日月神社奉納(京津畑)	一関市大東町	御神楽(鶏舞)
10月	旭岡神社奉納(中川)	一関市大東町	御神楽
11/7、8	国学院大学でのイベント公演	東京都	学生による鶏舞
12/6	大東町芸術祭郷土芸能発表会	一関市大東町	鶏舞、岩戸開

[一関市の南部神楽_12]

瀬台野流市之通神楽

せだいのりゅういちのかようかぐら

DATA

- 保持団体の名称 瀬台野流市之通神楽保存会
- 会長 伊東吉之進(大東町鳥海字市ノ通53)
- 会員 10人

瀬台野流の系譜を持つ貴重な神楽 上演会を機に演目を復活

瀬台野流の系譜を持つ神楽で、昔は笛もあったという。「山ノ神」は、市内で伝承する団体が少ない演目で、旧東磐井地方の神楽の広がりを考える上で貴重である。神社への奉納のほか自治会行事などで上演していたが、近年は、後継者不足などから中断。平成27年(2015)6月の上演会を機に演目を復活させ、再び地元での継承に動き出した。



【芸能の由来・伝承】

始まりは大正6年(1917)。地理的關係の深い江刺郡田原村(現奥州市江刺区田原)の川内神楽から先生を招いて神楽を習った。

団体が掲載された刊行物(*)によると初代は19人。平成10年頃、村上護朗氏の指導を受け、道具を整備して活動を充実させた。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員は10人。市ノ通地区(35世帯)の有志20歳代から70歳代の男性だ。昔は株を買って「神楽連中」に参加していたという。

座元(代表)は、現在四代目。大正期の創設当時の面を10面ほど所有している。

【演目】 []は現在上演していない演目

・式六番…御神楽舞、山ノ神舞、三葉舞、八幡舞、道引舞、岩戸開舞(くずし舞付)

・仕組神楽…日光権現、一ノ谷嫩軍記
[裏式六番舞]

【地域との連携、学校への指導】

平成10年頃、地元の児童・生徒に指導していた。

【その他】

*団体が掲載された刊行物

伊藤武之進(編集責任)『瀬臺野系神楽口唱歌誌』(1983 瀬臺野神楽保存会)

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月日	内容	場所	演目
5月・10月	興田神社の例祭	興田神社	奉納御神楽

かつては、胆沢地区の「胆江神楽大会」、水沢駒形神社の「例祭」、「東磐井郡下神楽大会」などにも出演。地区行事の後に披露することもある。

平成27年度実績

月日	内容	場所	演目
11/29	第12回いわい地方民俗芸能祭出演	一関市大東町	山ノ神舞
3/13	第31回一関民俗芸能祭出演	一関市大手町	山ノ神舞

[一関市の南部神楽_13]

天狗田代々神楽

てんぐだだいたかぐら

DATA

- 保持団体の名称 天狗田代々神楽保存会
- 会長 菊池一美(大東町沖田字大平10-3)
- 会員 13人

3年ぶりに活動を再開 若い世代への演目継承に力を注ぐ

かつては、小学校や地域で子供たちに鶏舞を指導してきた。また、地区公民館での上演を重ねていたことから、地域の神楽としても定着していた。しかし、後継者不足などにより、平成24年(2012)から活動を休止。本年度、3年ぶりに活動を再開した。すると、子供の頃に指導を受けた高校生の舞手と胴取りが加入。現在、若い世代への演目継承に力を入れている。

【芸能の由来・伝承】

『郷土を学ぶ 一興田の史跡と民俗芸能-』(*)によれば、初代は田河津村高金の佐藤金治郎氏、二代目は奥玉村の藤野金作氏、藤野為定氏、三代目は磐清水村の及川輝家氏と奥玉村の及川卯吉氏が伝える「水山流」を継ぐという。

大正11年(1922)、石屋職人及川輝家氏の指導で「天狗田神田神楽」が始動。道具は京津畑神楽から買い受けた。今川丑五郎氏を世話役に摺沢の学校の先生も協力したという。

それとは別に大正14年(1925)、「牛追い」に来た及川卯吉氏を師匠に神楽を習得した人たちがいた。昭和2年(1927)に「天狗田神社代々神楽」が始動し、後に、佐藤利四朗氏から道具を借りて一式をそろえた。それが今もなお、使われている。卯吉氏が帰った後は、両団体が輝家氏の指導を受けた。

両神楽は人気を博し、各地から出演依頼が寄せられた。だが、兵役等で舞手が不足した神田神楽は解散。残された2、3人は代々神楽に加わって終戦後も活動したが、その代々神楽も中断することに。

月日は流れ昭和59年(1984)、熊谷平氏が6年(1931)の演技本をもとに女性たちに指導。代々神楽は復活を遂げた。神社への奉納のほか、61年(1986)からは地区の児童に鶏舞を指導するなど積極的な活動を続けた。

だが、復活当時のメンバーの死去などにより平成23年(2011)を最後に活動を休止した。

今回、調査研究事業の一環として代々神楽の上演会を開催することになり、高校生の参加や地域の協力を得て活動を再開した。

*興田史談会 昭和63年『郷土を学ぶ 一興田の史跡と民俗芸能-』



【芸能・団体の特徴、活動の状況】

昭和60年当時は11人(平成27年現在13人)。

【演目】

羽衣、三番叟、天の岩戸開き、四節分け

【地域との連携、学校への指導】

天狗田小学校は平成8年(1996)頃から閉校す

る平成18年(2006)まで、運動会の演目として鶏舞を学習。保存会が指導した。

昭和期の復活では、地域住民が衣装を協力した。また、天狗田地区(上下)の収穫祭には毎回出演した地域の神楽であった。

今後は、他地域の神楽との交流や協力も視野に入れる。

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月日	内容(主催など)	場所	備考
春・秋	天狗田神社奉納	一関市大東町	拝殿での奉納は鶏舞 神楽殿で劇舞を上演することもあった
夏	沖田のさなぶり	一関市大東町	
11月	収穫祭	一関市大東町	
冬	大東町郷土芸能発表会	一関市大東町	大原の出雲神社に呼ばれることもあった

[一関市の南部神楽_14]

愛宕神楽

あたごかぐら

DATA

- 保持団体の名称 愛宕神楽保存会
- 会長 菅原一美(千厩町千厩字町浦63-2)
- 会員 5人

有志が始めた奉納神楽 3年前に後継者加入、再生に一筋の光

愛宕神社は、奉納のために各地から神楽を呼んでいた。それを見ていた地元の有志が神楽を始め、自ら奉納するようになった。地元の神楽を喜んだ地域が後援会を発足して支え、愛宕神社で大会を行うまでになった。それが、愛宕神楽と「東磐井郡下神楽大会」だ。大会は一時期、盛況を極めたが、平成10年(1998)の20回大会をもって終了した。「費用を負担するので継続してほしい」と声を上げる神楽団体も少なくなかったという。その後も、愛宕神楽は、秋季例祭での奉納を欠かさずに行っている。

【芸能の由来・伝承】

旧千厩町1区は昭和48年(1973)4月、神楽を通じて会員の親睦を図ろうと愛宕神楽を始めた。藤沢町の増沢神楽菅原軍治氏、村上潔氏、千厩町の熊田倉神楽武田実氏を師匠に練習を重ね、後に、東磐井郡下神楽大会をはじめ、各種大会で入賞するほどになった。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

設立当初の会員は12人。同好会からスタートした。昭和51年(1976)7月、資金を援助する愛宕神楽後援会が発足、愛宕神楽保存会に改称した。初代会長は高橋栄吉氏、二代は永澤務氏、三代は菅原賢治氏、四代は菅原二郎氏、現在は五代目。

5人の会員が神社への奉納を唯一の上演機会としているが、後継者の加入もある。練習は奉納前、愛宕集会所で行う。

【演目】

劇舞に入る際、式舞(白露)、祝詞(三番叟)(鳥舞)を舞う決まりがある。

三熊退治、蘇民将来、大蛇斬、日本武之命、高山掃部長者物語、信田ヶ森、天ノ岩戸開、西ノ宮大神、魔民退治、三番叟、五大領四節分、日光権現、女舞(*会員数が足りないため、上演できない演目もある)

【地域との連携】

東磐井郡下神楽大会は、愛宕神楽の会長も務め



た永澤務氏らが地域おこしの一環として計画したという。

毎回、年明けから準備会を何度も持ち、後援・スポンサー集めから参加団体の募集、審査員の依頼など多くの作業を行いながら20回の大会を開催し続けた。永澤家には各回の事務書類を綴った分厚いファイルが残されている。当初の大会会長には浜横沢神楽(室根町)を支援していた室根村長だった加藤訂氏が就き、協力を惜しまなかったという。

この大会は、芸を磨く励みになり、また他団体との交流の場になっていたと当時参加していた団体の評価は高い。

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月日	内容	場所	演目
8月末	神楽殿奉納	愛宕神社秋季例祭	白露、三番叟(または鳥舞)+劇舞(2、3演目)

[一関市の南部神楽_15]

布佐神楽

ふさかぐら

DATA

- 保持団体の名称 布佐神楽保存会
- 会長 千葉仁一（川崎町門崎字布佐109）
- 会員 41世帯 ●神楽連中 15人
- 岩手県指定無形民俗文化財「布佐神楽」（平成25年4月5日指定）

奉納後、発表会開き地域に披露 高校生が胴取りを

地元の熊野神社、伊吹神社の春秋例祭に欠かさず神楽を奉納し、その後、発表会を開いて地域の人に披露している。平成25年（2013）までは、テントを設営して上演したが、現在は川崎農村研修センターを会場に開催している。毎年地区内外から多くの人を訪れ、布佐神楽を楽しんでいる。一方、長年にわたって地域の子供たちへの指導も続けてきた。こうした地道な活動により地域の神楽として定着。近年は、千葉孟君と千葉隆寛君、高校生二人の胴取りが誕生するなど、後継者の確保育成にも成果を挙げている。

【芸能の由来・伝承】

布佐神楽は文久3年（1863）に隣村の相川村（現一関市舞川）から神楽（おそらく法印神楽）を伝授したのが創始。その後、さまざまな要素を取り入れ、大正期までに現在の芸風を確立したという。

戦時中は兵役などで人数が減ったこともあったが、熊野・伊吹両神社への奉納は、欠かさずに続けてきた。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

自治会全世帯（41戸）が会員。神楽連中は15人（うち太鼓1人、指導者1人）だ。全員が男性で、隣接地区からの参加もある。

昭和47年（1972）、住民の総意で保存会が発足した。現在、庭元はなく、練習会場の「神楽伝承館」に道具などを保存している。

毎年正月から4月までは週2回の定期練習を行っているほか、各種大会や発表会などの前に練習を重ねている。

【演目】

三番叟、御神楽、岩戸開、三宝荒神、所望分神語、水神明神、魔王神語、御室焼、五矢神語、黒塚、羽衣、叢雲神語、屋嶋の合戦（扇的）、小袖曾我、一ノ谷の合戦、玉織姫子捨ての場、法童丸母との対面、法童丸父（魂魄）との対面、楠公（楠木正成）、げんべはり（道化）

*他に、すぐには上演できない演目が30ほどある

【地域との連携、学校への指導】

昭和47年（1972）頃から布佐自治会の児童全員を対象に指導している。



統合前の旧門崎小学校では4～6年生に運動会で披露する鶏舞を指導。平成24年（2012）の統合後は、川崎小学校で指導している。

また、保存会員の高校生には太鼓を教え、胴取りの後継者育成を図っている。

【その他】

- ・独自製作本『布佐神楽 創立130周年記念誌』（平成5年（1993）発行）
- ・獅子舞を布佐神楽保存会として伝承

年間の主な活動、伝承活動

平成25年実績

月日	内容	場所	演目
2/16	建築士会青年大会アトラクション	一関市山目	御神楽ほか2、3演目
3/17	岩手の民俗芸能祭	盛岡市	
4/14	道の駅かわさき10周年記念	一関市川崎町	
4/14	(16日近くの日曜) 伊吹神社例祭	一関市川崎町	
4/28	150周年記念神楽発表会	一関市川崎町	
4/29	熊野神社例祭	一関市川崎町	
5/3	岩手県南・宮城県北神楽大会	一関市巖美町	
6/23	川崎町商工会テント市	一関市川崎町	
7/13	元気な地域づくり事業 布佐神楽発表会	一関市川崎町	
9/15	(16日近くの日曜) 伊吹神社例祭	一関市川崎町	
10/12	アレサふれあいまつり	東京都町田市	
10/17	祥雲寺公演	一関市台町	
10月	熊野神社例祭	一関市川崎町	
11/3	川崎町文化祭	一関市川崎町	
11/24	いわい地方民俗芸能祭	一関市川崎町	
12/1	かやぶき祭(村上山住宅)	一関市千厩町	

[一関市の南部神楽_16]

下大籠南部神楽

しもおおかごなんぶかぐら

DATA

- 保持団体の名称 下大籠南部神楽保存会
- 会長 高橋義男（藤沢町大籠字奈良原100）
- 会員 7人

地域の拠点自治会館で 子供たち中心の神楽を披露

神明社への奉納と「藤沢町子ども郷土芸能発表会」での発表のため、子供たちへの指導を中心に活動している。神明社秋季例祭では、社殿前で奉納した後、千松自治会館での上演会が定例になっている。屋外でバーベキューや汁物を楽しみながら神楽を鑑賞する上演会は、住民の楽しみの一つ。同時に、東日本大震災の支援をきっかけに交流を続けている大室南部神楽（宮城県石巻市北上町）との共演の場でもある。ここ数年は、子供たちを中心にした披露の場にしており、児童・生徒は張り切っている。



【芸能の由来・伝承】

昭和8年（1933）、宮城県栗原郡金成町から来た佐藤清人氏を師匠に、佐藤重雄氏、佐藤司氏などが1カ月の間、毎晩練習を重ね、神明社に奉納する神楽を習得した。以来、今日まで絶え間なく継承されている。

初代庭元は佐藤司氏、二代は佐藤重雄氏、三代（現）は高橋義男氏。23歳から神楽を始めた高橋氏は、40年以上にわたって保存会の会長を務めている。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

40区（千松）の有志が発足。現在は、下大籠地区（40、41区）の範囲に呼び掛けている。

会員は、30歳代（3人）から80歳代（1人）までの男性7人。胴取（太鼓）は1人、鉦ひき（平手鉦）・舞子（舞手）は全員で、指導者は3人だ。

子供は、小・中学生の男女5人が参加する。

高橋氏が思い出しながら書いた「こわぼん」（声本）＝舞の口唱歌＝を使っており、太鼓の口唱歌も作成している。

【演目】

のりと、白露、神楽由来、三番叟、岩戸開、蛭児の尊、牛若丸、一東の宝剣、屋嶋合戦、宝剣たばか

り、三熊退治、水神舞、天孫降臨、大蛇退治、宝剣納め、羽衣、日光権現、田村三代記、竹生島、楠公父子の別れ、信田森

【地域との連携、学校への指導】

師匠を共にする兄弟神楽である十三浜の大室南部神楽（宮城県石巻市北上町、大正期創設）が、中断していた活動を東日本大震災後に再開。下大籠南部神楽は、神楽本を提供したり、舞台を貸し出したりするなどの支援を行って交流を深めている。

旧大籠小学校児童が運動会で披露する鶏舞の指導は、平成21年（2009）の閉校まで続けられた。

●千松自治会館上演会

年に一度の秋の神明社奉納後の上演会は、地域の人々の楽しみの会である。

平成26年からは2年間にわたり、牛若丸前・後編と銘打って子供たちに主役を演じさせた。演目の天狗の立ち回りを考えたり、受付や接待を手伝ったりして役割を担っている子供たちは、自分たちの神楽上演会を楽しんでいた。

最高齢の高橋会長の神降ろしの儀礼で始まり、小・中学生の餅撒きで終わる上演会は、地域と共にある保存会のあり方を示す場であった。

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月日	内容(主催など)	場所	備考
旧9/16	神明社の祭礼	神明社	平成25年は信田森、24年は大蛇退治
1月	藤沢町子供民俗芸能発表会	藤沢文化センター「縄文ホール」	平成28年は五条の橋、岩戸入り 27年は牛若丸、常盤御前、鞍馬山の部

[一関市の南部神楽_17]

本郷神楽

ほんごうかぐら

DATA

- 保持団体の名称 本郷神楽保存会
- 会長 佐藤賢吉(藤沢町藤沢字八沢127)
- 会員 11人

不変を意識した神舞復活の取り組み 百周年を迎えた伝統の神楽

「式舞」「神舞」を多く保持している。伝統継承を意識して、特にこの数年は神舞の復活に取り込んだ。地元自治会館で定期的に練習を重ね、見事「神舞七神楽」を復演。平成27年(2015)には「本郷神楽創生百周年記念神楽上演会」を挙行し、地域の人々へ披露した。

【芸能の由来・伝承】

端山神楽を習った浜横沢の加藤勇八氏の指導で、保呂羽神楽がつくられた。その中の佐藤留五郎氏を中心に本郷神楽が発足した。

保存会が所有する資料によると、大正11年(1922)、葉山神社の「代々神楽」として奉納する親楽会が結成され、本郷10区の有志の協力で衣装等を購入した。

初代師匠は佐藤留五郎氏、二代畠山一男氏から代表となり、三代は熊谷八重治氏、四代は畠山春男氏、五代は熊谷功氏、六代は佐藤賢吉氏だ。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

面は29面を所有。うち24面は古いものであるという。真剣も所有。二代から継承されたものもある。三代頃までは、囃子に笛もあったという。

伝えられてきたものを変えないように努めている。女舞を得意とする。

会員数は20代～80代の11人。太鼓(胴取)2人、舞手9人、指導者は畠山春男氏。昭和46年(1971)頃に保存会が発足。本郷地区(9～11区)240世帯の有志で構成され、平成16年(2004)か

ら女性2人が参加している。練習は毎月3～4回、午後7時から9時まで本郷白藤交流館で行っている。道具は会長宅に保管している。

そのほか、「藤沢町子ども郷土芸能発表会」に出演する地区の児童約20人に、冬休み中2週間ほど指導する。

【演目】

- ・式舞6種…翁舞、三番叟、鶏舞、八幡舞、山の神舞、岩戸開き
- ・裏舞(夜神楽が始まる時に最初に舞う)
- ・御神楽(西の雲)
- ・神舞七神楽(サンヤ舞とも)…八幡舞、山の神舞、明神舞、勇伝之部(龍伝か)、天下里之部、参宝荒神、水神明神
- ・段事(セリフ神楽)…天之叢雲宝剣由来記(参熊大人退治の部、素戔鳴の尊都入りの部、蘇民将来の部、大蛇退治の部)、西之宮、龍宮兄弟合戦の部(龍宮之前の子渡しの部、兄弟合戦の部、合戦後の子渡しの部)、日本武尊草薙の宝剣奉納之部(通称:宝剣納め)、四季分け、羽衣、石童丸、信太ヶ森(安名明神参拝の部、信田森合戦の部、葛之葉



子別れの部)、竹生島(初座の部、身穀上げの部、下座の部)、源平記(一の谷合戦、玉折姫子別れの場、法童丸父子対面の場)、玉取姫(3年前に新たに作成=龍宮合戦の部、母子対面の部)、地藏買(狂言) ほか

*すぐに上演できない五矢神話もある

【地域との連携、学校への指導】

自治会の要請で地域の敬老会やイベントなどに出演。

昭和43年(1968)から平成21年(2009)まで藤沢小学校児童が運動会で披露する鶏舞を、昭和45

年(1970)から現在まで本郷地区の小学4～6年生に「藤沢町子ども郷土芸能発表会」出演のための指導をしている。

【その他】

大正期に、佐藤留五郎氏のセリフを畠山一男、熊谷八重治両氏が記したものが畠山家にある。平成10年(1998)頃、佐藤賢吉氏らがそれを写し取り、せりふ・太鼓・舞の口唱歌、舞い方を記録保存し、DVD等で会員に配った。せりふ等は、現代語や現行の文字に置き換えた。

年間の主な活動、伝承活動

平成24年実績

月日	内容	場所	演目
1月	藤沢町子供郷土芸能発表会	一関市藤沢町	岩戸開き(子供用)
4月	藤勢寺例祭	一関市藤沢町	玉取姫。子供も踊る
6月	岩手県南・宮城県北神楽大会	一関市巖美町	玉取姫
9月	葉山神社の例祭	一関市藤沢町	奉納は翁舞、三番叟、神舞、段事の中からいくつか
10月	地区敬老会	一関市藤沢町	
10月	保呂羽神社例大祭	一関市藤沢町	
11月	JA農業祭	一関市藤沢町	

[一関市の南部神楽_18]

増沢神楽

ますざわかぐら

DATA

- 保持団体の名称 増沢神楽保存会
- 会長 菅原武徳(藤沢町増沢字畑沢62-2)
- 会員 11人

昔習った児童が大人になって加入 地域の神楽として定着

「藤沢町子ども郷土芸能発表会」に出演する新沼小学校児童の指導を続けており、小学時代に習った女性が大人になって加入するなど、地域の神楽として定着している。地元の立石神社からの招へいはなくなったが、吉祥寺の縁日で掛け舞台を設営し、毎年上演。地域の女性たちの楽しみの場になっている。定期的な練習が保存会の実力を支えている。



【芸能の由来・伝承】

明治42年(1909)、八沢地区の総社である立石神社への奉納神楽として始まった。師匠は、千厩町清田熊田倉の千葉義美氏と矢越村深持の岩淵重次郎氏。現在の32区を中心に「増沢神楽楽友会」が発足した。

その後、明治44年(1911)に楽友会の一部が独立し、現在の33区を中心に「増沢神楽」が誕生。昭和14年(1939)には立石神社の神社名を加えた「増沢立石神楽」に改称した。

一方、「増沢神楽楽友会」は会員数の減少により「増沢立石神楽」と統合。その後、団体名を「増沢神楽」に改めた。

昭和42年(1967)、増沢地区の半分当たる約50世帯が協力し、増沢神楽保存会を発足。初代会長は菅原軍治氏、二代は菅原武美氏、三代は村上光雄氏、現在は4代目の菅原武徳氏が務める。神楽宿は、菅原軍治氏の前に世話役を務めた伊藤初治氏宅を初めとし、村上弥兵衛氏宅、菅原武美氏宅だった。近年は、増沢自治会館を使用している。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

会員数は20代～70代の11人。うち女性は4人だ。保存会設立時から女性が参加する(胴取1人、指導者6人)。

練習は毎週金曜日(午後7時～9時30分)、増

沢自治会館で行っている。

【演目】

- ・式舞…鶏舞、三番叟、岩戸開、四節分
- ・劇舞…信田森、高山掃部長者、竜神舞、日光権現、天之叢雲神話(大蛇切り)、蘇民将来、羽衣(三熊退治)、道成寺、五條の橋

【地域との連携、学校への指導】

昭和45年(1970)から藤沢中学校で鶏舞を指導していたが、統合に伴い休止。現在は、新沼小学校児童(4～6年生)が運動会で披露する鶏舞を指導している。

「藤沢町子ども郷土芸能発表会」に出演する児童には、冬休み中のほぼ毎日指導している。少子化に伴い、平成26年(2014)からは範囲を拡大し、増沢地区だけでなく新沼地区の児童も対象としている。

【その他】

菅原軍治氏と同時代の村上繁氏宅には、台本や帳簿などが大切に保管されている。現在使用している台本は、村上則雄氏が繁氏の台本と村上護朗氏の『南部神楽』を見て作成したもの。そのほか、昭和44年(1969)に当時の新沼小学校の佐藤正治校長が神楽の由来をまとめたものがある。

年間の主な活動、伝承活動

例年実績

月日	内容	場所	演目
4月	吉祥寺の観音さんのお祭り	一関市藤沢町	3年に1度の持ち回り 平成26、27、28年は「信田森」。それ以前は「四節分け」。
11月	農業祭	一関市藤沢町	
1月	藤沢町子ども郷土芸能発表会	一関市藤沢町	
その他	ボランティア興業	一関市藤沢町	

平成元年頃までは立石神社の祭礼(秋祭り)で奉納していた。戦前は、立石神社に特設舞台を作っていた。近年は、祭礼の日に地元公民館で上演していたが、平成10年(1998)頃から中断している。

地域の神楽 | 市指定無形民俗文化財 |

[一関市指定無形民俗文化財_1 (瑞山神楽メ切舞)]

瑞山国首神楽

みずやまくにかぶかぐら

DATA

- 保持団体の名称 瑞山国首神楽
- 会長 小岩清光 (一関市巖美町字横森35)
- 会員 6人
- 一関市指定無形民俗文化財「瑞山神楽メ切舞」(昭和48年11月3日指定)

熟練を要し、秘伝とされてきたメ切舞 後継者募集し、再開の機を探る

瑞山国首神楽の演目である「瑞山神楽メ切舞」は、昭和48年(1973)市指定無形民俗文化財に指定された。おっかけ三番、三宝荒神とならんで秘伝の舞とされているが、現在は人数が足りないため上演できない状況にある。本寺神楽保存会とともに本寺中学校への指導を継続しているほか、後継者も募集しており、活動再開の機会を探っている。

【芸能の由来・伝承】

須川(栗駒山)の瑞山口に祀られた「くにかみさま」(国首山)へ奉納するため、明治初期に佐藤清太郎氏が庭元になり藤沢町で神楽を習得したのが始まりである。佐藤氏がどこの神楽に所属していたかは不明。

昭和期には、藤沢町の団体や一関夫婦神楽などに指導した。

現在の会員は昭和51年(1976)頃に集まった6人(太鼓1人、舞手3~4人)、庭元は九代目。年々活動できる会員は減っている。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

二人一組で前転するように舞うメ切舞は、息が合わないと首を折ることもある危険な舞だ。真剣を使用した昔は、熟練を要し、秘伝とされてきた。現在は、組める相手がいがないため、舞を上演することができない。

上演の定型は、御神楽に始まり、岩戸入、岩戸開、一ノ谷と続く。舞台四方の柱に張ったしめ縄を切るメ切舞

は、最後に舞う。

【演目】 * [] は伝承できていない演目

[おっかけ三番]、三宝荒神、メ切舞、御神楽(鶏舞)、宝剣納め、岩戸入、岩戸開、一ノ谷戦記、ほぼてみ、[羽衣]、[五大領]

【地域との連携、学校への指導】

平成元年(1989)に本寺中学校生徒に瑞山、本寺、小猪岡3地区の踊りをアレンジした「本寺中鶏舞」の指導に加わり、以来、年1回の指導を今日まで続けている。

【年間の主な活動、伝承活動】

平成23年(2011)に温泉神社へ奉納した。それ以降の活動実績はない。

地域の神楽 | 市指定無形民俗文化財 |

[一関市指定無形民俗文化財_2]

大門神楽

だいもんかぐら

DATA

- 保持団体の名称 大門神楽連中
- 代表 小野寺弥 (花泉町金沢字大門沢42)
- 一関市指定無形民俗文化財「大門神楽」(昭和53年3月31日指定)

名実共に地域を代表した神楽 子供鶏舞で再開を模索

大正~昭和期に、人気と実力のある神楽として活躍した名実ともに地域を代表した神楽。しかし、平成に入ってから後は継者が減少し、平成12年(2000)に活動を休止した。その後も、金沢小学校児童の鶏舞指導は、胴取りの小野寺^{わたる}氏によって続けられている。次代を担う子供たちへの伝承を継続しながら、地域では新たな活動の再開の機会を探っている。

【芸能の由来・伝承】

天保6年(1835)頃、金沢村大門地藏尊別当宝善坊が東磐井郡相川村(現舞川)の法印千葉依人氏を師匠に、大門の若者衆が法印神楽の指導を受けたのが始まりといわれる。

明治11年(1878)に神楽組が発足し、東磐井郡の小島神楽を習得。明治末には黒沢神楽の庭元から伝習、法印神楽に工夫を施して独自のスタイルを確立した。大正期から昭和初期まで、県内外から公演を依頼されるなど人気と実力のある神楽団体として名をはせた。また、地元花泉町内の各神社の奉納を一手に担ったほか、県内だけでなく宮城、山形両県の神社で奉納するなど地域を代表する神楽団として活躍した。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

平成12年(2000)当時の会員は5人。面、太鼓、衣装などは大門集落センターに保管。台本などは小野寺氏

が保管している。

【演目】

[かつて伝承していた演目]

おろち退治、宝剣納め、五大龍、岩長醜、御室焼き、金巻登女、牛若一代記、曾我兄弟父の仇討ち、一の谷、安倍の安名、忍田森妻物語、掃部長者佐与姫身売、岩戸入、三番叟、鶏舞

【地域との連携、学校への指導】

小野寺氏氏が一人で金沢小学校児童の鶏舞指導を続けている。同校は、運動会で披露するほか9月の金沢八幡神社例祭や各種イベントなどにも出演している。上演には、小野寺氏が胴取りとして同行する。

【年間の主な活動、伝承活動】

平成12年(2000)から休止している。

地域の神楽

市指定無形民俗文化財

〔一関市指定無形民俗文化財_3〕

浜横沢神楽

はまよこさわかくら

DATA

- 保持団体の名称 浜横沢神楽保存会
- 代表 西村義人(室根町折壁字天王前32-7)
- 一関市指定無形民俗文化財「浜横沢神楽」(平成2年6月1日指定)

日露戦争勝利を記念して誕生 後継者確保と芸能伝承の道を探る

平成2年(1990)に当時の室根村指定無形民俗文化財に指定された。平成17年(2005)に合併し、現在は、一関市指定無形民俗文化財。会員の高齢化や死去に伴う後継者不足で、平成24年(2012)から活動を休止している。

【芸能の由来・伝承】

明治29年(1896)、日清戦争の勝利を記念して浜横沢樋の口の屋号「平林」の加藤新三郎が庭元となり、弥栄村(現一関市弥栄)の佐藤熊五郎氏を師匠に、若者たちが1カ月にわたって神楽を学んだのが始まり。演目は、14、15種類あったという。

第二次大戦で一度途絶えたが昭和47年(1972)頃、鶏舞を復活させようという機運が高まり、有志12人で再興した。当時は同好会として活動。道具は、村長でもあった加藤訂氏家に保管されていたものを使い、創設時のメンバーだった加藤氏と小松盛氏が指導した。

その後、劇舞を取り入れたが、習得の難しさから会員が減少。7人ほどになった。周囲の勧めで昭和50年(1975)に保存会を発足。初代会長西城安雄氏を中心に再び活動を活発化した。昭和60年(1985)頃には、地元弥栄神社に奉納したほか「東磐井郡下神楽大会」などにも出演し、個人賞などを受賞した。

【芸能・団体の特徴、活動の状況】

平成になって会員の減少を止められず、平成12年(2000)、「室根村郷土芸能祭」への出演を最後に活動を休

止した。

神楽道具は、浜横沢集会所に保管していたが、国道284号室根バイパスの整備に伴う同所取り壊しから、現在は庭元であった加藤家に保管している。

【演目】

〔かつて伝承していた演目〕

御神楽(鶏舞)、三番叟、岩戸開、羽衣、信田ヶ森、一ノ谷

【地域との連携、学校への指導】

地元弥栄神社に奉納したほか、蟻塚公園桜祭り(折壁字室根山)などにも出演した。旧浜横沢小(現室根東小)学習発表会で披露するため、児童に指導したこともある。

【年間の主な活動、伝承活動】

平成12年(2000)から休止している。

地域の神楽

活動中の南部神楽

1 奥玉神楽

おくたまかくら

明治14年(1881)瑞山国首神楽から伝承。村の祭りで行われてきた。昭和48年(1973)には、奥玉地区の青年の有志が奥玉神楽同好会を発足した。〔千厩町史第5巻現代編(平成17年)793頁〕

同好会として地元の八坂神社の「おてんのうさま」への奉納を続けている。

- 保持団体の名称 奥玉神楽同好会
- 会長 小野寺進(千厩町奥玉字入山沢)

2 中日向鶏舞

なかひなたとりまい

平成5年(1993)に奥玉地区の女性グループが地元の民芸大会に出演するため、奥玉神楽の指導を受けたのが始まり。当初8人の会員は現在6人。

発足当時は各種イベントや結婚式などに多く呼ばれ

た。女性だけの会であり、太鼓と鉦は奥玉神楽に依頼している。

- 保持団体の名称 中日向鶏舞保存会
- 会長 小山麗子(千厩町奥玉字中日向89)

3 夏山神楽

なつやまかくら

竹沢神楽(東山町竹沢)の千葉勇之進の弟子・高橋寅之助が竹沢から横沢に分家後、大正10年(1921)に夏山・横沢の若者に伝授した。

戦後は途切れていたが、昭和40年代に子どもたちに教えるようになり、昭和47年(1972)には小学生高学年4～5人が習い、中学生まで続けた。その後、中断、再開を繰り返し、現在に至る。庭元で胴取りの高橋敏一氏(横沢)が亡くなり、小野寺福蔵氏が胴取り。

以前は、市の大会や県南大会に出場したり、新築や厄年の祝いに呼ばれたりしていた。

しばらく中断していたが、平成24年10月の村社秋の例祭で奉納し、27年の天狗田代々神楽上演会では荒舞を上演した。

- 保持団体の名称 夏山神楽保存会
- 会長 小野寺福蔵(東山町田河津字横沢56-3)

4 黄海神楽

きのみかくら

明治35年(1902)生まれの千葉猛が戦前、花泉町飯倉神楽から教わり、黄海で始めた。

戦時中に一時中断したが、昭和30年(1955)頃復活。その後、再び中断するが、昭和57年(1982)に老人クラブが「黄海口沖神楽保存会」を発足。

平成18年(2006)頃から三度^{みたび}中断したものの、22年(2010)に補助金を活用して面などをそろえ、活動を再開している。

- 保持団体の名称 黄海神楽保存会
- 会長 佐川公郎(藤沢町黄海字天堤235)

地域の神楽

小中学校の伝承を支える神楽

地域の神楽

再興待たれる南部神楽

1 本寺神楽

ほんでらかぐら

慶応年間(1865～1868)に佐藤篤治氏を庭元に山谷神楽の師匠から指導を受けて創設。戦前中断後、昭和21年(1946)山谷神楽を師匠に復活した。

その後、後継者不足などで再び休止するが43年(1968)、七代目を師匠に8人で練習を重ね、53年(1978)頃まで活動。だが、その後また休止し、平成13年(2001)、解散式「庭固め」を行った。

昭和53年頃「あやめ会」として30人ほどに鶏舞を指

導。男女50人ほどの大所帯になったこともある。同会も現在は休止している。

63年(1988)、本寺中学校が伝統芸能に取り組むことを決めた際、本寺神楽など地元の3つの神楽団体それぞれの舞を取り入れた新たな「本寺中神楽」を創作した。胴取りの佐藤勲氏は、現在もなお指導を続けている。

- 名称 本寺神楽保存会
- 会長 佐藤勲(厳美町字駒形106)

2 奈良坂神楽鶏舞

ならさかかぐらとりまい

昭和20年代後半、宮城県栗原郡若柳町武鎗(現栗原市)で舞われていた鶏舞が伝播されたのが奈良坂神楽鶏舞の始まりと伝えられる。

以来、奈良坂神楽保存会が伝承してきたが、太鼓や舞の指導者の高齢化により、存続の危機に直面した。鶏舞は、地元花泉小学校の伝統行事として継承されてきた経

過もあり、同校PTAを主体にした地域住民が受け継ぐ決意を固め、奈良坂神楽鶏舞クラブが発足。花泉小学校の指導を継続しているほか、神明社(奈良坂鎮守)への奉納も行う。

- 名称 奈良坂神楽鶏舞クラブ
- 代表 及川守(花泉町花泉字坂下前17)

3 永井神楽

ながいかぐら

昭和42年(1967)に杉則^{すげのり}、内ノ目、永井の3神楽団体が合併し、永井白崖の千葉勇氏の指導を受けて白崖新神楽を設立。その後、永井神楽に改称した。

神楽団体としての活動は継承されていないが、永井小学校への指導は、30年以上にわたって続いている。

また、保存会は、地域住民の支援を得ながら、市民センターで鶏舞教室を開催している。

- 名称 永井地区郷土芸能伝承保存会
- 会長 阿部良(花泉町永井字新田150-1)

4 濁沼神楽

にごりぬまかぐら

かつて、濁沼地区には、南神楽と大峯を中心にした神楽の二つがあったといわれるが、大峯の神楽の詳細は不明である。

南神楽(後に濁沼神楽)は、明治5年(1872)頃、赤荻の高橋氏を招いて習い、各地から出演依頼されるようになったという。一時途切れたが、昭和50年(1975)から磐清水小学校で鶏舞の指導を開始。平成7年(1995)、新浪神社の

巫女舞を習っていた女性たちが、濁沼神楽の小野寺晃氏の指導を受けて鶏舞を習得。新浪神社例祭で小学生と共に鶏舞を奉納するようになった。以来、女性たちは小野寺氏を後継し、同校を指導している。

- 名称 新浪鶏舞保存会
- 代表 菊地玲子(千厩町磐清水字古館18-3)

1 下猿沢南部神楽

しもさるさわなんぶかぐら

明治21年(1888)猿沢今向の菅原喜蔵氏が庭元となり、笹谷神楽の鈴木伊代治、相川字馬洗淵の千葉虎之進氏、吉田正一郎氏を師匠に創設。大正年間には笹谷神楽から再び師匠を招いて指導を受けた(『南部神楽系譜調査報告書』77ページ平成7年)。

しばらく中断後、昭和49年(1974)に復活、明治期の神楽を知る古老たちを師匠に練習し、昭和53年(1978)下猿沢南部神楽保存会を設立した。

台本は曾慶神楽保存会の本「風流諸作御神楽詠儀本」をコピーして使い、振り付けなどは自分たちでわかりやすく作った。

だが、後継者不足により平成21年(2009)3月の総会をもって解散した。

- 名称 下猿沢南部神楽保存会
- 代表 金忠吉(大東町猿沢字菅ノ沢42)

2 大木神楽

おおきかぐら

大正2年(1913)佐藤金治郎氏を師に大木青年倶楽部会12人が習い始めた。以来、鈴木源四郎氏、鈴木美瑛男氏、鈴木正三郎氏、鈴木欽二氏が歴代師匠として継承してきた。

神社祭典への奉納や旧東磐井郡内各地で披露したが、戦争により中断。昭和57年(1982)鈴木欽二氏、鈴木新一郎氏が地域の若者に呼び掛けて復活した。その後、鈴

木俊雄氏が伝承、普及に努めたが死去。そのため、現在は活動ができていない。

練習場所は東山町長坂字大木の多目的集会施設「ゆみおり館」。

- 名称 大木神楽保存会
- 代表 鈴木初男(東山町長坂字大木沢225)

3 里前神楽

さとまえかぐら

大正4年(1915)佐藤金治郎氏の弟子である菅原安之助氏を師匠に生出神楽が発足。会員10人が集まった。

大正10年(1921)から菅原武雄氏が師匠となり後継者育成に務めたが戦争で中断。昭和47年(1972)に再び武雄氏が地元の子供に鶏舞を教えるも軌道には乗れなかった。62年(1987)、菅原トシ子氏が里前神楽保存会に改名して再興した。

会員は女性だけの6人。大木神楽の鈴木俊雄氏を師匠に練習した。平成17年(2005)からは大木神楽と合同で活動してきたが、大木神楽同様、22年(2010)から休止している。

- 名称 里前神楽保存会
- 会長 菅野ヨリ子(東山町長坂字里前51)

一関市の南部神楽一覧

No.	地区	芸能の名称	保持団体名称	開始時期	由来、創始、経緯	神社奉納など	地域との関わり	学校への指導
1	一関	一関夫婦神楽	一関夫婦神楽	昭和50年	近所の仲間同士の楽しみのため。瑞山国首神楽から伝授	温泉神社例祭で鶏舞奉納	蔽美公民館文化祭等に出演	—
2		市野々神楽	市野々神楽同好会	昭和51年	イベント出演のため「読書会」メンバーで開始。南沢神楽保存会員が指導	(吾勝神社への奉納(S50年代))		市野々小(統合)、萩荘小、中
3		達古袋神楽	達古袋神楽	江戸末期か	弘化年間の伝承。明治5年からの名簿あり	八幡神社春季例祭巡行に随行、鶏舞奉納	達古袋地区合同運動会など	達古袋小(S40代～H20)、蔽美中(H15～)
4		富沢神楽	富沢神楽保存会	明治中期	飯倉神楽から伝授。大正初期に途絶え、昭和3年再興。再度途切れ、昭和50年再興	田村神社、八幡神社、月館神社(日形)、蚕養神社奉納	神社奉納鶏後に地域上演会。弥栄地区芸能祭などに出演	弥栄小、一関東中
5		中里鶏舞	中里鶏舞踊り隊	平成26年	沢田神楽から指導を受けた鶏舞を継承する	H26 愛宕神社へ奉納	地域行事への出演	中里小へ指導(H26～)
6		古内神楽	古内神楽保存会	江戸末期	下黒沢神楽から伝授	(春日神社(S50頃迄))	公民館上演会を開催。萩荘祭に出演	—
7		牧澤神楽	牧澤神楽保存会	明治42年	板倉神楽から師匠を招き伝授。昭和60年頃途絶え、平成14年再興	八幡神社秋季例祭鶏舞奉納	施設慰問など	真滝中(S38頃～)、滝沢小
8		南沢神楽	南沢神楽保存会	昭和15年	本郷神楽(市野々)の師匠を招き伝承。平成元年から11年まで休止	吾勝神社奉納(不定期)	南沢交流ツアーなど地域イベントでの上演	—
9		蓬田神楽	蓬田神楽保存会	明治25年頃	法印神楽を伝授した初代が、隣接する赤伏神楽を取り入れ、創設	大威徳天神社(氏神社)への鶏舞奉納と上演会	—	舞草小(S60～)、舞川小
10	花泉	白浜神楽	白浜神楽会	昭和45年	栗原神楽から伝授。昭和50年代には大門神楽からも指導	八雲神社で鶏舞奉納	神社奉納後上演会	(亥年小)、涌津小
11	大東	京津畑神楽	京津畑神楽保存会	明治35年頃	高金神楽、佐藤金治郎氏が教授。昭和30年頃から休止(奉納は継続)、平成元年復活	日月神社、ほか地域内の神社への鶏舞奉納	山がっこイベントでの出演など	京津畑小(～H18)
12		瀬台野流市之通神楽	瀬台野流市之通神楽保存会	大正6年	江刺田原、川内神楽を伝授した	興田神社例祭で奉納	地区行事での上演	—
13		天狗田代々神楽	天狗田代々神楽保存会	大正期	田河津村高金神楽、奥玉村磐清水村からそれぞれ伝授する。戦後から昭和59年まで中断など	天狗田神社奉納	地域公民館での収穫祭での上演会など	天狗田小へ指導
14	千厩	愛宕神楽	愛宕神楽保存会	昭和48年	増沢神楽(藤沢町)、熊田倉神楽(千厩町)から伝授	秋葉神社秋季例祭での演目上演	—	—
15	川崎	布佐神楽	布佐神楽保存会	江戸末期(文久3年(1863))	相川村の法印神楽(か)を伝授。明治期に松川の法印神楽を習得	熊野神社・伊吹神社奉納	奉納後、定例上演会を開催	門崎小(～H23)、川崎小(H24～)
16	藤沢	下大籠南部神楽	下大籠南部神楽保存会	昭和8年	栗原郡金成から来た師匠から習得	神明社神社への奉納	神社奉納後の自治会館上演会	大籠小(～H21)
17		本郷神楽	本郷神楽保存会	明治中期か	瑞山神楽を伝習した保呂羽神楽の一人を師匠にして伝習	葉山神社で奉納	奉納後神楽殿での上演会	—
18		増沢神楽	増沢神楽保存会	明治42年	小梨熊田倉神楽などから指導を受ける	(立石神社(～平成元年))吉祥寺の観音講での上演会	施設慰問など	新沼小(S44～平成)

地域の子供への指導	保存会	現在上演可能演目	備考
—	×	東下り、五條の橋、二度対面、宝剣納め、羽衣、屋島合戦、彦火出見尊	
「自鏡っこクラブ」指導	×	鶏舞	
「達古袋子ども鶏舞保存会」指導	○ (有志)	鶏舞、三番叟、岩戸入、岩戸開、瓊瓊杵尊、彦炎出見尊、羽衣、田村二代、安部保名、屋島合戦、一の谷、五條の橋、弁慶安宅関、牛若丸・秀衡公二度対面の場、宝剣納め(佐藤正行氏、明神舞、降神の舞、歴代継承者)	阿部長治氏=市無形民俗文化財芸能保持者指定(S51、56解除) 阿部孝氏=市無形民俗文化財芸能保持者指定(H11、17解除)
地区の子供を指導	○ 地区全戸	鶏舞、三番叟、岩戸入、岩戸開、おろち退治、国授、宝剣納め、義経物語、信田ヶ森	
H27年度講習会実施 小学校へ指導応援(春、冬)		鶏舞	
会員の子供が参加	×	鶏舞、三番叟、岩戸入、神別れ田村二代、五條の橋、屋島合戦、宝剣納め、秀衡対面	神楽蛇面、市指定有形民俗文化財(S48)
地区(真滝12区)の子供に指導	○ (有志)	三番叟、神分かれ、岩戸入、岩戸開、御室焼き、彦炎出見命、宝剣納め、羽衣、石童丸、敦盛妻別れ、法童丸親子名乗、葛葉物語、葛ノ葉子別、東下り、法掛け、五條ノ橋千人切	初代庭元阿部繁雄氏は市無形民俗文化財芸能保持者に指定(S51、56解除)、『神楽神代記』(T13以降)所載
×	○ (有志)	鶏舞、三番叟、岩戸入神談、岩戸開祝詞、魔王退治、五大領、宝剣納め・盗み取り・奪い返し、信田ヶ森、屋島合戦、安宅の関	『受け継ぐ伝統文化 創立65年の歩み』(H17)南沢神楽創立周年記念式典実行委員会編集・発行
会員の子供が参加	○ (有志)	三番叟、天の岩戸入り、岩戸開き、瓊瓊杵尊、地神四代の帝彦火炎手見之尊、豊玉姫之尊の産小屋、龍宮出現、三熊大神退治、五大龍、羽衣、叢雲、宝剣納め、一ノ谷、黒塚、八俣の大蛇退治、田村將軍利春、二代田村中將利通、三代田村將軍純友、橋弁慶	蓬田稔氏=市無形民俗文化財保存技術保持者指定(H11)
×	×	鳥舞、翁舞、三番叟、岩戸開、岩戸入、彦火出見尊、手玉織、宝剣納め、五代領、大蛇退治、神分舞、高間登り、西の宮、三熊大人、天降り舞、羽衣、作耕舞、天孫天下り、岩長、日本武尊、三熊神語、一ノ谷、義経一代記、葛葉物語、曾我物語、楠木一代記、田村三代記、小敦盛記、道化棒しばり・いな切り・神楽見物・関所破り	
会員の子供が参加	○ 地区全戸	鶏舞、岩戸開き、羽衣、牛若丸(橋弁慶)	
(H10頃小中学生に指導)	○ (有志)	御神楽舞、山ノ神舞、三葉舞、八幡舞、道引舞、岩戸開舞(くずし舞付)、日光権現、一ノ谷嫩軍記	『瀬台野系神楽口唱歌誌』S58に掲載
地域の子供に指導	○	羽衣、三番叟、天の岩戸開き、四節分け	
×	○ (有志) 後援会あり	白露、祝詞、鳥舞、三熊退治、蘇民将来、大蛇斬、日本武之命、高山掃部長者物語、信田ヶ森、天ノ岩戸開、西ノ宮大神、魔民退治、三番叟、五大領四節分、日光権現、女舞	
○(S47～)	○ 地区全戸	三番叟、御神楽、岩戸開、三宝荒神、所望分神語、水神明神、魔王神語、御室焼、五矢神語、黒塚、羽衣、叢雲神語、屋嶋の合戦、小袖曾我、一ノ谷の合戦、玉織姫子捨ての場、法童丸母との対面、法童丸父との対面、楠公、げんべはり	岩手県指定無形民俗文化財(H25)
地区の子供を指導	○ (有志)	のりと、白露、神楽由来、三番叟、岩戸開、蛭児の尊、牛若丸、一東の宝剣、屋嶋合戦、宝剣たばかり、三熊退治、水神舞、天孫降臨、大蛇退治、宝剣納め、羽衣、日光権現、田村三代記、竹生島、楠公父子の別れ、信田森	
地区の子供を指導	○ (有志)	翁舞、参番叟、御神楽、西雲八幡舞、山之神舞、明神舞、勇伝之部、天下里之部、参宝荒神、水神明神、天之叢雲宝剣由来記、五矢神話、西之宮、竜宮兄弟合戦、日本武之尊草薙之宝剣奉納、玉取り姫	
地区の子供を指導	○ (地区の有志)	鶏舞、三番叟、岩戸開、四節分、信田森、高山掃部長者、竜神舞、日光権現、天之雲神話、蘇民将来、羽衣、道成寺、五條の橋	『神楽の由来』(S44新沼小学校佐藤正治校長作成)

一関市の南部神楽一覧

地域の神楽 市指定無形民俗文化財

No.	地区	芸能の名称	保持団体名称	開始時期	由来、創始	状況
1	一関	瑞山国首神楽	瑞山国首神楽	明治初期	国首山奉納のため、藤沢から習得	H23に温泉神社に奉納。本寺中への指導は継続
2	花泉	大門神楽	大門神楽連中	江戸末期 (天保6年(1835)頃)	地藏尊別当が東磐井郡相川村(現舞川)の法印を師匠に法印神楽を伝授	H12から休止。ただし、金沢小へは指導を継続。地区で鶏舞の習得の動きあり
3	室根	浜横沢神楽	浜横沢神楽保存会	明治29年	明治29年、日清戦争の勝利を記念し、弥栄村の師匠を招いて習得	H12の以降は実績なし

神社奉納等	学校への指導	地域の子供への指導	保存会	備考
過去には国首山奉納、山神社奉納など	本寺中 ※三団体共同(H元～)	—	—	「 μ 切舞」市指定無形民俗文化財(S48)
大門神社ほか	金沢小	—	—	市指定無形民俗文化財(S53)
弥栄神社	—	S50頃に指導したこともあった	○ (有志)	市指定無形民俗文化財(H2)

地域の神楽 活動中の南部神楽

No.	地区	芸能の名称	保持団体名称	開始時期	由来、創始
1	千厩	奥玉神楽	奥玉神楽同好会	明治14年(1881)	明治14年(1881)瑞山より伝承。村々の祭りで演じられてきた。昭和48年奥玉神楽同好会を結成した
2	千厩	中日向鶏舞	中日向鶏舞保存会	平成5年(1993)	平成5年(1993)に奥玉の民芸大会に出し物を出そうと婦人グループで考え、奥玉神楽の指導を受けて開始
3	東山	夏山神楽	夏山神楽保存会	大正10年(1921)	竹沢神楽(東山町竹沢)の千葉勇之進の弟子・高橋寅之助が竹沢から横沢に分家後、大正10年(1921)に夏山・横沢の若者に伝授した
4	藤沢	黄海神楽	黄海神楽保存会	明治35年(1902)	戦前、千葉猛(明治35年生)が花泉飯倉神楽から教わって黄海で始めた。幾度かの中断を経て平成22年(2010)から活動再開中

活動	演目	備考
地域の八坂神社奉納ほか	鶏舞、信田森ほか	千厩町史(第5巻現代編 平成17年)793頁
依頼を受けてイベント出演など	鶏舞	
以前は市の大会や県南大会、新築や厄年の祝いに呼ばれていた	御神楽(鶏舞)、岩戸開き、一の谷、海彦山彦、弁慶安宅の関、広胤、葛の葉、田村一代記、弁慶	『夏山神楽演技本』作成
黄海公民館での芸能発表会	鶏舞、段事舞	

地域の神楽 小中学校の伝承を支える神楽

No.	地区	芸能の名称	保持団体名称	開始時期	由来、創始、状況
1	一関	本寺神楽	本寺神楽保存会	慶応年間	慶応年間(1865～1868年)に、佐藤篤治氏を庭元に山谷神楽の師匠から指導を受けて創設。中断を繰り返したが、平成13年に解散式「庭固め」を行った
2	花泉	奈良坂神楽鶏舞	奈良坂神楽鶏舞クラブ	昭和20年代後半	昭和20年代後半に宮城県栗原郡若柳町武館(現栗原市)で舞われていた鶏舞が当地域に伝播された。以来、奈良坂神楽保存会により伝承されてきたが、胴取や舞手の指導者が高齢化し活動ができていない
3	花泉	永井神楽	永井地区郷土芸伝承保存会	昭和42年(1967)	昭和42年に旧神楽団体三団体が合併し、永井白崖の千葉勇氏の指導を受けて設立
4	千厩	濁沼神楽	新浪鶏舞保存会	昭和50年(1975)	明治5年頃に赤荻の高橋先生を招いて神楽を習い、各地から依頼されるようになったという。平成7年(1995)に新浪神社の巫女舞を習っていた女性たちが、濁沼神楽の小野寺晃氏の指導を受けて鶏舞を習得し、小学生とともに新浪神社納するようになる

学校への指導	備考
本寺中学校に胴取りが指導を続けている	芳賀哲夫(1992)『本寺地区神楽の歴史 一本寺中学校神楽 舞踊の沿革史』
花泉小への継承のため奈良坂神楽鶏舞クラブを結成し学校指導を続けている	
永井小へ30年にわたり指導を行ってきた	広く地域住民に支援を得ながら鶏舞教室を市民センターで開催
磐清水小学校への指導を行っている	

地域の神楽 再興待たれる南部神楽

No.	地区	芸能の名称	保持団体名称	開始時期	由来、創始
1	大東	下猿沢南部神楽	下猿沢南部神楽保存会	明治21年	明治21年(1888)猿沢今向の菅原喜蔵氏が庭元となり、笹谷神楽の鈴木伊代治、相川字馬洗淵の千葉虎之進、吉田正一郎を師匠にして創設。大正年間には笹谷神楽から再び師匠を招き指導を受けた。『南部神楽系譜調査報告書』77頁(平成7年)
2	東山	大木神楽	大木神楽保存会	大正2年	大正2年(1913)、佐藤金治郎氏を師に迎え、大木青年倶楽部会で12人が習い始めた。鈴木源四郎氏、鈴木美瑛男氏、鈴木正三郎氏、鈴木欽二氏が歴代師匠として継承してきた
3	東山	里前神楽	里前神楽保存会	大正4年	大正4年(1915)佐藤金治郎氏の弟子菅原安之助氏が師匠とし生出神楽が発足。会員10人で習い、大正10年から菅原武雄氏が師匠となり後継者育成に努めた

南部神楽と学校教育

学校教育における南部神楽（鶏舞）

平成27年度(2015)現在、市内の小学校33校のうち15校(45.45%)が、中学校18校のうち4校(22.22%)が運動会・体育祭や文化祭で、南部神楽の「鶏舞」を披露または発表している。

特に小学校は、半数近くが取り組んでおり、統合によって26年度(2014)までに閉校した学校の過去の取り組みも含めると、その数はさらに増え、市内全域で鶏舞が盛んであることを示している。

児童・生徒への指導の多くは保存会など神楽団体によって行われているが、長年継承されてきたことから、児童・生徒や教職員が自分たちで指導できる学校も少なくない。3学期に上級生から下級生への指導期間を設け、年度末に引継式を行っている学校も多く、児童・生徒同士で継承されている点も特徴的である。

指導の母体は神楽団体であるが、途中で団体が活動を休止したり、解散したりした場合でも、学校への指導は続けている。つまり、現在活動していない神楽団体の鶏舞が、学校教育の場で引き継がれているのだ。指導者の一人は「継承できるのであれば、それでもいい」と話している。

指導者の高齢化が進む一方で、平日昼間の指導は、仕事のある若い指導者の負担となり、学校指導の課題となっている。

練習における問題は囃子である。太鼓を叩く後継者の確保は団体自体の課題であるが、太鼓の指導者が毎回、学校に来れるわけではないため、録音音源による練習になる。その場合、途中で音を止めてパートごとに練習することは難しい。このような中、生徒が太鼓も含めて練習している萩荘中学校の取り組みは特筆すべきである。

運動会や体育祭での披露は、保護者だけでなく地域の人たちの楽しみにもなっている。また、長年継承されているため、児童・生徒だけでなく、かつて習った保護者たちも踊れる学校では、鶏舞が地域のシンボルになっている。

本市における学校の鶏舞活動は、児童・生徒が地域の歴史、文化を学び、絆やつながりを確認できる場として脈々と受け継がれている。



運動会で鶏舞を披露する中里小児童

右ページの表は、聞き取り調査に基づき、次の文献を参照して作成した。

- ・川口明子(2015)「岩手県の小・中学校と郷土芸能—平成26年度 郷土芸能教育実施状況アンケート調査(第4次)—」岩手大学教育学部音楽科教育研究室発行
- ・一関市教育委員会学校教育課(2013)「今、地域の学校がおもしろい 第3集 わたしたちが受けつぐ地域の行事・伝統芸能」一関市教育委員会

一関市内小・中学校の鶏舞の取り組み

学校名	児童・生徒数(H26)	演目(学年)	発表機会時期	指導者・指導団体	各種行事への参加	取り組み開始	内容
赤荻小	328	鶏舞(4~6)	運動会5月	3人 太鼓:佐々木久(元山谷神楽) 鉦:菅原仁志、熊谷久雄(以上赤荻神楽)	6月 どんぐりの会 9月 リレーフォーライフ 10月 学習発表会 11月 一関学習交流館まつり	S49(1974)	総合的な学習の一環。生徒・教職員が取り組む。指導者はリハーサルと本番に参加
中里小	204	鶏舞(5、6)	運動会5月	鶏舞踊り隊	11月 感謝の会	H26(2014)	中里中の鶏舞を継承。練習は踊り、太鼓・鉦を複数の保存会員が指導
滝沢小	156	鶏舞(4~6)	運動会5月	2人 (牧澤神楽保存会)	2月 引き継ぎ式	H14(2002)	体育の表現活動とクラブ活動(2~4時間)で練習。期間中の一部を保存会が指導
弥栄小	39	鶏舞(4~6)	運動会5月	2人 (富沢神楽保存会)	9月 祖父母参観 10月 学習発表会 10月 いやさか祭り	S53(1978)	3年生3学期に保存会の講話を聞き、6年生から指導を受ける。保存会が太鼓で指導。児童も鉦を練習
萩荘小	408	鶏舞(4~6)	運動会5月	佐藤慶男(市野々神楽同好会) 市野々神楽同好会	4月 一関春祭り 9月 他地域の施設のお祭り	S45(1970)	保存会が数日指導した後は、教職員と児童が指導者となって録音音源で練習。太鼓指導者は運動会当日参加
巖美小	16	鶏舞	体育祭5月	複数 (達古袋神楽)	-	S45(1970)	保存会が指導
舞川小	96	鶏舞(4~6)	運動会5月	3人 (蓬田神楽保存会)	10月 マイリバー祭り	H6(1994)	旧舞草小の鶏舞を継承。練習期間の一部は、太鼓で指導
永井小	114	鶏舞(4~6)	運動会5月	1人 阿部良(永井地区郷土芸能伝承保存会)	ボランティアイベント等	S60(1985)	全ての練習に保存会が参加。太鼓で指導。父母らも踊れる。H26、27運動会は親子で共演
涌津小	128	鶏舞(5、6)	運動会5月	複数 (白浜神楽会)	2月 引き継ぎ式 9月 敬老会 6月 地区民運動会 11月 芸能祭	S58(1983)	取り組み当初から市民センターが協力、調整をしている。引継式を含め、指導者が太鼓で指導
花泉小	151	鶏舞(4~6)	運動会5月	3人 及川守(奈良坂神楽鶏舞クラブ)	9月 地区敬老会 11月 JAまつり	S46(1971)	教職員が指導。保存会の指導者は本番直前3日間。当日も含めて録音音源で踊る。奈良坂分校合併を機に始めた
金沢小	127	鶏舞(5、6)	運動会5月	3人 小野寺弥(大門神楽連中ほか)	9月 祭礼(大名行列) 10月 農業祭	S55(1980)	教師が指導。保存会の指導は本番直前
磐清水小	48	鶏舞(4~6)	運動会5月	2人 菊地玲子(新浪鶏舞保存会)	7月 千厩夏祭り 11月 神社奉納祭(寺沢、濁沼)	S50(1975)	保存会の指導は2回。それ以外は教職員が録音音源で指導
川崎小	161	鶏舞(4~6)	運動会5月	複数 (布佐神楽保存会)	10月 町民体育祭	H25(2013)統合	統合時、旧門崎小の要請で鶏舞を引き継いだ。統合後の児童数に合わせて道具を整備。太鼓で指導
黄海小	98	鶏舞(4~6)	運動会5月	学校で指導	1月 子供郷土芸能発表会 3月 6年生を送る会	H14(2002)	教職員が録音音源で指導
新沼小	46	鶏舞(4~6)	運動会5月	複数 (増沢神楽保存会)	1月 子供郷土芸能発表会 ※一部地区の児童	S50頃	保存会が太鼓で指導。運動会に中学1年生の参加は恒例
一関東中	101	牧澤鶏舞(真滝)、 富沢鶏舞(弥栄)	体育祭5月	真滝地区 2人(牧澤神楽保存会) 弥栄地区 2人(富沢神楽保存会)	10月 一関地方文化祭	H20(2008)	保存会の指導は2~5日ほど
萩荘中	194	鶏舞	体育祭5月	1人 佐藤慶男(市野々神楽同好会)	10月 市中学校総合文化祭 11月 県中学校総合文化祭	S44(1969)	生徒と教職員が指導。保存会の指導は当日。太鼓、鉦にも生徒が加わる
巖美中	81	鶏舞	体育祭5月 文化祭10月	達古袋神楽	5月 体育祭 10月 文化祭	S45(1970)	保存会が指導
本寺中	23	本中鶏舞(1~3)	文化祭10月	1、2人 佐藤勲(本寺神楽保存会)	地区納涼祭(8月)、地区民運動会(9月)	H2(1990)	瑞山国首・本寺・小猪岡の3神楽を統合し、創作した本中神楽を舞う。瑞山、本寺の指導者が太鼓を叩きながら練習の一部を指導

休止している南部神楽一覧

地区	芸能の名称	由来	出典、最終出場大会等
一関	赤猪子神楽	明治初期から中期に創設か、昭和初期に休止	『萩荘史』528頁
一関	赤萩神楽	明治12年の台本あり、昭和30年代休止	『山目史』586頁
一関	赤萩中条神楽	—	『一関市史第3巻各説II』275頁
一関	一関神楽保存会	—	平成22年3月第25回一関民俗芸能祭
一関	五串神楽(厳美町)	—	「岩手県民俗芸能緊急調査票(悉皆調査)」(平成21年)
一関	大林神楽	下大林の団体。昭和10年頃復活させた	『中里村史』 832・833頁
一関	川台神楽	昭和52年結成。市野々南沢神楽佐藤寿人氏を師匠に代表は菊地弘氏。17人の同志とともに子供にも鶏舞を指導していた	『萩荘史』542頁
一関	上黒沢神楽	明治から大正の初期まで活動。後継者なく休止	『萩荘史』543頁
一関	川台神楽(旧)	明治年間上川台・菅沢の人によって創設。後継者なく休止	『萩荘史』543頁
一関	鬼死骸神楽	明治期、神社の祭典に奉納。以降も仲間を作って舞っていた	『復刻真瀧村誌』185頁
一関	鶏翔萩の会	南沢神楽の佐藤慶男師匠から指導を受けた女性の鶏舞の会。平成24年の出場以降は休止中	平成24年3月第27回一関民俗芸能祭
一関	厳美神楽	—	平成6年6月第11回岩手県南宮城県北民俗芸能大会
一関	狐禅寺神楽(狐禅寺芸能保存会)	明治期、神社の祭典に奉納	『復刻真瀧村誌』185頁、平成6年「法印神楽・南部神楽団体名簿」、平成22年3月第25回一関民俗芸能祭、平成24年3月第27回一関民俗芸能祭
一関	小猪岡神楽	—	「岩手県民俗芸能緊急調査票(悉皆調査)」(平成21年)
一関	沢田神楽	沢田愛宕神社別当宅に神楽道具あり。明治初期創設か、昭和51年に復活	『中里村史』 832・833頁、平成6年 「法印神楽・南部神楽団体名簿」
一関	笹谷神楽	文政年間(1818～)笹谷部落の長老鈴木三郎右衛門が笹谷稲荷社に奉納したのが始まりという。明治期には活発な活動をし、周辺に伝授した。昭和54年(1979)から中断	『山目史』589頁、『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
一関	下黒沢神楽	一関地方の草分けの一つ。初代富右衛門は法印神楽の弟子となり、神社などに奉納、二代目富右衛門が法印の許可を得て南部神楽を習得し普及指導。昭和43年(1968)八代目まで継承していたが、休止。装束、面の保管あり	『萩荘史』540頁
一関	高梨神楽(高梨楽友会)	昭和50年(1975)結成。前堀神楽の小野寺庄治氏、小野寺春治氏を師匠に職人仲間の交友を深めるために小野寺強氏が代表となり始めた	『萩荘史』542頁
一関	滝沢神楽	明治期、神社の祭典に奉納	『復刻真瀧村誌』185頁
一関	堂の沢神楽	明治中期達古袋神楽から分かれる。	『萩荘史』536頁
一関	長倉神楽(達古袋)	かつては長倉芝居があり盛んだった。昭和19年から練習、22年発足。師匠を本寺神楽佐藤永治氏、佐藤金一氏にたのみ三浦善右衛門氏のもとに始めたが、5、6年で休止。昭和38年に当時の舞手らを師匠に再開した。	『萩荘史』541頁

地区	芸能の名称	由来	出典、最終出場大会等
一関	中里神楽	—	『一関市史第3巻各説II』275頁「法印神楽・南部神楽団体名簿」
一関	中条神楽	—	「法印神楽・南部神楽団体名簿」
一関	羽根橋神楽	明治から大正にあった	『萩荘史』543頁
一関	本郷神楽	明治初期から中期に誕生か、昭和15年に南沢神楽に継承	『萩荘史』528頁
一関	前堀神楽	大正末期から昭和初期	『中里村史』 832・833頁
一関	山手女神楽	昭和45年頃設立したが、その後休止	『山目史』586頁
一関	山谷神楽	代表者が山谷小学校に鶏舞を指導。他は活動なし	「法印神楽・南部神楽団体名簿」「岩手県民俗芸能緊急調査票(悉皆調査)」(平成21年)
花泉	飯倉神楽	昭和55年頃から休止中。道具や伝書があり	「岩手県民俗芸能緊急調査票(悉皆調査)」(平成21年)
花泉	熊ノ倉神楽(涌津熊ノ倉)	八幡神社に奉納。平成初め頃から休止中	「岩手県民俗芸能緊急調査票(悉皆調査)」(平成21年)
花泉	花泉神楽(花泉町涌津字下原)	—	—
大東	曾慶代々神楽	金鳥神社への奉納神楽。達谷(現平泉町平泉)から、また笹谷神楽から伝授といわれている。明治期に佐藤金治郎を招いた。戦後途切れたが、昭和51年に小山高臣氏らに伝承され、他地域に指導しながら活動していた	昭和61年6月第3回岩手県南宮城県北民俗芸能大会
千厩	熊野神社法印神楽	—	『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
千厩	熊田倉神楽	明治43年、千厩町清田地区で創立。大正13年頃より中断、昭和23年に復活した	『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
千厩	駒場神楽	—	『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
千厩	新館神楽	奥玉神楽から伝授	『千厩町史 第5巻現代編』793頁
千厩	駒場神楽	—	『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
千厩	立石神楽	奥玉神楽から伝授	『千厩町史 第5巻現代編』793頁
千厩	尖ノ森神楽(小梨)	小梨、休止中	『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
千厩	濁沼南神楽	明治5年頃、赤萩の高橋氏から伝授した。昭和50年からは磐清水小学校に指導している	『千厩町史 第5巻現代編』795頁
千厩	濁沼神楽	—	『岩手県の民俗芸能一岩手県民俗芸能緊急調査報告書一』(平成9年)
東山	栗柄田神楽	明治三十年頃、千葉栄三郎(安政期生まれ、昭和9年没)が教え、栗柄田で一座を作った。弟子の佐々木仁三郎(1880～1922)が師匠となったが、没後は衰退	『東山町史』957頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)
東山	磐井里神楽	栗柄田神楽の弟子である佐藤佐兵衛(1878～1936)が大正期に創始。千葉栄三郎の面が残っている。平成期には小学生に指導を始め活動していた	『東山町史』957頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)、「さなぶり」(平成13年)東山芸術文化協会主催

休止している南部神楽一覧

地区	芸能の名称	由来	出典、最終出場大会等
東山	生出神楽(柿の木神楽)	大正4年、摺沢生まれの菅原安之助が婿養子に来て始めた。千葉栄三郎の弟子の高金馬吉や佐藤金治郎の指導を受けた。戦中など途切れていたが、昭和48年に再興した	『東山町史』958頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)
東山	渋民神楽	千葉栄三郎が指導。	『東山町史』952・953頁
東山	紙生里神楽	達谷(現平泉町平泉)から婿入りした作十郎(1831～1891)が組織した一座。作十郎が亡くなり休止。	『東山町史』955頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)
東山	竹沢神楽	千葉栄三郎が指導。佐藤金治郎が弟子となった。戦中に道具の散逸があり、休止。	『東山町史』955頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)
東山	高金森(野土)神楽	佐藤金治郎(1847～1955)が明治42年、地域の若者に伝授。大勢になったため、矢の森組が分離。大正末期には衰退。	『東山町史』955頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)
東山	野(野平)神楽	明治期から神楽があったが、大正3年に佐藤金治郎を招いて指導を受けた。戦中期に途絶えていたが、昭和43年、松川中学校の生徒に鶏舞を教え運動会で披露したことから復活、昭和60年公民館活動として活動。平成3年頃に女性の入会者があり、女性同好会として活動していた。	『東山町史』959頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)、『岩手県の民俗芸能—岩手県民俗芸能緊急調査報告書—』(平成9年)、「さなぶり」(平成13年)東山芸術文化協会主催
東山	矢の森神楽	明治43年、矢の森出身者が高金森神楽から分離。菅原栄四郎(1884～1957)が座長となり、小学生などにも指導。終戦の混乱で自然に休止。	『東山町史』956頁、東山町神楽保存会創立十周年記念誌(平成8年)
室根	津谷川神楽	津谷川神楽千代ヶ原正遊会が伝承。代表者は気仙沼市。旧大津保村の神社等で奉納。	『岩手県の民俗芸能—岩手県民俗芸能緊急調査報告書—』(平成9年)
藤沢	保呂羽神楽	明治15年頃、浜横沢生まれの加藤勇八から端山神楽を伝授され、多くの弟子が学んだ。各地から依頼が多く寄せられたが次第に衰え休止。	『藤沢町史本編下』(昭和56年)395頁

III 上演会

南部神楽上演会事業

南部神楽調査研究事業の一環として平成26年9月から27年12月まで8回の「上演会」を行った。上演会は、橋本裕之主席調査員が企画。地元こだわりの、演目披露の場、記録保存の場にするともに地域の中での上演機会の拡充に積極的に関与した。これは、調査機会を課題解決や活動再開に結びつけようとする提案であり、新しい調査スタイルとして報道各社にもたびたび取り上げられた。

各団体共通の課題は後継者不足であり、その解決に向け、ターゲットを地元絞ったのである。地

域の公民館を会場に、地域の人たちに、飲食を楽しみながら、雑談しながら、ゆっくり、じっくり鑑賞してもらい、あらためてその価値や魅力を再認識してもらおうというスタイルである。南部神楽に造詣の深い鈴木雄二氏(奥州市)に撮影を依頼し、演目はもとより幕間を含めた一切を記録。調査資料としてだけでなく各団体の保持演目の芸態記録としても活用できるようDVDに収録した。

成果は予想を上回るものだった。上演会をきっかけに新たな後継者が誕生したり、子供たちが興

味を示して参加したりするなど、複数の団体で継承に結び付く新たな動きがみられた。また、活動を再開した団体や活発化した団体も少なくない。

8回の上演会を通して確認できたことは、継承には地域の理解が不可欠であることだ。いずれも予想を上回る賑わいで会場は満席になり、生き生きと舞う、その姿に感動する、そんな舞台と客席が神楽で一つになる好循環を目の当たりにした。

最終回の天狗田代々神楽上演会に特別ゲストとして出演した国指定重要無形民俗文化財「岳神楽」

の小国朋身会長は「見る人がいる、それが民俗文化財を支える力である」と語り、「その仕組みをあらためて地域で考えることが保存継承の第一歩」と強調した。上演会は「演じる側」と「見る側」の双方によって成り立つものであり、文化は「担う側」と「支える側」の両輪によって保存継承されるものであることを結論付けた上演会事業であった。

神楽の継承や保存のために貴重な意見を寄せていただいた小国朋身氏の談話を橋本氏との対談から抜粋編集して掲載する。

VOICE ◆天狗田代々神楽上演会「対談」から

「小さな地域の大きな神楽」



(語り手)
小国朋身氏
国指定重要無形民俗文化財
ユネスコ無形文化遺産登録
岳神楽保存会会長(花巻市大迫町岳)

普段は、話す人間性が出るので上演後に素顔を見せないようにしている。信仰していただき、素晴らしい神楽をそのまま家に持ち帰ってほしいと思っている。また、神楽そのものを信仰の対象として見てほしい、感じてほしいから、解説もしていない。

今回は、長い付き合いの橋本先生から「神楽の保存継承に苦勞されている天狗田代々神楽が復活した」と声を掛けていただき、これまで岩手のために一生懸命頑張ってきた橋本先生に、恩返ししたいという思いで対談を引き受けた。

早池峰神社の門前の六坊という宿坊の六軒が伝えてきた岳神楽は、岳地区10軒が担い手。明治の廃仏毀釈で禰直の4軒が加わって10軒になり、今日に至る。世襲で長男だけに教えており、父親の背中、祖父の背中を見て、小さいと

きから神楽を学ぶ。

子どもたちは、隣近所みんながやっているから「そういうものだ」と思っている。上手下手ではなく岳の長男だからやる。続けるうちにうまくなる。公演は年間60回以上。神楽の基本は三歳から学ぶ。だが、酒の入る大人の世界、未成年者は入会させない。

今日も息子と来たので家を空けている。家族の理解がなければ続けることはできない。

大事なことは、こうして呼んでくださる人がいること。見てくれる人と公演機会を与えてくれる人がいれば、神楽は残る。

若い人たちに強制するのではなく、子供や帰ってきた人を迎え入れる地域の体制が大事だと思う。地域全体で芸能を守る姿を見た次世代は、きっと「自分たちも」と思うはずだ。

続けていくためには、誰かが引っ張っていかなければならない。神楽バカになるリーダーが必要だ。普段の練習はきつい。頑張る力の源は、地域の皆さんの喜ぶ顔と声援。一番のエネルギーだ。担い手が集まり練習を重ねる。本番を積んで、芸が体にしみ込んでいく。回数を重ねるほど上手くなり、それぞれの味が出てくる。

楽しみも必要だ。東京公演などは「飴」。さらに、今日を記念日にする。今日来た人は来年も集まるという約束をしたり、毎年、年納めの会をしたりするなど、継続させる工夫も欠かせない。

日本人だからこそ、伝統芸能などいいものはなくしたくない。皆さん古里が好きですよ。都会は便利で暮らしやすい。でも、私は生まれた場所が一番好きだ。親がいて、山や川があって、古里の環境が一番好きだ。

岳は環境が厳しく、一人では暮らせない。冬場はずっと雪の中だ。それでも岳が好きだし、誇りに思う。先祖を守りたい、二男など家族が帰省する場所を守りたいと思っている。あとは、どうやって奥さんを連れて来るかだね。

(若い後継者へのメッセージ)

神楽は10人いればできる。岳神楽は40数曲の演目にそれぞれ裏表があり、昼用と夜用がある。道具を全部持ち歩き、どの演目でも上演できるようにしている。舞手をとっかえ、ひっかえしながら5、6時間踊ることも少なくない。10人いれば3、4時間はできる。上手い下手は関係ない。入会して練習すれば必ず上手くなる。まずは入って、神楽をやってみてほしい。



(聞き手)
橋本裕之氏
南部神楽調査研究チーム主席調査員
(追手門学院大学地域創造学部教授)

上演会
01平成26年度地域おこし事業
再発見!地域の宝物「蓬田神楽」発表会

●日時 平成26年9月6日(土) 14:00～17:00 ●場所 蓬田神楽庭元宅(舞川字蓬田)

蓬田一族の宝を地域の宝に



1 背景

明治25年(1892)から庭元のもとで神楽を継承してきた蓬田神楽は、現在もなお氏神社等での奉納を続けており、信仰と娯楽が一つになった南部神楽の在り方を示す活動を展開している。

五代目庭元蓬田稔氏は、一関市指定無形民俗文化財保存技術保持者に指定されていて、神事としての慣習や演技の手法などを意識した伝承を行ってきた。

しかし、地域の中で蓬田神楽を見る機会は限られており、毎年行われる氏神社への奉納や庭元での神楽上演を知る人は、そう多くはない。

かつて、継承の危機に直面した蓬田神楽は、地域の青年団の参加を得て再興した。保存会にとって地域との関わりは存続する上で大きなテーマであり、上演会の企画には積極的な賛同を得た。

上演会は「平成26年度地域おこし事業」を活用して開催。予想を上回る来場者に、会場は立ち見が出るにぎわいだった。

2 上演会

同日は、上演会に先立ち、氏神社である大威徳天満宮に「鶏舞」を奉納した。

会場には、白を台にコンパネを敷いて掛け舞台を作り、忌竹を立て、注連縄を張り巡らした。昔ながらの舞台が、保存会員や蓬田家の人たちによって再現された。

午後2時から始まった上演会は、岩戸開など3演目を上演。地域住民や神楽関係者のほか県外の神楽ファンも訪れ、来場者は150人を超えた。会場では、女性たちが手作りした餅が振る舞われ、訪れた人たちは、飲食しながら心ゆくまで神楽を楽しんだ。



1 大勢の人でにぎわった上演会

2 上演会前に大威徳天満宮の奉納に向かう一行

3 対談する蓬田稔庭元と橋本裕之主席調査員

4 舞台は手作りの掛け舞台

5 大威徳天満宮に鶏舞を奉納

●プログラム

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 来賓祝辞
 - ・勝部修市長
 - ・菅原啓祐市議会議員
- 4 神楽
 - ・岩戸開き
 - ・くずし舞
 - ・八俣の大蛇退治
- 5 対談
 - ・橋本裕之主席調査員
 - ・千葉信胤主任調査員
 - ・蓬田稔庭元
- 6 閉会

だ。

天候が心配された屋外での上演会だったが、同日は朝から青空が広がる秋晴れで、昼前からは気温もぐんぐん上がった。保存会は急遽、氷を準備して来場者に冷水を配るなど、終始おもてなしの心で対応した。

3 対談

上演後は、千葉信胤主任調査員が司会を務め、庭元蓬田稔氏と橋本裕之主席調査員が対談。伝統継承や神楽の今後について、さまざまな視点から意見を交わした。

庭元は「伏流水のように続いてきたことが現在につながっており、今後も大切にしていきたい」と強調した。

4 成果

多くの地元住民が訪れ、地域で神楽を楽しむ機会としての役割を果たすことができた。

上演会后、一族蓬田家の若い世代啓一氏が保存会へ参加を希望したり、当時小学2年生の伊藤輝来里さんが練習に加わったりするなど、後継者確保と伝統継承に向け、新しい展開をみせている。

上演会
02平成26年度地域おこし事業
牧沢地区伝統文化再現事業

●日時 平成26年9月21日⑩10:00～15:00 ●場所 牧沢八幡神社境内(真柴字境田)

昔見た八幡神社の神楽を
子や孫に伝えたい

1 背景

牧沢地区は、平成25年(2013)度にも「牧沢地区伝統文化再発見事業」を開催している。130人の参加を得てイベントは大成功だったが、神楽を継承する人材の発掘までには至らなかった。

その反省を生かしたいと、今回は「伝統文化の発表と継承」という明確な目的を掲げ、上演会の開催を決定。南部神楽調査研究チームの橋本裕之主席調査員と千葉信胤主任調査員が講師に、地域の人たちに牧澤神楽の価値や魅力を再認識してもらい、地域での継承の意義を考える機会とした。

2 上演会

その昔、阿部繁行会長が見た牧沢八幡神社で行われていたとおりの上演会を見せたいと、会長一人で神社境内に掛け舞台を組み上げるなど手作りした。

出演団体は、牧澤神楽と共に、長年にわたって地元中学校を指導してきた隣の富沢神楽、地元真滝12区子供会とPTA。参加者は地区住民、児童と保護

者、市内神楽関係者など約120人。秋の一大イベントになった。

前半は「子供御神楽」に続き、牧澤神楽が「三番叟」を、富沢神楽が「岩戸入り」を披露。後半は、牧澤神楽が「彦炎出見尊」を、富沢神楽が「法童丸庭園の場」を舞った。ト리는「敦盛と直実」。鉦を摺っていた石川絢音ちゃん(3つ)が泣き出すほど、気持ちの入った演技が会場を魅了。「せりふ神楽」のだいご味を堪能することができた。

また、橋本裕之主席調査員と千葉信胤主任調査員による神楽解説も行われ、地域を挙げて、神楽とそ



- 彦炎出見尊を上演する牧澤神楽
- 子供御神楽の上演前に、衣装を着付けする真滝12区子供会の保護者
- 牧沢地区内外から大勢の人が訪れた
- 阿部繁行会長と共に手平鉦を叩く石川絢音ちゃんは、まだ3歳。貴重な後継者だ
- 餅つきで上演会を盛り上げる一関祝い餅つき振舞隊。ついた餅は来場者に振る舞われた
- 会場の牧沢八幡神社。快晴の秋空に白い幟が目を引く

の継承について、共に考えることができた。

会場では、一関祝い餅つき振舞隊が千本杵と臼でついた餅が振る舞われたり、子供たちがダンスを披露したりと、世代を超えて交流を深めた。

3 成果

団体同士の横のつながりを確認できた共演会であり、園児からお年寄りまで、世代を超えて地域の人たちの芸を楽しむ会にもなった。

伝統芸能としての神楽はもとより、娯楽としての神楽の価値を示した上演会になった。

●プログラム

開会

挨拶

- ・実行委員長
- ・行政区長

神楽

- ・子供御神楽(真滝12区子供会)
- ・三番叟(牧澤神楽)
- ・岩戸入り(富沢神楽)

神楽解説「神楽と地域の関わり」

- ・千葉信胤主任調査員

餅つき

- ・一関祝い餅つき振舞隊

幼稚園児等ダンス

- ・真滝12区PTA「ようかい体操」

神楽

- ・彦炎出見尊(牧澤神楽)
- ・法童丸庭園の場(富沢神楽)
- ・一の谷軍記「敦盛と直実」(牧澤神楽)

神楽解説「南部神楽の魅力と今後」

- ・橋本裕之主席調査員

閉会

クリーン大作戦

上演会
04

平成26年度中里地区地域協働提案事業 中里鶏舞上演会 ―地域の宝物をつなぐ―

●日時 平成27年2月28日(土) 13:00～16:00 ●場所 中里小学校体育館(蘭梅町)
●主催 一関市中里公民館、一関市教育委員会 ●共催 中里中学校、中里小学校、中里鶏舞踊り隊

中里中の伝統「鶏舞」
地域を挙げて継承

1 背景

中里中学校は、昭和54年(1979)から閉校する平成27年3月までの35年間、学校挙げて鶏舞に取り組み、体育祭上演などを通して守り、伝えてきた。同校の鶏舞は言うまでもなく「伝統」であり、中里地区では、その継承について議論を重ね、大人たちの指導で中里小学校に引き継ぐ選択をした。

中里公民館(現中里市民センター)が協力し、三浦博氏を講師に育成教室を開催。熱心に習得した参加者は、小学校への指導にとどまらず、「中里鶏舞踊り隊」を発足して果敢な活動を展開したのである。

この学校鶏舞を媒介に地域が動き出した状況を積極的に評価しようと、中学校の閉校に合わせ、小学校で「鶏舞」に絞った上演会を企画した。シンポジウムを併催し、35年の継承の経緯を振り返るとともに、今後の在り方について考える機会にした。

2 上演会

上演会は午後1時に開会。前半は、沢田神楽の鶏舞に続き、招待団体の布佐神楽(川崎町)と小田代神楽(奥州市)が「御神楽」を舞った。

間に挟む形で開かれたシンポジウム「地域の宝



物をつなぐ」では、橋本裕之主席調査員をコーディネーターに、中里中の元教諭や神楽関係者が35年を振り返りながら鶏舞への熱い思いを語った。

後半は、中里中学校、中里小学校がそれぞれ鶏舞を上演後、中里中学校、鶏舞踊り隊、沢田神楽が世代を超えた圧巻の舞を披露、会場を魅了した。

会場は満席。集計した240人のほかにも、約50人が立ち見するなど300人もの人でにぎわった。

3 成果

学校、地域、公民館が連携した中里の取り組みは、民俗芸能の継承や後継者の確保に一石を投じる先例



- 1 中里中、鶏舞踊り隊、沢田神楽の共演は圧巻
- 2 上演会のトップを飾った沢田神楽
- 3 大人の巧みな舞を披露した布佐神楽
- 4 子供とは思えない達者な舞や囃子を見せた小田代こども神楽
- 5 躍動感ある舞で会場を沸かせた中里中学校
- 6 息の合った鶏舞を演じる中里小学校
- 7 閉会後に行われた餅まき。出演者と客席が一つになって盛り上がった
- 8 35年を振り返り、今後の継承について意見を交わしたシンポジウム

と言える。今後、この中里モデルを一関の一つのスタンダードにしていく取り組みが必要である。

歴代の先生や師匠らがパネリストを努めたシンポジウムは、鶏舞の価値や魅力を再認識し、芸能が「地域の宝物」になりうる可能性を示唆した。

鶏舞共演は、それぞれの特徴を示すとともに南部神楽のバリエーションを知る上でも有意義な試みだった。中里中鶏舞の原形である沢田神楽の貫禄の舞、布佐神楽の巧みな御神楽、小田代こども神楽の達者な舞や囃子は、大きな刺激になった。

他団体との交流は触発の機会でもある。今後も活発な交流を続けてほしい。

●プログラム

- 1 開会
 - ・挨拶(佐藤志行中里公民館長)
 - ・講師紹介
- 2 上演
 - ・鶏舞(沢田神楽)
 - ・御神楽(布佐神楽)
 - ・御神楽(小田代こども神楽)
- 3 シンポジウム「地域の宝物をつなぐ」
 - ・司会 橋本裕之主席調査員
 - ・パネリスト 北島浄春氏(元中里中教諭)、服部雅英氏(元中里中教諭)、三浦博氏(中里中鶏舞指導者)、齊藤裕美氏(鶏舞踊り隊代表)
- 5 鶏舞上演
 - ・中里中学校
 - ・中里小学校
- 6 鶏舞共演
 - ・中里中学校、鶏舞踊り隊、沢田神楽
- 7 閉会
 - ・挨拶、餅まき

上演会
05市之通部落祭併催
市之通神楽上演会

●日時 平成27年6月28日⑧13:30～15:30 ●場所 市之通自治交流会館「宝来館」(大東町鳥海字市ノ通)

地域で楽しむ部落祭を
芸能の発表と伝承の場に

1 背景

市内では数少ない「山ノ神舞」を伝承する団体であるが、それをできる胴取り(太鼓)が亡くなったため、地元では16年間、上演することはなかった。また、近年は、メンバーがそろわないため「劇舞」を上演することができず、興田神社などへの奉納だけが神楽の活動だった。

そこで、保存会は、地域の行事「部落祭」で、昔上演していた「劇舞」の再上演と途絶えていた「山ノ神舞」を復活を目標に掲げ、動き出した。

週末、市之通自治交流会館は、夜遅くまで明かりが灯り、太鼓の音が響き渡った。

2 上演会

屋外に掛け舞台を作る予定だったが、前日からの雨で、屋内での開催となった。来場者は子供からお年寄りまで約70人。ほぼ全世帯から参加した。午前中は運動会と救命救急講習会が催され、昼食には焼き肉が振る舞われた。

午後の上演会には、地元だけでなく市内外から神楽関係者が駆けつけるなど、会場は立ち見が出るほどの超満員。熱気と復活の感動で、小さな会館は最高潮に達した。

上演会後は、婦人会や老人会から自慢の芸が披露され、「宝来館」は一日中歓声に包まれた。

「山ノ神舞」は、かつての胴取り伊東養太郎氏の長男重雄氏が、当時の父のビデオを見ながら猛練習。伊東吉光氏が渾身の舞で16年ぶりの復活を果たした。

さらには、朗々とした声で「花振り」や口上を行って伊東吉之進会長らが神楽の醍醐味を披露、客席か



- 1 上演のトップは「御神楽」。息の合った演技を披露した
- 2 会場の市之通自治交流会館「宝来館」は市之通地域の拠点
- 3 山之神舞の胴取り伊東重雄氏は、かつての胴取り父養太郎氏のビデオを見て猛練習し、本番を迎えた
- 4 神楽をわかりやすく解説する橋本裕之主席調査員
- 5 最後は出演者全員で口上。その前に花振りも行われた
- 6 激しく、躍動感ある舞で会場を沸かせた及川勝則氏の「三番叟」
- 7 復活した「山ノ神舞」は、市内での伝承が少ない

ら盛んな拍手や声援が送られていた。

3 成果

「山ノ神舞」を見て喜ぶ地域の声を聞き、保存会は活動再開を決めた。「山ノ神舞」の復活は、演目の復活だけでなく、市之通神楽の新たなスタートにもなった。

また、近年の部落祭は、遠方から芸能の専門家を招いて開催していたが、今回、神楽上演をきっかけに、女性たちや老人会がそれぞれ芸能を発表した。

部落祭本来の100%「市之通産」を取り戻すことができたことも大きな成果である。

●プログラム

午前 運動会

午後 芸能発表会

芸能発表会のうち
神楽上演会のプログラム

- 1 開会
- 2 神楽解説
・橋本裕之主席調査員
- 3 上演
・御神楽
・山ノ神舞
・三番叟
- 4 花振り、口上
- 5 閉会

上演会
06本郷神楽創生百周年記念併催
本郷神楽上演会

●日時 平成27年7月12日①12:15～17:00 ●場所 本郷白藤交流館(藤沢町藤沢字八沢)

百年の節目に
神舞七神楽を習得、披露

藤沢町名発祥の地
本郷神楽
創生百周年記念

7.12 日
本郷白藤交流館
「特設会場」

記念式典
午前11時～

一 開会の辞
二 実行委員長挨拶
三 本郷神楽
百年の歩み紹介
四 感謝状贈呈
五 祝辞
六 閉会の辞

神楽上演会
午後12時15分～

一 翁舞
二 三番叟
三 明神舞
四 龍傳舞
五 山之神舞
六 天の宝剣由来記
素戔之鳴之尊大蛇退治

●主催 本郷神楽記念事業実行委員会 ●共催 本郷地区自治会協議会、一関市教育委員会 ●後援 一関市

1 背景

明治初年(1868)頃には、本郷地区に法印神楽が存在したといわれる。

本郷神楽は、大正3年(1914)に佐藤留五郎氏が畠山一男氏、熊谷八重治氏ほか9人を指導したのが始まりといわれ、平成27年(2015)に100周年を迎えた。

この節目に、これまで伝承できずにいた神舞七神楽の復演を決定。定期的な練習を重ね、平成25年に「龍傳舞」を、26年に「明神舞」と「三宝荒神舞」を習得。7神楽全てを上演できるようになった。

創生百年の節目に記念事業を行って、習得した神舞を披露することにした。

2 上演会

午前中は、本郷白藤交流館で式典が行われ、保存会の発展に尽力した人たちに感謝状が贈られ、百年目の節目を喜び合った。

上演会は、正午過ぎから始まった。屋外に掛け舞

台を作り、客席には日よけテントを設営した。

「翁舞」「三番叟」の後、神舞七神楽から無病息災や五穀豊穡を願う「明神舞」、真刀を使って激しく舞う「龍傳舞」、他では伝承が少ない「山之神舞」の3演目を演じた。このうち明神舞は佐藤賢吉会長が舞った。最後に「素戔之鳴之尊大蛇退治」が上演され、式舞とはまた異なった物語の魅力に来場者は引き込まれた。

会場には、地域の人だけでなく、市内各地から約150人が来場し、普段なかなか見ることのできない本郷神楽の神舞を楽しんだ。



- 習得した神舞七神楽の一つ「明神舞」。佐藤賢吉会長が舞った
- 本郷神楽で真刀を使う演目は二つ。その一つが激しい「龍傳舞」
- 市内では伝承が少ない「山之神舞」も神舞七神楽の一つ
- 「素戔之鳴之尊大蛇退治」は、本郷神楽の芸の確かさを見せてくれた
- かつての胴取り畠山春男第四代表も出演
- 会場の本郷白藤交流館。中央に舞台、周囲を客席(テントが囲む)



3 成果

本郷神楽は、昭和56年の「天下り」を皮切りに、平成26年の「明神舞」「三宝荒神舞」まで、30年以上にわたって神舞七神楽の全てを習得した。

今回は100周年を記念して、このうち「明神舞」「龍傳舞」「山之神舞」を披露した。長年胴取りを務めた第四代表の畠山春男氏も胴を取るなど、これまでの活動を総括する舞台となった。

また、その意義について橋本氏が解説を加え、地域における本郷神楽の価値を再認識するとともに、あらためて評価する機会になった。

●プログラム

- ・記念式典(11:00～)
 - 1 開会の辞
 - 2 実行委員長挨拶
 - 3 本郷神楽百周年の歩み
 - 4 感謝状贈呈
 - 5 祝辞対談
 - 6 閉式の辞
- ・神楽上演会(12:15～)
 - 1 扇舞
 - 2 三番叟
 - 3 明神舞
 - 4 龍傳舞
 - 5 山之神舞
 - 6 天の宝剣由来記 素戔之鳴之尊大蛇退治

上演会
07

白浜神楽上演会

●日時 平成27年9月26日(土) 13:00～15:00 ●場所 涌津市民センター(花泉町涌津字松ノ坊65-2)

子供たちに伝える
地域の伝統

1 背景

白浜神楽は、市指定無形民俗文化財である大門神楽の教えを受けた南部神楽団体であり、芸術的にも高い評価を得ている。

これまで30年以上にわたり、涌津公民館(現涌津市民センター)と共に涌津小学校へ鶏舞を指導し、児童の思い出づくりや同校の伝統の継承に貢献してきた。

しかし、小学校で鶏舞を習った児童の多くは、大人が踊る「本物の鶏舞」や白浜神楽の劇舞を見たことがなく、さらに、小学時代に神楽を習った子供たちが保存会に関わることもなかったため、若い後継者の確保ができずにいた。

そこで地域コミュニティの拠点であり、学校指導の協力者である涌津市民センターが共催し、学校と神楽団体が出会う場、地域の子供たちに「本物の神楽」を見てもらう場として上演会を企画した。

2 上演会

当日の天候が心配されたため、屋内に舞台を作り、開催した。

上演会では、児童・生徒による「子ども鶏舞」を



皮切りに、白浜神楽が見事な演技で「曾我兄弟^{あだうち}仇討」を披露したほか、作耕舞(道化)では、千葉良夫代表が会場中を笑いに引き込むなど、充実した上演会になった。

来場者は約150人を数えたが、事前の調整不足から子供たちが最後まで参加できなかったことが惜しまれた。

3 成果

近年、実現できなかった地元上演を開催し、多くの人に白浜神楽の魅力を知ってもらうことができた。特に、児童・生徒に、大人が舞う「南部神楽の鶏



- 1 客席を笑いに引き込んだ「作耕舞」(道化)
- 2 満席の会場で次代を担う児童・生徒が「子ども鶏舞」を熱演
- 3 迫力満点の「曾我兄弟仇討」
- 4 躍動する大人の鶏舞が児童生徒を魅了
- 5 千葉良夫代表のインタビュー聞き手は橋本裕之主席調査員
- 6 大盛況の餅まき
- 7 鉦を叩いた涌津小卒業生の佐藤健太君(花泉中2年)

●プログラム

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 餅の振る舞い
- 4 鶏舞
- 5 演目の解説
- 6 曾我兄弟仇討
- 7 インタビュー
- 8 作耕舞
- 9 餅まき(景品付き)
- 10 閉会

舞」を見せることができたことは大変意義がある。

芸達者な神楽衆は、踊り、語り、仕草など、全ての演目で来場者を釘づけにした。鉦と舞手には、涌津小学校を卒業した中学生も加わるなど、同校鶏舞が学校と地域の連携の中で、今後も継承されていく可能性を示した。

「作耕舞」を高く評価した工藤彰範涌津小学校長は12月5日、同校PTA講演会(涌津市民センター共催)に白浜神楽を招き、あらためて児童と保護者が共に鑑賞する機会を設け、会場には児童の歓声が響き渡ったという。



涌津小学校PTA講演会のチラシ



上演会
08

天狗田代々神楽上演会

●日時 平成27年12月13日◎13:00～16:00 ●場所 天狗田生活改善センター（大東町沖田字石奈坂）

小さな地域の神楽を支えるのは見てくれる人たち



1 背景

天狗田代々神楽は、長年にわたり地元小学校へ鶏舞を指導したり、地域の収穫祭などで上演したりしてきた。

しかし、天狗田小学校は閉校、さらに師匠の死去や後継者不足により活動を休止していた。

保存会は「今、やらなければ存続できなくなる」と再興を決め、上演会を開催することにした。

2 上演会

上演会のテーマは「小さな地域の大きな神楽」。地域を拠点に伝統芸能の継承を考える機会にした。

国指定重要無形民俗文化財でユネスコ無形文化遺産に登録されている花巻市大迫町の「岳神楽」をゲストに招き、その舞を鑑賞したほか、地域で神楽を支え、継承していく話を聞く機会を持った。

また、天狗田代々神楽の二つの源流である高金神楽と奥玉神楽、それぞれにゆかりのある「夏山神楽」（大正期に成立した高金神楽の兄弟神楽）と「中日向

鶏舞」（千厩町の奥玉神楽の指導を受け、平成5年に女性たちが結成）も、共に後継者確保に不安のある中、継承のきっかけづくりにしたいと上演した。

岳神楽保存会の小国朋身会長と橋本裕之主席調査員の「対談」では、小国会長が「地域の人たちの喜ぶ顔がエネルギー。応援があれば続けていける」と継承の秘けつを語った。

3 成果

保存会の会員8人は、27年11月から本格的な練習を再開した。だが、上演会開催を決めた後も、「本当に演目を上演できるのか」という不安があった。



●プログラム

- 1 開会
- 2 鶏舞(天狗田代々神楽)
- 3 鶏舞(中日向鶏舞)
- 4 荒舞(夏山神楽)
- 5 岩戸開(天狗田代々神楽)
- 6 天女(岳神楽)
天降り舞(岳神楽)
権現舞(岳神楽)
- 7 対談
「小さな地域の大きな神楽」
岳神楽保存会小国朋身会長×南部神楽調査研究チーム橋本裕之主席調査員
- 8 挨拶、餅まき
- 9 閉会

そんな中、子供のころから経験のある県立大東高校の菊池允君(3年)が胴取りで、小山佳奈さん(2年)、千田一平君(1年)、佐藤映斗君(同)、千葉由美子さん(同)らが舞手で練習に参加し、これに後押しされた大人たちは奮起、練習を重ね、上演会にこぎつけた。

上演会では、高校生が若さあふれる鶏舞を演じ、保存会の大人たちはブランクを感じさせない迫力の舞を披露した。詰めかけた地域の人たちは、天狗田代々神楽の復活を心から喜んだ。

岳神楽保存会の小国朋身会長と橋本裕之主席調査員の「対談」は、保存伝承の道筋を探った2年間の

上演会の最終回にふさわしいものであった。上演会后、保存会は道具の新調を計画するなど、新しい一歩を踏み出している。

- 1 力強さや美しさに実力を感じる天狗田代々神楽の「岩戸開」
- 2 舞手4人と胴取り1人の5人の高校生が、若さあふれる「鶏舞」で上演会を盛り上げた
- 3 躍動する夏山神楽の「荒舞」
- 4 中日向鶏舞は息の合った「鶏舞」を上演
- 5 岳神楽の「天降り舞」
- 6 対談する岳神楽小国朋身会長と橋本裕之主席調査員
- 7 フィナーレは大盛況の餅まき

IV 資料

岩手県南・宮城県北神楽大会歴代プログラム

回数 (和暦)	第1回 (昭和46年)	第2回 (昭和47年)	第3回 (昭和48年)	第4回 (昭和49年)	第5回 (昭和50年)	第6回 (昭和51年)							
開催月日(曜日)	5月2日㊿	不明	不明	5月3日㊿	5月3日㊿	5月3日㊿							
場所	温泉神社	不明	不明	温泉神社境内	温泉神社境内	温泉神社境内							
演目名称 (団体名)	鶏舞 (沢内神楽) 三番叟 (五串神楽) 岩戸入り (狐禪寺神楽) 天の岩戸開 (沢内神楽) 宝剣納め (本寺神楽) 岩長姫化身の舞 (五串神楽) 羽衣 (本寺神楽) 東下り (赤荻中条神楽) 田村一代記 (古内神楽) 屋島の合戦 (中里神楽) 演目不明 (宮城県 元木神楽) 演目不明 (宮城県 赤矢神楽) 演目不明 (宮城県 肩子沢神楽) 演目不明 (平泉町 大平神楽)	不明	不明	鶏舞 (沢内神楽) 三番叟 (五串神楽) 岩戸入り (狐禪寺神楽) 天の岩戸開 (沢内神楽) 宝剣納め (本寺神楽) 岩長姫化身の舞 (五串神楽) 羽衣 (本寺神楽) 一の谷合戦 (赤荻中条神楽) 田村一代記 (古内神楽) 屋島の合戦 (中里神楽) 演目不明 (宮城県 本木神楽) 演目不明 (宮城県 赤谷神楽) 演目不明 (宮城県 片子沢神楽) 演目不明 (平泉町 大平神楽)	不明	不明	鳥舞 (夫婦神楽) 岩戸開き (本寺神楽) 夕日の衣川 (大森こども神楽) 大蛇退治 (鶯沢神楽) 宝剣納め (大門神楽) 鳥舞 (赤荻こども神楽) 岩戸開き (北下幅神楽) 八雲舞 (赤谷神楽) 楠公 (下大籠神楽) 五條の橋 (牧沢神楽) 屋島合戦 (真山神楽) 羽衣 (前谷地神楽) 松浦長者の子別れ (曾慶神楽) 一の谷 (細倉神楽) 羽衣 (厳美神楽) 五條の橋 (赤生津神楽) 鳥舞 (達古袋神楽)	鳥舞 (赤荻こども神楽) 山の神舞 (厳美神楽) 夕日の衣川 (大森こども神楽) 曾我兄弟元服の場 (細倉神楽) 羽衣 (五串神楽) 屋島合戦 (下大籠神楽) みかぐら (鶯沢女神楽) 田村將軍俊春一代 (沢田神楽) 曾我兄弟親の仇討 (大門神楽) 松浦長者親子の別れ (姫松神楽) 一の谷 (本寺神楽) 小袖曾我 (鶯沢神楽) 鳥舞 (広面女神楽) 高山掃部長者伝 (北下巾神楽) 曾我兄弟元服の場 (赤谷神楽) 五條の橋 (古内神楽) 葛の葉の子別れ (白浜神楽) 曾我兄弟 (真山神楽)	不明	不明	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所	東城 芳勇 黒沢 定雄 藤野 菊夫	東城 芳勇 藤野 菊夫 黒沢 定雄

第7回 (昭和52年)	第8回 (昭和53年)	第9回 (昭和54年)	第10回 (昭和55年)	第11回 (昭和56年)	第12回 (昭和57年)
5月3日㊿	5月3日㊿	5月3日㊿	5月3日㊿	5月3日㊿	5月3日㊿
温泉神社境内	温泉神社境内	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター
岩戸開き (本寺神楽) 辯慶母と対面の場 (中野神楽) 夕日の衣川 (大森こども神楽) 法竜丸 (白浜神楽) 天の岩戸開き (真山神楽) 村雲 (沢田神楽) 四節分け (愛宕神楽) 阿倍野保名 (細倉神楽) 宝剣納め (笹谷神楽) 八雲舞 (大蛇退治) (赤谷神楽) 宝剣納め (大平神楽) 扇の的 (鶯沢神楽) 楠公楠木正成 (大門神楽) 阿倍の保名 (沢田神楽) メ切サンヤ舞 (瑞山国首神楽)	屋島の合戦「忠信が兄継信探しの場」(白浜神楽) 葛の葉子別れ (牧沢神楽) 法童丸母対面の場 (姫松神楽) 五大竜 (大平神楽) 牛若丸奥州下り (巻物とりの場) (下大籠神楽) 曾我兄弟依頼の場 (細倉神楽) 岩戸入り (達古袋神楽) 宝剣納め (志波姫神楽) 屋島の合戦 (真山神楽) 法童丸庭園一目の場 (沢田神楽) 一の谷の合戦 (瑞山神楽) 屋島の合戦 (鶯沢神楽) 一の谷の合戦 (高梨神楽) 一の谷の合戦 (厳美神楽) 小袖曾我 (中野神楽)	羽衣 (真山神楽) 叢雲大蛇切 (愛宕神楽) 松浦小夜姫母娘の別れ (大門神楽) 牛若丸秀衡と二度対面の場 (姫松神楽) 一の谷の合戦 (高梨神楽) 田村二代 (中野神楽) 彦炎出尊 (夫婦神楽) 岩戸入り (細倉子供神楽) 羽衣 (狼志田神楽) 屋島合戦 (志波姫神楽) 鬼一法院と対面の場 (下大籠神楽) 勸進帳 (鶯沢神楽) 田村二代 (達古袋神楽) 曾我兄弟依頼の場 (細倉神楽) 彦炎出尊 (瑞山神楽)	三人三番 (五串神楽) 牛若丸東下りの場面 (沢田神楽) 天の岩戸開き (姫松神楽) 法童丸母子対面の場 (高梨神楽) 牛若丸鞍馬山登り (細倉神楽) 草なぎの剣奉納の場 (本郷神楽) 勸進帳 (鶯沢神楽) 彦炎出尊 (本寺神楽) 法童丸父と対面の場 (中野神楽) 法童丸二度対面の場 (沢田神楽) 羽衣 (達古袋神楽) 法童丸二度対面の場 (沢田神楽) 岩戸開き (瑞山神楽) 五大領 (北下幅神楽)	鶏舞 (厳美神楽) 葛の葉子別れの場 (狼志田神楽) 葛の葉子別れの場 (真山神楽) 宝剣納め (瑞山神楽) 阿倍の保名葛の葉子別れの場 (田代神楽) 屋島合戦 (武鎗神楽) 五大領割り込みくずし (川台神楽) 曾我兄弟「みずえ姫子供をあずける場」(狼飛来神楽) 曾我兄弟父の仇討 (大門神楽) 小袖曾我 (鶯沢神楽) 牛若丸宝蔵破りの場 (高梨神楽) 田村一代 (志波姫神楽) 阿倍の保名、石川悪右エ門合戦の場 (城生野神楽) 阿倍の保名、石川悪右エ門合戦の場 (本郷神楽) 義経、月見坂の受難 (中野神楽) 牛若丸藤原秀衡公二度の対面の場 (達古袋神楽) 鶴越の坂落しの場 (沢田神楽)	一の谷の合戦 (夫婦神楽) 源平屋島合戦 (志波姫神楽) 岩戸入り (市野々神楽) 敦盛首落し (武鎗神楽) 宝剣納め・大和武尊悪鬼退治 (十文字神楽) 羽衣 (中文字神楽) 宝剣納め (蓬田神楽) 扇の的 (鶯沢神楽) 三熊の大人退治「変化天若の段」(愛宕神楽) 八雲舞「大蛇退治の場」(赤谷神楽) 御所の五郎丸陣屋巡りの場 (奈良坂神楽) みつえの姫幼子を依頼の場 (細倉神楽) 大和武尊悪鬼退治 (前谷地神楽) 河津祐泰工藤の使大見八幡遠矢にかりし場面 (片子沢神楽) 一の谷の合戦 (高梨神楽) 曾我兄弟元服の場 (本宮神楽)
後援団体	-	不明	不明	-	-
審査員	-	不明	不明	-	-
東城 芳勇 藤野 菊夫 黒沢 定雄	村上 護朗 黒沢 定雄 蘇武 運一郎	村上 護朗 黒沢 定雄 蘇武 運一郎	村上 護朗 黒沢 定雄 蘇武 運一郎	村上 護朗 馬之壺 阿部 長治 蘇武 運一郎	村上 護朗 小岩 勘右工門 蘇武 運一郎

岩手県南・宮城県北神楽大会歴代プログラム

回数 (和暦)	第13回 (昭和58年)	第14回 (昭和59年)	第15回 (昭和60年)	第16回 (昭和61年)	第17回 (昭和62年)
開催月日(曜日)	5月3日(日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)
場所	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	雨天のため 蔵美小学校
演目名称 (団体名)	五條の橋 (古内神楽) 白河二所の別れ (田代神楽) 神遊びサンヤ舞 (本郷神楽) 屋島合戦 (白鳥神楽) 宝剣納め (高梨神楽) 曾我祐親親父を大見八幡遠矢にける場 (姫松片子沢神楽) 河津三郎祐康最後の場 (本宮神楽) 屋島合戦 (沢田神楽) 曾我兄弟父の仇うちの場 (沢田神楽) 安部の保名捕われの場 (白浜神楽) 法童丸父との対面の場 (中野神楽) 彦炎出尊 (恩俗神楽) 宝剣納め (蔵美神楽) 屋島合戦 (文字川東神楽) 岩戸開き (細倉子供神楽)	義経秋田入りの場 (奈良坂神楽) 一の谷の合戦 (細倉神楽) 彦炎出見の尊 (白鳥神楽) 田村二代 (文字川東神楽) 山の神 (十文字神楽) 法童丸母子対面の場 (沢田神楽) 安部の保名子別れの場 (達古袋神楽) ひよどり越えの坂落しの場 (田代神楽) 羽衣 (五串神楽) 田村一代 (志波姫神楽) 信田ヶ森 (増沢神楽) 日本オクナノ尊の熊会頭川上武討伐の場 (岡谷地神楽) 宝剣納め (大門神楽) おろち退治 (鶯沢神楽) 法童丸庭園の場 (白浜神楽) 牛若丸四国対面 (袋神楽)	五條の橋 (狼志田神楽) 五條の橋 (文字神楽) 牛若丸宝蔵破り法掛けの一戦 (高梨神楽) 羽衣 (夫婦神楽) 宝剣納め (大平神楽) 曾我兄弟の仇討 (大門神楽) 安部の保名 (沢田神楽) 一の谷の合戦 (細倉神楽) 天の岩戸開き (片子沢神楽)	天叢雲宝剣由来記 (狐禅寺神楽) 矢田部判官篠田ヶ森焼払の場 (田代神楽) 一の谷の合戦 (沢田神楽) 田村二代 (赤新田神楽) 屋島合戦(扇の的)より (布佐神楽) 敦盛首取りの場 (武鎗神楽) 皆鶴姫酒宴の場 (奈良坂神楽) 関上浜より秀衡公牛若丸と二度対面の場 (片子沢神楽) 東下り秀衡公と対面の場 (富沢神楽) 小袖曾我 (中野神楽)	彦炎出見の尊 (夫婦神楽) 五代入り (文字神楽) 宝剣納め (白鳥神楽) 岩戸開き (文字駒堂神楽) 羽衣 (大門神楽) 弁慶安宅の関 (鶯沢神楽) 一の谷の合戦 (瑞山神楽) 曾我兄弟元服の場 (本宮神楽) 曾我兄弟父の仇討ち (白浜神楽) 玉織姫と敦盛の別れの場 (花山神楽) 一の谷の合戦 (沢田神楽) 宝剣納め (細倉神楽) 屋島合戦 (富沢神楽) 一の谷の合戦 (片子沢神楽)
後援団体	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	-
審査員	黒沢 定雄 小坂 盛雄 蘇武 運一郎	黒沢 定雄 蘇武 運一郎 宮城県芸術文化協会副会長	黒沢 定雄 小坂 盛雄 蘇武 運一郎	黒沢 定雄 小坂 盛雄 蘇武 運一郎	黒沢 定雄 小坂 盛雄 蘇武 運一郎

第18回 (昭和63年)	第19回 (平成元年)	第20回 (平成2年)	第21回 (平成3年)	第22回 (平成4年)	第23回 (平成5年)
5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)
自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター	自然休養村管理センター
源氏方勢ぞろい (奈良坂神楽) 秀衡公桜狩りの場 (沢田神楽) 神別れ舞 (牧沢神楽) 素戔鳴尊乱行の場 (赤新田神楽) み神楽 (十文字神楽) 西の宮舞 (志波姫神楽) 羽衣 (一関神楽保存会) 龍天の舞 (岡谷地神楽) 御子焼き (狼志田神楽) 弁慶母子と対面の場 (中野神楽) 一の谷の合戦 (一関夫婦神楽) 熊谷直実と平敦盛戦いの場 (沼崎神楽) 安部保名狐狩の場 (川内神楽) 宝剣納め (細倉神楽)	牛若丸、秀衡公と対面の場 (蔵美神楽) 曾我兄弟、五所の五郎丸陣屋巡りの場 (猿飛来神楽) 曾我兄弟父の仇討 (大門神楽) 羽衣 (本宮神楽) 羽衣 (白鳥神楽) 一の谷嫩軍記の内 鶴越の坂下しの場 (城生野神楽) 法童丸母子対面の場 (富沢神楽) 羽衣 (一関夫婦神楽) 石童丸父をたずねて(田の浦の場) (清水田神楽) 楠正成桜井の別れ (白浜神楽) 岩戸開き (太平神楽) 明神舞 (熊野神楽) 河津三郎祐泰の最後の場 (阿久戸神楽会) 秀衡公と対面の場 (沢田神楽) 曾我兄弟父の仇討ちの場 (大門神楽) 河津三郎祐泰の最後の場 (栗原神楽)	曾我兄弟父の仇討の場 (富沢神楽) 小袖曾我 (中野神楽) 義経椿ヶ宮代参の場 (白浜神楽) 曾我兄弟父の仇討ちの場 (方子沢神楽) 一の谷の合戦 (狼志田神楽) 宝剣納め (細倉神楽) 羽衣 (駒堂神楽) 宝剣納め (達古袋神楽) 曾我兄弟父の仇討ちの場 (沢田神楽) 安部の保名葛の葉子別れの場 (沢田神楽) 曾我兄弟父の仇討ちの場 (大門神楽) 安部の保名捕われの場 (赤谷神楽)	羽衣 (蔵美神楽) 石童丸刃萱道心と対面の場 (細倉神楽) 屋嶋合戦 (達古袋神楽) 宝剣納め (文字神楽) 五條橋牛若丸弁慶対決の場 (一関神楽保存会) 河津三郎祐泰最期の場 (本宮神楽) 大楠公桜井の別れ (牧沢神楽) 御所の五郎丸陣屋巡りの場 (阿久戸神楽会) 岩戸入り (白鳥神楽) 曾我兄弟由比浜の場 (沼崎神楽) 八岐大蛇退治 (中野神楽) 岩戸入り (狼志田神楽) 曾我兄弟狩屋めぐりの場 (沢田神楽)	羽衣 (達谷窟毘沙門神楽) 弁慶安宅の関 (鶯沢神楽) 法天上人と蓮性坊「熊谷の参詣の場」 (清水田神楽) 扇の的 (富沢神楽) 岩戸入り (駒堂神楽) 鶴越えの坂落し (栗原神楽) 石童丸父を訪ねて高野山 (富野神楽) 安部保名捕われの場 (阿久戸神楽) 曾我兄弟元服の場 (本宮神楽) 三番叟 (大門神楽) 一の谷の合戦 (大平神楽会)	牛若丸秀衡公二度対面の場 (一関夫婦神楽) 矢田部判官定国信田ヶ森巡回の場 (阿久戸神楽) 五條の橋 (富沢神楽) 皆鶴姫牛若丸に巻物の所在を教える場面 (片子沢神楽) 五條の橋 (達古袋神楽) 法童丸母子対面の場 (刈敷神楽) 田村二代 (大原神楽) 五所の五郎丸陣屋巡りの場 (築館神楽) 葛の葉姫子別れの場 (下大龍神楽) 弁慶安宅の関 (鶯沢神楽) 夕日の衣川「(第二場)前九年の役合戦の場」 (川内神楽) 曾我兄弟由比浜の場 (沼崎神楽) 安部保名翫め捕われの場 (白浜神楽) 曾我兄弟由比浜の場 (沼崎神楽) 一の谷の合戦 (大平神楽会) 屋島合戦「継信最期の場」 (葛岡神楽)
一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社	一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 岩手日日新聞社
登嶋 正司 蘇武 運一郎 岸 湊	登嶋 正司 蘇武 運一郎	黒澤 定雄 蘇武 運一郎 今野 清美 高橋 源治 茂庭 貞	蘇武 運一郎 今野 清美 茂庭 貞	蘇武 運一郎 茂庭 貞 阿部 孝	蘇武 運一郎 今野 清美 茂庭 貞

岩手県南・宮城県北神楽大会歴代プログラム

回数 (和暦)	第35回 (平成17年)	第36回 (平成18年)	第37回 (平成19年)	第38回 (平成20年)	第39回 (平成21年)
開催月日(曜日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)	5月3日(憲法記念日)
場所	一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館
演目名称 (団体名)	牛若丸五條の橋 (一関夫婦神楽)	お室焼き (蓬田神楽保存会)	羽衣 (達古袋神楽)	一の谷、平敦盛、熊谷直 実合戦の場 (城生野神楽)	弁慶安宅の関 (達古袋神楽)
	牛若丸秀衡対面・軍兵揃 いの場 (猿飛来神楽)	石童丸父をたずねて (清水田神楽)	宝剣納め一盗み取りー (南沢神楽)	五條の橋合戦の場 (古内神楽保存会)	夏草の賦 第3場 弁慶 の立ち往生 (川東神楽保存会)
	牛若丸椿ヶ宮参詣の場 (狼志田神楽)	日光権現・赤鬼退治 (大木神楽保存会)	曾我兄弟父の仇討ちの段 (駒堂子供神楽)	五代領 (狼志田神楽保存会)	岩手・宮城内陸地震復興 祈願「神舞」 (猿飛来神楽)
	牛若丸宝蔵破り法掛けの 場 (一関神楽保存会)	弁慶安宅の関 (本宮神楽会)	河津三郎祐泰最期の場 (館下神楽保存会)	一谷軍記(敦盛と直実) (牧澤神楽保存会)	小敦盛 (大原神楽保存会)
	牛若丸秀衡公二度対面 の場 (達古袋神楽)	天の岩戸開き (牧澤神楽保存会)	法童丸母子別れの場 (玉澤神楽会)	屋島合戦(継信最後の場) (一関夫婦神楽)	葛の葉子別れ (里前神楽保存会)
	浮島ヶ原兄弟対面の段 (白浜神楽会)	石童丸 (長下田神楽保存会)	弁慶安宅の関 (鶯沢神楽保存会)	熊谷直実・首取りの場 (真山葛岡神楽保存会)	法童丸庭園の場 (栗原神楽)
	鶴越えの坂落とし (阿久戸神楽会)	屋嶋合戦 (一関夫婦神楽)	牛若丸秀衡公対面の場 (一関夫婦神楽)	保名岩屋の滝の場 (沢辺神楽会)	法童丸母子対面の場 (本宮神楽会)
	敦盛と玉織別れの場 (本木神楽)	御所の五郎丸陣屋巡りの 場 (川北神楽保存会)	宝剣納め (白浜神楽)	扇的射ちの場 (富沢神楽保存会)	三代田村将軍利仁 (蓬田神楽保存会)
	屋嶋合戦(継信最後の場) (城生野神楽)	法童丸母対面の場 (刈敷神楽)	安部保名堀め捕らわれの 場 (沼崎神楽)	法童丸庭園の場 (元富神楽)	苺萱道心と石童丸対面の 場 (清水田神楽)
	那須野与一扇的 (鶯沢神楽保存会)	叢雲 (登米町岡谷地南部神楽 保存会)	安部の保名葛の葉子別れ の場 (一関神楽保存会)	義経中尊寺月見坂の受難 (中野神楽)	岩戸開 (布佐神楽保存会)
	安宅の関 (川東神楽保存会)	一の谷 (下大籠南部神楽保存会)	小夜姫父の供養で身売り 母子別れの段 (里前神楽保存会)	石童丸父を尋ねて高野山 (東北まぐら神楽会)	安部保名捕らわれの場 (赤谷神楽会)
	屋嶋合戦 (南沢神楽)	楠公(楠正成) (布佐神楽保存会)	曾我兄弟父の仇討ちの段 (刈敷神楽)	五代龍 (大森神楽保存会)	御所の五郎丸陣屋巡り (阿久戸神楽会)
	道化(根っこほり) (赤谷神楽会)	五條の橋 (狼ヶ志田神楽保存会)	一ノ谷の合戦 (布佐神楽保存会)	八岐の大蛇退治 (鶯沢神楽保存会)	小袖曾我 (中野神楽)
後援団体	一関地方振興局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社	県南広域振興局一関総 合支局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社	県南広域振興局一関総 合支局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク	県南広域振興局一関総 合支局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク	県南広域振興局一関総 合支局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク
審査員	岩本 旬二 菅原 宏 千葉 信胤	岩本 旬二 菅原 宏 千葉 信胤	岩本 旬二 菅原 宏 千葉 信胤	佐藤 英男 菅原 宏 千葉 信胤	加藤 義勝 菅原 宏 千葉 信胤

第40回 (平成22年)	第41回 (平成23年)	第42回 (平成24年)	第43回 (平成25年)	第44回 (平成26年)	第45回 (平成27年)
5月3日(憲法記念日)		5月3日 (祝日・憲法記念日)	5月3日 (祝日・憲法記念日)	5月3日 (祝日・憲法記念日)	5月3日 (祝日・憲法記念日)
一関市立厳美中学校 体育館		一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館	一関市立厳美中学校 体育館
黒塚 (蓬田神楽保存会)		東下り (一関夫婦神楽)	田村二代 (大森神楽保存会)	一の谷 (大原神楽保存会)	信田ヶ森 (下大籠南部神楽保存会)
御所の五郎丸陣屋巡りの 場 (館下神楽保存会)		五條の橋 (岡谷地南部神楽保存会)	曾我兄弟 父の仇討ちの 場 (館下神楽保存会)	宝剣納めと宝剣盗み取り (川北神楽保存会)	屋嶋の合戦(継信最後の 場) (一関夫婦神楽)
宝剣納め (狼志田神楽保存会)		五大領 (南沢神楽保存会)	岩戸入り (下大籠南部神楽保存会)	石童丸 父を尋ねて高野 山 (東北まぐら神楽会)	天祖舞 (細野神楽保存会)
「夏草の賦」第二場 菊 の滝歌合わせの場 (鶯沢神楽保存会)		平敦盛と玉織姫の別れの 場 (城生野神楽)	御神楽・三宝荒神 (布佐神楽保存会)	岩戸開き (達古袋神楽)	楠正成 桜井の別れ (白浜神楽)
三熊神話 (白浜神楽)		宝剣納め (本郷神楽保存会)	手玉織 (白浜神楽会)	高天上り (牧澤神楽保存会)	牛若丸と秀衡公対面の場 (沢辺神楽会)
一の谷首取りの場 (赤谷神楽会)		熊谷直実首取りの場 (真山葛岡神楽保存会)	河津三郎祐泰討矢の場 (桜田神楽会)	義経一代記より 牛若丸・ 金売り吉次兄弟、鏡が宿の 場(長下田神楽保存会)	岩戸開き (大森神楽保存会)
弁慶安宅の関 (達古袋神楽)		彦炎出見命(地神四代) (牧澤神楽保存会)	五代竜 (狼ヶ志田神楽保存会)	岩戸開き (駒堂子供神楽)	曾我兄弟父の仇討ち (富沢神楽保存会)
屋嶋合戦(継信最期の場) (川北神楽保存会)		安部保名捕らわれの場 (玉澤神楽会)	金売吉次薬師詣りの場 (沢辺神楽会)	創作神楽 玉取姫 (本郷神楽保存会)	法童丸 庭園の場 (桜田神楽会)
夕日の衣川第四場「中尊 寺縁起・江刺豊田館の場」 (大森神楽保存会)		一の谷 (川東神楽保存会)	瓊々杵之尊 (蓬田神楽保存会)	弁慶安宅の関 (鶯沢神楽保存会)	岩戸開き (城生野神楽会)
田村二代 (中野神楽)	震災のため中止	岩戸入り (駒堂子供神楽)	三宝荒神 (嵯峨立神楽保存会)	鶏舞 (本宮神楽保存会神楽教 室)	鞍馬山の牛若丸 (赤谷南部神楽保存会)
お室焼き (牧澤神楽保存会)		法童丸母子対面の場 (富沢神楽保存会)	安部保名捕らわれの場 (阿久戸神楽保存会)	屋嶋合戦(継信最期の場) (南沢神楽)	安部の保名参詣の場 (嵯峨立神楽保存会)
佐夜の中山靈験記より 初太郎 (長下田神楽保存会)		安部保名捕らわれの場 (東北まぐら神楽会)	法童丸庭園の場 (栗原神楽)	五條の橋 (富沢神楽保存会)	彦炎出見尊の巻 (狼ヶ志田神楽保存会)
所望分神語 (布佐神楽保存会)		五條の橋 (達古袋神楽)	石童丸 (牧澤神楽保存会)	安部保名捕らわれの場 (栗原神楽)	弁慶安宅の関 (達古袋神楽)
県南広域振興局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク		県南広域振興局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク	県南広域振興局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク	県南広域振興局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク	県南広域振興局 一関市 一関市議会 一関市教育委員会 一関市観光協会 一関商工会議所 NHK盛岡放送局 岩手日日新聞社 ICN一関ケーブルネット ワーク
加藤 義勝 菅原 宏 千葉 信胤		菅原 宏 菅原 正義 千葉 信胤	菅原 宏 菅原 正義 佐藤 英男	菅原 宏 菅原 正義 佐々木 信義	菅原 宏 佐々木 信義 千葉 信胤

東磐井郡下神楽大会歴代プログラム (主催:東磐井郡下神楽大会実行委員会/第1回~9回の名称は郡下神楽大会)

回数 (和暦)	第1回 (昭和54年)	第2回 (昭和55年)	第3回 (昭和56年)	第4回 (昭和57年)	第5回 (昭和58年)
開催月日(曜日)	7月29日㊿	7月27日㊿	7月26日㊿	7月25日㊿	不明
場所	不明	愛宕神社神楽殿	愛宕神社神楽殿	愛宕神社神楽殿	不明
演目名称 (団体名)	不明	山野舞(天降り) (本郷神楽保存会) 天の岩戸開き (熊田倉神楽会) 一ノ谷合戦 (市之通神楽会) 高山掃部長者興亡記 (笹谷流曾慶代々神楽会) 一ノ谷合戦 (砂子田神楽会) 信田ヶ森 (増沢神楽保存会) 一ノ谷合戦 (布佐神楽保存会) 鬼一法眼落成記 (浜横沢神楽会) 一ノ谷合戦 (大籠神名流神楽会) 天之叢雲大蛇切 (愛宕神楽同好会) 日本武之尊「宝剣たばかりの段」 (上大籠倭神楽会)	式舞(鳥舞、三番叟、三韓くずし、メ縄切の舞) (峠山伏神楽) 天の岩戸開き (本郷神楽保存会) 源氏再興の段 (大籠神楽保存会) 天の岩戸開き (笹谷流曾慶代々南部神楽) 羽衣 (熊田倉神楽会) 小敦盛 (猿沢下猿沢南部神楽) 信田ヶ森 (増沢神楽保存会) 三熊の大人退治 変化の場 (愛宕神楽同好会) 高山掃部姫買の場 (奥玉立石神楽会) 天の岩戸開き (布佐神楽保存会)	式舞(鳥舞、三番叟、三韓くずし、メ縄切の舞) (峠山伏神楽) 天の岩戸開き (増沢神楽保存会) 三熊の大人退治 変化の場 (熊田倉神楽保存会) 高山掃部長者より 義実姫買の場 (下猿沢南部神楽保存会) 日光権現 (愛宕神社保存会) 信田ヶ森 (笹谷流曾慶代々南部神楽) 葛の葉子別れ (浜横沢神楽保存会) 田村一代記 (夏山神楽保存会) 牛若丸椿の宮代参 (布佐神楽保存会) 屋島の合戦 (下大籠神楽保存会)	不明
後援団体	不明	千厩町 千厩町議会 千厩町教育委員会 千厩商工会 千厩農業協同組合	千厩町 千厩町議会 千厩町教育委員会 千厩商工会 千厩農業協同組合 横屋酒造株式会社 愛宕神社奉賛会	千厩町 千厩町議会 千厩町教育委員会 千厩商工会 千厩農業協同組合 横屋酒造株式会社 愛宕神社奉賛会	不明
審査員	不明	村上 護朗 蘇武 運一郎	村上 護朗 蘇武 運一郎	村上 護朗 蘇武 運一郎	不明

回数 (和暦)	第6回 (昭和59年)	第7回 (昭和60年)	第8回 (昭和61年)	第9回 (昭和62年)	第10回 (昭和63年)	第11回 (平成元年)	
開催月日(曜日)	7月22日㊿	7月28日㊿	7月27日㊿	7月26日㊿	7月24日㊿	7月30日㊿	
場所	愛宕神社神楽殿	愛宕神社神楽殿	愛宕神社神楽殿	愛宕神社神楽殿	愛宕神楽殿	愛宕神楽殿	
演目名称 (団体名)	式舞 (峠山伏神楽(早池峰大償野口齊部流)) 天の岩戸開き (夏山子供神楽) 天叢雲宝剣由来記 三熊退治(前編) (増沢神楽保存会) 松浦佐世姫東下り (曾慶代々神楽) 宝剣納め (大和三輪流西風神楽) 岩戸開き (愛宕神楽保存会) 屋島の合戦 (下大籠神楽) 鬼一法眼「後編」 (浜横沢神楽) 高山掃部長者より 義実・佐与姫道中の場 (下猿沢南部神楽) 屋島の合戦 (布佐神楽保存会) 御神酒売り (浜横沢神楽) 一ノ谷嫩軍記 (気仙沼市 古町神楽)	山野舞(サンヤ)天下り (本郷神楽保存会) 一ノ谷合戦 (曾慶代々神楽) 鐘巻(道成寺) (峠山伏神楽) 龍神舞 (増沢神楽保存会) 鶏舞 (津谷川神楽保存会) (天女)羽衣 (天狗田代々神楽保存会) 三熊の大人 変化の場 (愛宕神楽保存会) 高山掃部長者より 身御供打ち明けの場 (下猿沢南部神楽) 鬼一法眼(後編) (浜横沢神楽) 田村一代記 (夏山神楽) 楠公(父子の別れから、湊川合戦まで) (布佐神楽) 一ノ谷合戦 (夏山神楽) 玉織姫捨て子の場 (下大籠神楽保存会) 五條の橋 弁慶牛若丸出合の場 (古町神楽)	注連切 (峠山伏神楽) (天女)羽衣 (大木神楽) 一ノ谷合戦 (下大籠神楽) (天女)羽衣 (浜横沢神楽) 五大領四節分 (愛宕神楽) 鳥舞 (つくし子供神楽会) 高山掃部長者より 身御素戔之鳴尊都入り (増沢神楽) 田村一代記 (夏山神楽) 高山掃部長者より 身御供打ち明けの場 (下猿沢南部神楽) 天の岩戸開き (布佐神楽) 天の岩戸開き (布佐神楽) 一ノ谷合戦 (気仙沼古町神楽) 踊・お吉物語 (浜横沢神楽)	天の岩戸開き (浜横沢神楽) 日光権現 (市之通神楽) 赤木退治 (大木神楽) 鳥舞 (野子供神楽) 八岐の大蛇 大蛇切り (西風神楽) 日光権現 (愛宕神楽保存会) 宝剣由来記の内 三熊退治 (増沢神楽) 安部ノ保名 葛ノ葉再会の場 (夏山神楽) 天王舞 (峠山伏神楽) 高山掃部長者物語より「佐与姫、母再会の場」 (下猿沢南部神楽) 玉織姫 童児捨子の場 (布佐神楽) 一ノ谷合戦 (下大籠神楽) 日光権現 赤鬼退治 (古町神楽)	三神楽 (市之通神楽保存会) 羽衣 (曾慶代々神楽保存会) 弁慶安宅ノ関 (夏山神楽保存会) 道成寺 (増沢神楽保存会) 掃部長者物語より「三沢御前大蛇の巻」 (下猿沢南部神楽保存会) 鞍馬山 (大木神楽保存会) 一ノ谷合戦 (浜横沢神楽保存会) 安宅の関 (夏山神楽保存会) 羽衣 (天狗田代々神楽保存会) 五大領四節分け (増沢神楽保存会) 信田ヶ森参拝の場 (愛宕神楽保存会) 法道丸母との対面 (布佐神楽保存会) 楠公桜井駅の別れ (花泉白浜神楽) 皆鶴姫ゆり上げ漂着の場 (富沢神楽)	四弓の舞 (峠山伏神楽保存会(早池峰大償野口齊部流)) 羽衣 (曾慶代々神楽保存会) 蘇民将来 (愛宕神楽保存会) 法童丸父と対面の場 (布佐神楽保存会) 松浦長者観世音申子の巻(1) (下猿沢南部神楽保存会) 羽衣 (浜横沢神楽保存会) 安宅の関 (夏山神楽保存会) 五大領四節分け (増沢神楽保存会) 法童丸母子の対面 (富沢神楽) 楠正成首送りの場 (白浜神楽)	(財)岩手県文化振興事業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村 室根村各町村長 各町村議会 各町村教育委員会
審査員	蘇武 運一郎 黒沢 貞雄	村上 護朗 蘇武 運一郎 蘇武 栄登 小岩隼人 昆野 昌	-	村上 護朗 蘇武 運一郎 蘇武 栄登 昆野 昌 長沢 完治	村上 護朗 蘇武 運一郎 蘇武 栄登 蘇武 昌 小岩 隼人	村上 護朗 蘇武 運一郎 蘇武 栄登 蘇武 昌 小岩 隼人	

東磐井郡下神楽大会歴代プログラム (主催:東磐井郡下神楽大会実行委員会)

回数 (和暦)	第12回 (平成2年)	第13回 (平成3年)	第14回 (平成4年)	第15回 (平成5年)	第16回 (平成6年)
開催月日(曜日)	7月22日㊿	-	7月19日㊿	-	7月24日㊿
場所	愛宕神楽殿	-	愛宕神楽殿	-	愛宕神楽殿
演目名称 (団体名)	白露 (天狗田代々神楽保存会)	鶏舞 (天狗田神楽保存会)	笛分けの舞 (猿沢峠山伏神楽保存会)	天王の舞 (峠山伏神楽保存会)	笛分け舞 (峠山伏神楽保存会)
	天の岩戸開き (増沢神楽保存会)	信太の森仇討の場 (増沢神楽保存会)	法童丸母子対面の場 (夏山神楽保存会)	羽衣 (津谷川神楽保存会)	牛若丸 法懸の場 (下大籠神楽保存会)
	叢雲の巻 (曾慶代々神楽保存会)	信太の森親子対面の場 (曾慶代々神楽保存会)	五條の橋出合いの場 (気仙沼 古町神楽保存会)	小敦盛 (下猿沢南部神楽保存会)	信田の森 保名参詣の場 (増沢神楽保存会)
	叢雲の大蛇斬 (愛宕神楽保存会)	一の谷合戦の場 (浜横沢神楽保存会)	五條の橋出合いの場 (富沢神楽保存会)	河津三郎祐泰最後の場 (花泉白浜神楽)	壇の浦 扇的打ちの場 (富沢神楽保存会)
	笛分けの舞 (猿沢峠山伏神楽保存会)	松浦長者親世音申し子 (下猿沢神楽保存会)	日光権現 (愛宕神楽保存会)	日本武尊 (愛宕神楽保存会)	龍神舞 (愛宕神楽保存会)
	安宅の関 (夏山神楽保存会)	高山掃門長者 (愛宕神楽保存会)	一の谷敦盛の初陣 (津谷川神楽 千代ヶ原 正遊会)	法童丸母子対面の場 (一関富沢神楽保存会)	羽衣 (達谷窟毘沙門神楽)
	曾我兄弟 (布佐神楽保存会)	壇ノ浦扇的打ちの場 (富沢神楽保存会)	一の谷合戦 (浜横沢神楽保存会)	五條の橋 (夫婦神楽保存会)	一の谷合戦の場 (夏山神楽保存会)
	曾我兄弟仇討の場 (富沢神楽)	義経椿ヶ宮代参の場 (白浜神楽保存会)	信田ヶ森 (増沢神楽保存会)	弁慶母と対面の場 (中野神楽保存会)	法童丸父と対面の場 (中野神楽保存会)
	安部保名捕われの巻 (白浜神楽)	一の谷合戦の場 (気仙沼古町神楽保存会)	安部保名捕われの場 (白浜神楽保存会)	岩長姫宝剣盗取りの場 (達谷窟毘沙門神楽)	玉織姫童子捨子の場 (布佐神楽保存会)
		四弓 (峠山伏神楽保存会)		三熊退治 (増沢神楽保存会)	平敦盛妻別れ (白浜神楽保存会)
	三宝荒神 (布佐神楽保存会)		屋嶋の合戦 (下大籠神楽保存会)	敦盛首討ちの場 (岡谷地神楽保存会)	
	権現舞 (峠山伏神楽保存会)		一の谷合戦 (布佐神楽保存会)	鶏舞 (中日向鶏舞保存会)	
			法童丸 (夏山神楽保存会)		
後援団体	(財)岩手県文化振興事業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村各町村長 各町村議会 各町村教育委員会	-	(財)岩手県文化振興事業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村各町村長 各町村議会 各町村教育委員会	-	日本芸術文化振興会 (財)岩手県文化振興事業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村各町村長 各町村議会 各町村教育委員会
審査員	村上 護朗 蘇武 運三郎 蘇武 栄登 昆野 昌 小岩 隼人	-	村上 護朗 蘇武 運三郎 蘇武 栄登 昆野 昌 佐藤 寿人	-	村上 護朗 蘇武 運三郎 蘇武 栄登 昆野 昌 西城 周郎

第17回 (平成7年)	第18回 (平成8年)	第19回 (平成9年)	第20回 (平成10年)
7月30日㊿	7月21日㊿	7月27日㊿	7月26日㊿
愛宕神楽殿	愛宕神楽殿	愛宕神楽殿	愛宕神楽殿
式舞 鶏舞 (中日向鶏舞保存会)	楠正成合戦の場 (大籠神楽保存会)	三番叟 (夏山神楽保存会)	岩戸開き (里前神楽保存会)
岩戸入り (達谷窟毘沙門神楽保存会)	一ノ谷 (夏山神楽保存会)	一の谷首取りの場 (大籠神楽保存会)	機織り舞 (峠山伏神楽保存会)
天の岩戸開き (増沢神楽保存会)	本岩戸開き (白浜神楽)	掃部長者物語 高山姫 買いの段 (野神楽(女性の部))	曾我兄弟元服と母の形見 分け (沼崎神楽保存会)
一の谷敦盛の初陣 (津谷川神楽千代ヶ原正 遊会)	三熊退治変化の場 (愛宕神楽保存会)	石童丸 (沼崎神楽)	田村一代 (夏山神楽保存会)
安宅の関 (夏山神楽保存会)	重忠と対面の場 (米山町栗ヶ先神楽保存 会)	日本武之尊草薙之宝剣奉 納 (本郷神楽保存会)	天之叢雲之宝剣由来記の 内八岐之大蛇退治 (本郷神楽保存会)
一の谷合戦 (浜横沢神楽保存会)	鐘巻 (峠山伏神楽保存会)	天王の舞 (峠山伏神楽保存会)	牛若丸奥州登り (大籠神楽保存会)
高山掃部長者 (愛宕神楽保存会)	くずの葉子別の場 (津谷川神楽千代ヶ原正 遊会)	一の谷 (布佐神楽保存会)	屋島合戦(継信の最後) (富沢神楽保存会)
翁舞 (峠山伏神楽保存会)	屋島の合戦の場 (富沢神楽保存会)	曾我兄弟陣屋巡り (白浜神楽)	屋島合戦(扇的) (布佐神楽保存会)
屋島合戦の場 (岡谷地神楽保存会)	法童丸魂魄の父に逢う場 (布佐神楽保存会)	掃部長者物語(母娘別れ の段) (里前神楽保存会)	楠正成桜井の別れ (白浜神楽保存会)
羽衣 (下大籠神楽保存会)	参番叟 (磐井里神楽保存会)	日本武尊 (愛宕神楽保存会)	安部の保名捕われ (増沢神楽保存会)
壇ノ浦 扇的打ちの場 (富沢神楽保存会)	安部保名捕われの場 (沼崎神楽保存会)	源義経軍勢借り (登米町岡谷地南部神楽 保存会)	天の岩戸開き (愛宕神楽保存会)
五大領(四季分け) (本郷神楽保存会)	赤沢山祐泰遠失の場 (中野神楽保存会)	曾我兄弟父の仇討ち (富沢神楽保存会)	小袖曾我 (中野神楽保存会)
源義経 壇ノ浦 (白浜神楽保存会)		道成寺 (増沢神楽保存会)	
法童丸母と対面 (布佐神楽保存会)		田村二代 (中野神楽)	
義経、中尊寺月見坂の受 難 (中野神楽保存会)			
日本芸術文化振興会 (財)岩手県文化振興事 業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村 各町村議会 各町村教育委員会	日本芸術文化振興会 (財)岩手県文化振興事 業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村 各町村議会 各町村教育委員会	日本芸術文化振興会 (財)岩手県文化振興事 業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村 各町村議会 各町村教育委員会	日本芸術文化振興会 (財)岩手県文化振興事 業団 千厩町 大東町 藤沢町 東山町 川崎村 室根村 各町村議会 各町村教育委員会
村上 護朗 蘇武 運三郎 蘇武 栄登 昆野 昌 西城 周郎	-	村上 護朗 蘇武 運三郎 蘇武 栄登 昆野 昌 西城 周郎	村上 護朗 蘇武 運三郎 蘇武 栄登 昆野 昌

岩手県一関市文化財調査報告書第5集

南部神楽調査報告書

発行 平成 28 年 3 月 31 日

発行・編集 一関市教育委員会

〒 021-8501

岩手県一関市竹山町 7-2

電話 0191・21・2111 (代)

印刷 川嶋印刷株式会社

〒 029-4194

岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原 21

電話 0191・46・4161 (代)

